

す の 部

「ずるずるとすきずる。」

すきずれ (名)〔平、由〕 自由結婚。

すきてね (形)〔平〕 嫌ひだ。

「すきでね。人だ。」

すきばら (名)〔仙〕 くらうふく(空腹)。

すぎる (動上二)〔平〕 死する。

「お祖父さんはおすきになつたさうですな。」

すぐたまる (動四)〔雄〕 すくむ、すくまる (萎縮)。

「寒くてすぐたまって居た。」

すぐだまる (動四)〔平〕 身をちぢめる。

「猫が隅にすぐだまって居た。」

すくと (副)〔山、南〕 さっそく(早速)

「言ひつけられたらすぐと行け。」

すぐなす (名)〔平〕 意氣地なし。

すぐね (形)〔由〕 ひくつな(卑屈な)。

童の廻して遊ぶ獨樂の一種。こまつぶり。

ずぐり (北、市、雄) 獨樂の一種。

すぐる (動四)〔平〕 すくふ。

「手で水すぐる。」

すぐる (動四)〔平〕 身をもがくこと。

「押へられてからは、いくらすぐってもだめだ。」

すーぐ (名)〔雄〕 すいく(西瓜)。

すぐわん (名)〔山〕 西瓜。

すけ (形)〔南、河、仙、雄、平、由〕 すっぱい。

「ああすけ蜜柑だ。」

すけすけ (名)〔雄〕 かたばみ。

ずげだ (接尾)〔雄〕 さうだといふ話だ。

「来るずげだ。」

すけのこび (名)〔雄〕 びり(末尾)。

すける (動四)〔由〕 手傳ふ。

す の 部

「すぐね子供である。」

すぐねらがす (動四)〔平〕 しくじる。

「書方を、すぐねらがす。」

すぐねる (動下一)〔北〕 ぐづぐづいふ。

「何時までもすぐねる奴だ。」

すぐねる (動下一)〔雄〕 あせる。

「馬がすぐねてつかまへられない。」

すぐべ (名)〔市、仙、由〕 つくし(土筆)。

ずくべ (名)〔市、由〕 土筆。

ずくべ (名)〔平、雄〕 つくし(土筆)。

ずぐんべ (名)〔河〕 つくし(土筆)。

すぐみ (名)〔南、市、河、仙、平、雄〕 れんげ、ち

りれんげ(匙)。

すぐらんげる (動下一)〔平〕 すくひあげる。

「お汗のみをすぐらんげる。」

ずぐり (名)〔南、市、河、平、由〕 圓錐形にて兒

すげる (動四)〔雄〕 はめる。

「下駄の齒をすげる。」

ずこ (名)〔平〕 老爺。

すーこ (固)〔河〕 するこ(推古)

すこぐる (連)〔市、平〕 すりむく。

「脛をすこくた。」

すこたま (副)〔副〕〔平〕 大そろ。

「すこたま雪が降つた。」

すこだま (副)〔北、平、雄〕 非常にきびしく。

「すこだま叱つてやった。」

すこたん (名)〔雄〕 べてん。

「すこたん食はせられた。」

ずごど (連)〔雄〕 といふこと。

「行くずごどない。」

すこもこする (連)〔市、平〕

「臺所ですこもこする。」

すの部

すごやか(名)(雄) すごやか(健)。
 ずさ(名)(平) 老爺。
 ずさき(名)(平) えごの木。
 ずさま(名)(平) 老爺。
 すじくせわり(連)(北) 悪癖を有する。
 「すじくせ^あわるくて飲めばこぼす。」
 すんじゃ(名)(河) ひざ(膝)。
 ずず(名)(平) 泉。
 ずず(名)(山、市、雄、由) とくり(徳利)。
 ずず(名)(由) 壘。
 すんず(名)(河、雄) とくり(徳利)。
 すんず(名)(南、河、仙、雄、由) 泉。
 ずんず(名)(平) 祖父老爺。
 ずずまにする(連)(平) 儉約する。
 「あの人^あすまにする人だ。」
 すすみで(名)(山) 納涼臺。

すすみで(名)(平) すずみだい(納涼臺)。
 すずめだか(名)(由) はやぶさ(隼)。
 すずれ(名)(仙) 硯。
 すそ(名)(平、雄) しそ(紫蘇)。
 すそかぜ(名)(北) 産褥熱。
 すだ(名)(南) しひな(糍)。
 すたぎ(名)(平) 唾。
 すたぐらげ(名)(平) 尻をはしをること。
 ずだこき(名)(平) 放蕩者。
 すたこと(連)(由) そんなこと。
 「すたことやれないか。」
 すた^ただこと(連)(由) そんなこと。
 「すた^ただことするものでない。」
 すたつ(名)(平) 二つ。
 すたども(接)(平) さうだけれども。
 「雪は止んだ。すたども寒い。」

すの部

すたばし(接)(山) 然るに。
 「轉んだ、すたばし^し傷つけた。」
 すたはんで(接)(平) それゆゑに。
 「すたはんで注意すたのだ。」
 すだみ(名)(仙) 匙。
 すたら(接)(平) そんなら。
 「雪が降って來ましたか、すたら行くのを止めよう。」
 すたらけ(形)(河) しつこく。
 「すたらけ奴だ。」
 すったり(副)(平) 皆。
 「すったり食った。」
 ずったり(副)(仙、平) 始終。
 「ずったりうそを言ふ。」
 すったれ(副)(由) こことごとく。
 「すったれ無くなった。」

すち(代)(雄) そちら(其方)。
 ずんち(名)(平) 祖父。
 ずっちゃ(南、平) おぢいさん(阿爺)。
 すちまかちま(副)(平) あべこべ。
 「それはすちまかちままだ。」
 ずつつ(名)(平) 祖父。
 ずつつ(名)(平) 老爺。
 ずてこぐ(副)(北、市、河) まるで。
 「あの人からずてこぐ便りがない。」
 すてでんこ(名)(北) 片足跳ねの遊び。
 すてんてんに(副)(雄) 何も無い。
 「すてんてんに無くした。」
 ずと(接尾)(雄) と同時に。
 「朝起きだすと勉強した。」
 すいと(名)(河) ひと(人)。
 ずと(副)(市) 物事の他にぬきんでた状にい

すの部

ふ。

「あつと以前に出来た。」

すーどー (名)〔雄〕 すぬだう (水道)。

すーどー (名)〔河〕 すぬだう (水道)。

すとつ (名)〔平〕 一つ。

すとる (動四)〔雄〕 そる (反る)。

「首をすとれ。」

すな (名)〔平〕 糞。

すな (形)〔平〕 ありがたい (有難)

「すななす。」

すなおどり (名)〔雄〕 かはせみ。(魚狗)

すなごどり (名)〔雄〕 かはせみ (魚狗)

すなすだ (副)〔平〕 甚。

「此の筆はすなすだよ。」

すなすに (副)〔平〕 甚。

「此の染物すなすによ。」

すばずんぐ (連)〔平〕 爲る (罵りいふ語)。

「そんなことをすばずんぐか。」

ずんばにつぐ (連)〔平〕 貧乏の極點に達する。

「あの家はよぐよぐずんばにつぐところだ。」

すばらしね (形)〔南〕 騒々しい。こすばらし

50

「隣の家では、すばらしね音する。」

すんばらしね (形)〔河〕 騒々しくてうるさい。

「此の子供達はすんばらしね。」

ずっぱり (副)〔鹿、南、市、河、仙、平、雄〕 たくさ

ん (澤山)。

「御飯がずっぱり残った。」

すばる (引) 引張る。

「袖すばる。」

ずばん (名)〔平〕 じゅばん。

ずばん (名)〔河〕 じゅばん (襦袢)。

すの部

すなびる (動四)〔由〕 しなぶる (舐)。

「母の乳をすなびる。」

すなる (動四)〔平〕 しなふ。

「竹がすなる。」

すね (形)〔平〕 情のあること。

「あの子すね子だ。」

すねから (名)〔鹿、北〕 脛。

すねくる (動四)〔河〕 あせる (焦慮)

「赤坊は玩具をとらうとしてすねくる。」

すねもねする (連)〔平〕 躊躇する。

「何時まですねもねする。」

すっぱ (名)〔市、平〕 尾。

すんぼこ (名)〔由〕 寸白 (男子生殖器病)。

すばし (名)〔平〕 火ばし。

すばずぐ (連)〔平〕 爲る (罵りいふ語)。

「何すばずぐ。」

因云、正しくはジバンで、襦袢は音譯の宛字に

過ぎないのである。

すび (名)〔市、雄〕 すべ (術)。

すんび (名)〔南、河、平〕 術。

すびたれ (名)〔平〕 吝嗇。

すびり (名)〔平〕 しびれ (痺)。

すふり (名)〔河〕 据風呂。

すふる (名)〔由〕 据風呂。

すっぺ (形)〔平、雄〕 りんしょくな。

「すっぺ奴だ。」

すぺこ (名)〔鹿〕 おしまひ (終)。

すぺさがり (名)〔北〕 めじりの下ったもい。

すべし (名)〔平〕 俳優。

ずんべら (名)〔平〕 なまけもの。

ずほ (名)〔市、河、仙、平、雄〕 うそ (嘘)。

ずっぱ (名)〔平〕 筒袖。

ずほこぎ (名)〔平〕 虚言者。
ずほこぐ (動四)〔雄〕 虚をつく。

「ずほこぐな。」

ずほーしよ (名)〔雄〕 ずゐはっしやう(瑞寶章)
ずほまけ (名)〔北〕 うそつき。

ずほまげる (連)〔鹿、仙、雄〕 うそをつく。

「あの人はずほまげだ。」

すっぽろりん (名)〔雄〕 零落姿。

すま (名)〔市、河〕 すみ(隅)

すま (名)〔平〕 ひま(閑)。

すんま (副)〔北、南、河〕 ぢき。(直)

すんま (名)〔南〕 すみ(隅)

すまから (連)〔市、河〕 匂々。

「正月すまから。」

すまこ (南市、仙、平、雄、由) 隅。

すまっこ (名)〔市、仙〕 隅。

ずみ (形)〔平〕 質實。

「あの人は奢らないでずみだ。」

すみぎ^ヤする (連)〔雄〕 すむ(住む)。

「土地が狭隘になって人がすみぎ^ヤするに困難
になった。」

すみす (名)〔南、市〕 おしめ。

すみたれ (名)〔平〕 すびたれ。

すみどふ (名)〔雄〕 こほりどうふ(水豆腐)

すみる (動四)〔南、市、雄〕 こほる(凍る)。

「手が、すみる様だ。」

すも (名)〔市、雄〕 相撲。

すもう (動四)〔平〕 泌みる。

「風が身にすもう。」

すもの (名)〔雄〕 すひもの(吸物)。

ずらと (副)〔市、仙、平、雄〕 平気で。

「あの人はずらととしてゐる。」

すらは(接)〔雄〕 するなら。

「参考にすらば本を貸してやる。」

ずらり (副)〔由〕 平然。

「蛙は水をかけられてもずらりとしてる。」

ずらりふぐんべ (名)〔平〕 知らぬ風にて平気で

居ること。

ずり (接尾)〔雄〕 づつ(宛)。

「机に二人ずり坐る。」

ずりこ (名)〔雄〕 しぶとい事。

ずりこげ (名)〔平〕 すりこぎ(播粉木)。

ずりよく (名)〔仙、平、由〕 すゐりよく(水力)。

するし (名)〔鹿〕 すりうす(摺臼)。

するんし (連)〔雄〕 します。

「今するんし。」

ずるしけ (名)〔山〕 ずるいやつ。

するじど (連)〔仙〕 すると。

「何々をするじどしかられるぞ。」

するす (名)〔北、平、雄〕 摺臼。

するどど (接)〔雄、由〕 すると。

「さらするどど死んでしまふ。」

するにえんたもんだ (句)〔平〕 することが出来
るやうなものです。

「おれだって勉強すればするにえんたもんだ。」

するめ (名)〔山〕 ほら(鱈)。

ずれ (形)〔山、仙、平、由〕 ずる。

「ずれ事するな。」

ずれ^ホ (形)〔雄〕 にく^ク(爲すに難い)。

「堅くて食いずれ^ホ。」

すれからし (名)〔動)〔平〕 悪ずれした者。

ずれ^トと (副)〔仙〕 じろりと。

「ずれ^トと見る。」

すれる (動下)〔市、河、仙、雄〕 饅える。

すの部

「時候が悪くてみんな物がすれる。」
ずろい(形)(雄) ずるい。

「ずろい人。」

すわる(動四)(平) たゆむ。

「竹がすわる。」

ずーろ(名)(河) 若枝(新條)。

すんぎく(名)(河) しんぎく(春菊)。

ずんぎり(名)(由) 煙草入れ。

ずんぐる(動四)(南、河、平) あばれる。

「ずんぐる小供だ。」

ずんじょ(副)(南、仙) 必ず。治定。

「あれはずんじょえらくなるな。」

すんつこ(名)(平) 陰莖(幼児の)。

すんべー(名)(平) 形短靴の如きものにて、藁にて作り、緒にて結んで、雪中に用ひるもの。

すんぺこ(名)(平) 竹木の梢。

せの部

せ(名)(市、河、仙、雄) おかづ。(副食物)

せ(接)(平) な。

「そしてせ。」

せ(接)(鹿、市、河) ねえ。

「あのせ。」

せ(名)(市) 田舎(在)。

せ(接)(平) ぞよ。

「山へ行くぜ。」

せいふる(動四)(平) せいを出す。

「仕事にせいふる。」

せがず(名)(平) さいかち(皂角子)。

せがり(名)(鹿、北) ほねつぎ(骨接師)。

せぎ(名)(由) 塚。

せきあらし(名)(雄) しゃも。(鬮雞)

せきだ(名)(市、由) せった。(皮鞋) 案ずるにせ。

せの部

た、却ってせきだの訛か。

せぎど(名)(南、仙、由) せきひ、石碑。

せぎり(名)(市) 赤痢。

せっきり(副)(平) 大いに。

「せっきり苦勞した。」

せぐ(動四)(鹿) 急ぐ。

「間違つてはならぬからせくな。」

せぐ(名)(河) 牝馬。

せげ(名)(平、雄) 溝小川。

せげど(名)(平) せきたふ(石塔)。

せげど(名)(北) 水屋尻。

せげばれ(名)(平) せきばらひ。

せまご(名)(山、仙、雄) 田舎。

せまご(名)(仙) おかづ(副食物)。

せあんご(名)(南、市、河、平) 在郷、田舎。

せまご(名)(山) おかづ。

せまご(名)(雄) なまけもの。

せまご(名)(鹿) 骨をしみ。

せまご(名)(仙) 促す。

「いくらせまごかけても少しも勉強しない。」

せまご(名)(平) なまけもの(怠け者)。

せまご(動)(平) 怠る。

「あの人は毎日せまごがす。」

せまご(名)(平) 怠惰者。

せまご(名)(鹿、仙、平) なまけもの。

せまご(名)(平) ゐなからしい(田舎らし)

せまご(形)(平) ゐなからしい(田舎らし)

「この柄せまごくせまご。」

せまご(動下)(平) おくう(億劫) おくこぶ

「せまごけてなかなか立たない。」

せまご(動四)(雄) 熱中する。

「あまりせまごまないで少しやすめ。」

せの部

せしがし(名)〔南、仙、雄〕 なまけるもの。
せじね(形)〔山〕 苦し。

「随分せじねあがった。」

せんし(名)〔鹿〕 さんせう(山椒)。

せしり(名)〔鹿〕 周旋人。

せず(代)〔河〕 そいつ、それ、そのひと、そ
いつら。同等若くは目下の者に使ふ語。

せずぐ(動四)〔平、雄〕 せまる。

「あまりせずぐな。」

せずんびら(代)〔河〕 前に同じ。

せずめる(動下二)〔平〕 責める。

「あの野呂せずめでやれ。」

せずり(名)〔北〕 三百代言。

せそく(名)〔山〕 催促。

せた(動四)〔鹿〕 言った。

「行くてせたらう。」

せつね(形)〔鹿、河、仙、平、雄、由〕 苦しい。

「とても重くてせつね。」

せてが(副)〔鹿〕 それだから。

「悪戯すると彼は怒るせてがやめろ。」

せてぐ(動四)〔鹿〕 つれて行く。

「山へせてぐ。」

せてらけ(連)〔鹿〕 さう言て居った。

「あの人がかうせてらけ。」

せどな(名)〔鹿、山、仙、由〕 せんころ(先頃)。

せえどな(名)〔北、平〕 先達て。

せな(名)〔南、仙、平、雄〕 兄。

せな(接)〔河〕 あのねえ。

「あのせな遊びに行かないか。」

せな(名)〔市、南、仙〕 背。

せな(名)〔北〕 連れ子。

せな(名)〔平、雄、由〕 下水溜。

せの部

せった(連)〔北〕 言った。

「おれはしらないとせったらば皆笑った。」

せだて(名)〔雄〕 先日。

せだて(名)〔平〕 せぬひ(脊縫)。

せだは(接)〔鹿〕 左様だから。

「お前はせだは(接)行かねばならない。」

せたよ(連)〔雄〕 しなさいよ。

「早くせたよ。」

せんだら(名)〔河、仙〕 棧俵。

せんだら(名)〔河〕 棧俵。

せんだら(名)〔仙〕 さんだはら(棧俵)。

せちば(名)〔平〕 はんのき(榛)。

せつえ(形)〔由〕 勢強し。

「あの弟なかなかせつえな。」

せつきたもの(連)〔雄〕 そんなもの。

「せつきたもの、いらぬ。」

せば(接)〔山、平、由〕 さうすると。

「せばかうなわけだな。」

せば(接)〔北〕 さうすると。

「せばどうなるか。」

せばいた(名)〔南〕 俎板。

せばえげ(連)〔平〕 するとようございますか。

「本でもかせばえげ。」

せばこい(形)〔仙、平〕 狭い。

「あのせばこいとこへみんな行った。」

せばしね(形)〔山〕 うるさい。

「お前は常にせばしね。」

せっぱり(名)〔鹿〕 脊瘤。

せばん(名)〔河〕 俎。

せび(名)〔鹿〕 へび(蛇)。

せび(名)〔鹿〕 ぜんそく(喘息)。

せふんじける(動下二)〔河〕 才はじける。入

せ の 部

らぬことにまで世話やく。

「あいつはなにへでもせまふあんどじける。」

せべあ(形)〔平〕 せまく(狭く)。

「此の部屋はせべあ。」

せべあ(副)〔平〕 非常に。

「せべあ世話になった。」

せべへ(副)〔山〕 じふぶん(十分)。

「せべへ働いたところで一日一圓より取れな

50」

せべへ(副)〔鹿、北、市、仙、平、由〕 たくさん(澤

山)。

「せべへ食べた。」

せほしし(名)〔仙、平〕 ほねをしみ(骨惜み)。

せほすす(動四)〔仙〕 おこたる(怠る)。

「早くやってみせまへ、せほすと出来ないよ。」

せみばばば(名)〔平〕 蟬の幼虫、(又はぬけがら)。

「手紙をポストにせれた。」

せろろ(名)〔仙、平〕 倉庫。

せわしねね(形)〔北、南、仙、平、雄、由〕 うるさい。

「餘りせわしねあぐ催促する。」

ぜんん(名)〔由〕 錢。

ぜんきやむむ(連)〔雄〕 心配すること。

「少しの事にもぜんきやむ。」

ぜんここ(名)〔鹿、北、平、雄、由〕 錢。

ぜんここ(名)〔由〕 お膳。

せんしし(名)〔鹿〕 せんすゐ(泉水)(池)。

せんすす(名)〔仙〕 つけ(池)。

せんせせ(名)〔山〕 先生。

せんだいくつつ(名)〔由〕 冬靴の一種。

せんちち(名)〔仙〕 べんじょ(便所)。

せんちんん(名)〔平、雄、由〕 雪隠(便所)。

せんちん(名)〔平〕 べんじょ(便所)。

そ の 部

せむしし(名)〔仙〕 ねこぜ(猫脊)。

せめめ(名)〔山〕 ぜんまい。

せめるる(動下一)〔北〕 せき立てる。

「誂物をせめる。」

せやみみ(名)〔南、仙、雄〕 なまけるもの。

せやみきぎぎ(名)又は(形)〔鹿、山、平、雄〕 なま

けもの(怠け者)。

せやむむ(動四)〔平〕 怠る。

「毎日せやむ。」

せやめるる(動下一)〔雄〕 ものうくなる。

「あまり冷えてせやめるな。」

せやももずず(名)〔平〕 分家。

せやもちちち(名)〔雄〕 べっけ(別家)。

せるる(動下一)〔山、南、仙、平、雄〕 入れる。

「かごに林檎をせる。」

せれるる(動下一)〔鹿〕 入れる(入れる)。

せんつつ(名)〔山、平〕 便所。

せんつんん(名)〔平〕 廁。

せんてて(名)〔鹿〕 ぜんたい、大體。

せんどど(名)〔平〕 家の裏。

せんどななな(名)〔平〕 添加。

せんばば(接)〔平〕 さうすれば。

「かうせんばよいな。」

せんぶぶぐぐ(固)〔市、河〕 せんぼく(仙北)。

ぜんめめ(名)〔平、雄、由〕 ぜんまい(植物)。

◆そ の 部

そーいい(名)〔雄〕 さういふ事。

そーいい(連)〔雄〕 さういふ。

「そーい處へ行けば危い。」

そえがらら(接)〔南〕 それから。

「そえがら、何としたか。」

そえずずず(代)〔南〕 そやつ(其の奴)。

その部

そえすか(接)(河) それこそ。

「そえすか大變だ。」

そかき(名)(由) 冬かこひ。

そーかんす(連)(北) さうですか。

甲「父は東京に行きました。」乙「そーかんす。」

そぎ(連)(雄) さうですか。

「そぎ……: 應答に用ふ。(敬語)。」

そきがる(動四)(雄) そりみになる(反身になる)。

「そきがるて上を見れ。」

そぐなり(名)(平) やくざもの(やくざ者)。

そくなる(動四)(雄) し損ずる、そこなふ。

「あの人は品行が善くないから末がそくなる
ことがあるだらう。」

そぐねる(動下二)(平、雄、由) そこねる(失策)
損じる。

「仕事をそぐねた。」

そっくり(副)(由) 残らず。

「金をそっくり使って死んだ。」

そくある(動下二)(由) そる。

「そくあると危い。」

そんけ(副)(平) そのぐらゐ(その位)。

「そんけしか錢ないのか。」

そーげ(連)(市) さうですか。

甲「支那で戦争がはじまったと。」乙「そーげ。」

そけがた(動四)(平) そりかへった。

「あの人はそけがた。」

そけがる(動下二)(仙) 反り返る。

「そけがると頭をぶつける。」

そんけ(副)(河) そんなに。

「そんけそんけいらない。」

そんけ(副)(河) そんなに。

「そしたば、よくなった。」

そーしたば(接)(仙) さうしたら。

「そーしたば死んだっけ。」

そしてのが(連)(鹿) やってごらん。

「良いスキー穿いたな、そしてのが。」

そしなでば(連)(山) さうしてはなりません。

「子供が駄々こねて傍の物を投げ捨てるとき、

(母)そしなでばというて戒める。」

ぞしやくな(連)(平) ふざけるな。

「そんなに笑ってぞしやくな。」

そし(接)(市、平) さうすると。

「君はこんなことをしたが、そし(ば)叱られる。」

そーし(接)(仙) さうすると。

「そーし(ば)えげね。」

ぞすこ(名)(仙) ざふすぬ(雑炊)。

ぞーすこ(名)(仙) ざふすぬ。

その部

「そんけにいらぬ。」

そけある(動四)(北、雄) そりかへる(反り返る)。

「板がそけあるから日に當てるな。」

そっける(動四)(北) そりかへる。

「日に乾かせば薄板はそっける。」

そご(代)(仙) そこ(其處)。

そごきび(名)(由) そごきみ(底氣味)。

そご(副)(鹿) こっそり。

「誰へもしらせぬからそごご教へろ。」

そこなれ(名)(北) 墮落者。

そごなれ(名)(鹿、仙) 未熟者。

そさ(代)(平) 其所へ。

ぞざね(名)(仙) かんべんはふ(簡便法)。

そしたけ(接)(山) さうしたところが。

「私がさうしたけ父に叱られた。」

そしたば(接)(平、雄、由) 然うしたら。

その部

そーするどろ (接) (平) さうすると。

「そーするどろ勝つ。」

そせ (動さ變) (鹿) さうなさい。

「早くそせ。」

そせば (接) (仙、平、雄) さうすれば。

「そせばこはれる。」

そせんば (接) (雄) さうすれば。

「そせんばかうすれ。」

ぞんぞする (動四) (平) 勞りかしづく。

「ぞんぞしたおかげで大きくな。たな。」

ぞんぞろまんぞろ (副) (河) することなすこと。

「ぞんぞろまんぞろわるいことだ。」

そだ (連) (山、仙) 左様でございます。

「それは金魚ですか、そだ。」

そたえんがー (連) (平) そんなにか。

「お菓子こそたえんがー。」

そたんだ (形) (雄) そんな(其の様な)。

「そたんだもの入らない。」

そだたて (接) (南) さうだけれども。

「そだたて錢ないもの。」

そただに (副) (仙) さほど、それほど。

「いくらやすいと言ってもそただにいらぬ。」

そつたに (副) (平) そんなに。

「そつたに要らない。」

そたにがー (連) (平) そんなにか。

「おやそんなにかー。」

そただもの (代) (雄) そんなもの。

「そただもの云ふ事きくな。」

そだんて (接) (山) それだから。

甲「私が先きに悪口を言ひました。」

乙「そだんて、たゞかれたのだ。」

そだても (連) (鹿) さうですよ。

その部

そーだえんて (接) (由) それだから。

「そーだえんて悪いことは出来ない。」

そだえんてがら (接) (平) それだから。

「そだえんてがら止めれ。」

そだけが (連) (雄) さうでしたか。

「そだけが私すっかり忘れて居た。」

そだし (連) (北) さうです。

「そだし其の通りです。」

そだじ (連) (北) さうだといふ。

「そだじ、話だ。」

そだしべね (連) (北) さうでせう。

「そだしべね、それは正當であるから。」

そだしんて (接) (雄) それだから。

「そだしんてやめれば良いのに。」

そだすべ (連) (市) さうでせう。

「そだすべ、あの人金持だもの。」

「それはそだでも。」

そだてがい (連) (山) さうでありましたか。

甲「昨夜小川村に火事があったさうだ。」

乙「そだてがい。」

そだてげ (連) (市) さうですか。

「おやーそだてげ。」

そだてば (連) (由) さうですよ。

「うん、うん、そだてば。」

そだども (接) (北) さうだけれども。

「そだども餘り寒ければ否だ。」

そだなんし (連) (雄) さうですね。

「本當にそだなんし。」

そーだなんし (連) (雄) さうですな。

「ほんとにそーだなんし。」

そだねは (市) さうですね (人に聞く場合もある)。

その部

「ほんとそだねは。」
 そだべ(連)〔山、市、雄〕 さうでせう。
 「うんそだべ。」
 そたべ(副)〔北〕 そればかり。
 「そたべまくくれたか。」
 そだべ(連)〔仙〕 さうだらう。
 「そだべしゃお前の言ふこととははつきりしないから。」
 そだべちゃ(連)〔山、仙〕 さうでせう。
 「そだべちゃ人の言ふこをもきかぬからだ。」
 そつたもの(代名)〔雄〕 そんなもの。
 そーだやつ(副)〔北〕 さうだのに。
 「そーだやつあの人はさうでないといふ。」
 そだら(接)〔平、由〕 そんならば。
 「そだら行くことにしようか。」
 そーだんし(連)〔雄〕 さうです(左様です)。

「さうですか、そーだんし。」
 そだんす(連)〔鹿、仙、雄〕 さうです。
 「今日役場へ行くか。そだんす。」
 そーだんす(連)〔仙〕 さうです。
 「これはあなたの本でせう、はいそーだんす。」
 そだんてから(接)〔仙〕 それ故に。
 「お前はそだんてから落第したのだ。」
 そち(代)〔市〕 そちら。
 そちち(代)〔雄〕 そちら
 そちち(連)〔鹿〕 むかふへ(向ふへ)。
 「お前のやうなものはそちちちむけ。」
 そちちち(副)〔南、仙、平、雄〕 そちちへ。
 「そちちち行け。」
 そつくたもの(代)〔雄〕 そんなもの。
 そつて(連)〔北〕 背負うて。
 「そつて行く。」

その部

そて(名)〔北、由〕 最初。
 そてあんす(連)〔市〕 さうであります。
 さうです。
 「君は兄さんですか、そてあんす。」
 そてごあんす(連)〔由〕 さうでございます。
 「あれがそてごあんす。」
 そてこ(名)〔仙〕 そて(袖)。
 そてたこと(代)〔由〕 そんなこと。
 そてなし(名)〔仙〕 はっび(法被)。
 そてね(連)〔市、平、由〕 さうでない。
 「君は先生ですか、そてね。」
 そてねがすべ(連)〔市〕 さうでないでせう。
 「それはそてねがすべ。」
 そてねしか(副)〔仙〕 さなきだに。
 「そてねしか仕事はいやなものだ。」
 そどめ(名)〔由〕 あやめ。

そなたり(代)〔平〕 そのあたり(其の邊)。
 そに(名)〔雄〕 ざふすむ(雑炊)。
 そね(名)〔市〕 かがみもち(鏡餅)。
 そのかて(副)〔河〕 その代り。
 「そのかてこれをお前にくれる。」
 そば(名)〔鹿、市、河、仙、平、雄〕 出齒。
 「そばな娘だ。」
 そひ(名)〔雄〕 草木の外皮。
 そっびね(形)〔市、由〕 あぢきなし(味氣無)。
 「そっびね人だ。」
 そっびゃ(形)〔鹿、山〕 鹽辛い。
 「今日のお汁はそっびゃ。」
 そっびゃない(形)〔雄〕 お粗末だ。
 「どうもそっびゃなくて。」
 そっびゃねお(形)〔平、雄〕 あわけない。
 「本當にそっびゃねお。」

その部

そ^っびやね^ま (形)〔仙、平〕粗末な待遇。
 「何んにもなくてそ^っびやね^ま。」
 そ^っびやね^え (動下二)〔雄〕構はない、愛想ない、
 そ^っきやな^く。
 「そんなことそ^っびやね^ま。」
 そ^べ (名)〔鹿、北〕せうべん(小便)。
 そ^べけね^お (形)〔河〕そ^っけない、粗末だ。
 「そ^べけね^お人だ。」
 そ^べじ^ゃ (名)〔山〕せうべんじ^ょ(小便所)。
 そ^べね^お (形)〔河、雄〕そ^っけない、粗末だ。
 「あんまりそ^べね^ま。」
 そ^べね^おんし (名)〔北、平〕おそまつ(お粗末)。
 そ^へんば (接)〔河〕さうすると、さうすれば。
 「そ^へんばいけな^く。」
 そ^べる (動四)〔雄、由〕あまえふざける。
 「そ^べるな。」

そ^っぼ (名)〔仙、平、雄、由〕頬。
 そ^ーめんこ (名)〔雄〕すぎな。
 そ^もち (名)〔山〕書物。
 そ^ーやく (名)〔由〕牝馬。
 そ^やして (接)〔平〕さうして。
 「そ^やしてから又別方面に活動した。」
 そ^やて (接)〔河、平、雄〕さうして。
 「そ^やて次にはこれだ。」
 そ^ゆ (名)〔鹿、北〕醤油。
 そ^ーゆ (名)〔鹿〕し^ゃうゆ(醤油)。
 そ^よこ (名)〔山〕醤油。
 そ^らて (副)〔仙〕暗記して。
 「書物をみんなそ^らでおぼえた。」
 そ^りが^っば (名)〔仙〕雪すべり下駄。
 そ^る (動四)〔鹿〕背負ふ。
 「荷物をそ^る。」

その部

それ^ま (代)〔市〕それは。
 それ^ま (代)〔平〕それは(其れ)。
 「それ^ま困った人だ。」
 それ^ぐす (接)〔河〕それこそ。
 「それ^ぐす大變だ。」
 それ^ぐすか (接)〔河〕それこそ。
 「それ^ぐすか大變だ。」
 それ^ごしら (接)〔山〕それこそ。
 「それ^ごしら難い本だ。」
 それ^ごすか (接)〔市〕それこそ。
 「それ^ごすか大變だ。」
 それ^さ (連)〔市、平、雄〕それに。
 「紙に線を引き、それ^さ書け。」
 それ^すか (接)〔河〕それこそ。
 「それ^すかをかしいことだ。」
 それ^おど (名)〔鹿〕そのひとたち(其人等)。

それ^なんだば (連)〔山〕それなんですか。
 「お前それ^なんだば。」
 それ^んびた (副)〔河〕そればかり。
 「それ^んびたやめろ。」
 そ^ーろ^ぐする (動)〔平〕相應する。
 「そ^ーろ^ぐすた夫婦だ。」
 そ^ろびる (動四)〔雄〕ひぞる(乾いて反る)。
 「原表紙がそ^ろびた。」
 そ^んげ^おそ^んげ^お (副)〔由〕そんなに。
 「そ^んげ^お〜貰って。」
 そ^んころ (副)〔雄〕そのくらゐ(其位)。
 「そ^んころ勉強したら入學試験に合格するだ
 らう。」
 ぞ^んじ^ゃる (動)〔雄〕さわぐ(騒ぐ)巫山戯。
 「其んなに人にぞ^んじ^ゃるもんで無いよ。」
 そ^んた (形)〔代)〔鹿〕そんな。

その部

「そんなもの投げてしまへ。」
 そんだたて〔接〕〔雄〕 さうだって、それだって。
 「そんだたて私はさうは思はなかつた。」
 そんたに〔副〕〔北、市〕 そんなに。
 「そんたに困って居るか。」
 そんたばこ〔副〕〔市〕 そんなばかり（そんな許り）。
 「そんたばこしくじったって何程のことがあ
 る。」
 そんだべが〔連〕〔平〕 さうでせうか。
 「ほんたうにそんだべが。」
 そんだべもの〔連〕〔平〕 大方さうだらう。
 「そんだべものあ奴だって馬鹿なもの。」
 そんたもの〔代〕〔山〕 そんなもの。
 そんたら〔形〕〔鹿〕 そんな。
 「そんたら安物は直ぐ壊れる。」

そんま〔副〕〔山、市、河、仙、平、雄、由〕 ぢきに

（直きに）。

「そんま歸るから留守をしてくれ。」

そんまが〔副〕〔仙〕 すぐに。

「お金そんまが持って行く。」

◆たの部

だ〔代〕〔平〕 だれ〔誰〕。

「こんなことをしたのはだだ。」

だ〔助〕〔市、平〕 な、なる（である）。

「達者だ人だ。」

だ〔助〕〔鹿〕 するものだ。

「遊んで居ないで早く歸るだ。」

だ〔接尾〕〔平〕 たち。

「一郎さんだ山に行った。」

だ〔代〕〔鹿〕 誰。

「おれにさはるのはだだだ。」

たの部

そんだら〔接〕〔平〕 さうだならば。

「そんだら一つあげます。」

そんたらやつ〔代〕〔鹿〕 そのやうなひと（其の

様な人）。

そんだんども〔接〕〔雄〕 さうだけれども。

「そんだんども気がつかなかつた。」

そんちくたもの〔代〕〔南〕 そんな物。

そんてに〔副〕〔河〕 そんなに。

「そんてにえらねあ。」

そんてねあ〔連〕〔山〕 さうではありません。

甲「五に六を加へて十ではありませんか。」

乙「そんてねあ。」

ぞんな〔連〕〔雄〕 といふものは。

「發音ぞんな六がしいもんだ。」

「世の中ぞんな世智辛いもんだ。」

そんねあ〔名〕〔河〕 お供、鏡餅。

だい〔接頭〕〔雄〕 大きい。

「だい木」「だいもの」「だい風」「だい雨」「だ

い水。」

たいねあ〔連〕〔山〕 不足。

「これでたいねあ。」

たえに〔副〕〔鹿〕 爲に。

「負けたたえに逃げた。」

だお〔名〕〔市、雄〕 とき〔桃花鳥〕。

たかあし〔名〕〔雄〕 竹馬。

たかきもの〔名〕〔南、市、河、仙、平、雄、由〕 もて

あましもの、厄介者。

たかく〔動四〕〔市、雄、由〕 持つ。

「石盤をたかく。」

だがてあ〔連〕〔市、雄〕 ものですか。

「そんなことは有るものだがであ。」

たがんぶぐ〔名〕〔由〕 てんかん〔癲癇〕。

たの部

たかや(名)(由) をけや(桶屋)。
たがらもの(名)(市、由) 役立たず、道樂者、馬鹿者。

たかりうま(名)(平) あらうま(荒馬)。

たがりんま(名)(平) 悍馬。

たがる(動四)(市、平) 集る。

「見物人がたがる。」

たがる(動四)(平) つく。

「頸に垢たがる。」

たがる(動四)(市、雄) わく。

「蠅がわく。」

だ^あが(連)(山) たれか(誰ですか)。

「そんな事を言ったのはだ^あが。」

たんか^く(動四)(南) 持つ。

「その桶たんか^くえで行け。」

たぎ(名)(雄) 瀑布。

たぐる(動四)(南、市、河、雄) はぐ(剝ぐ)。

「木の皮をたぐる。」

た^げ(副)(雄) 大概。

「た^げにすれ。」

だ^け(連)(仙) その通りですか。

「そ^ーだ^けま。」

だけおどし(名)(仙、平) だけおろし(岳風)。

たげやら(名)(平) 竹やぶ。

たげる(動四)(雄) おこす。

「あんまり短氣たげるといけな^い。」

たげる(動四)(由) わく。

「虱たげる。」

た^ご(名)(仙) 桶。

だ^ご(名)(市、仙、雄、由) しり(尻)(肛門)。

た^ご(名)(雄) 太鼓。

た^ごおけ(名)(北) 大きな水桶。

たの部

だぎ(名)(山) 胸。

た^くじ^く(動四)(仙) すぎる。

「先生にた^くじ^く。」

だくずく(動四)(河、雄、由) ぶるぶるする、わ

なわなする。

「胸がだくずく。」

た^くず^く(動四)(仙、雄) 抱きつく。

「落ちないやうに固くた^くず^く。」

た^んぐ^ずぐ(動四)(平) すがり付く。

「帯にた^んぐ^ずぐ。」

た^んぐ^つぐ(動四)(河、雄) 取すがる。

「あまりた^んぐ^つぐな。」

た^くら^げ(名)(雄) しりはしり。

た^くら^んげ(名)(平) 裾をはしる事。

たぐる(動四)(市、平、仙) 捲きあげる。

「裾をたぐる。」

た^ごた^だぎ(名)(北) みづすまし(子母虫)。

た^ごつ^く(動四)(市、仙) つかまる。

「藁にもた^ごつ^く。」

た^ごん^ま(名)(平) 駑馬。

た^ごむ(動四)(市) たぐる(手繰る)。

「凧をた^ごむ。」

だ^し(名)(南、市、仙、平) 東南風。

だ^し(名)(由) 葬儀、茶毗。

た^しこ(名)(鹿、南、市、河、仙、平、雄、由) たす

き(襪)。

た^しこ(名)(仙) たすき(襪)。

た^じま^じ(名)(平) いちば(市場)。

だ^じゃ^く(名)(北、山、平、雄) らんばう(亂暴)。

た^んし^え(連)(鹿、北、平、雄) くださ^く(下^さ)。

「お菓子たんし^え。」

だ^じん(名)(由) 子供へお使などの報酬。

だじんこ(名)〔仙〕 だちん(駄賃)。
だす(動四)〔山、南、市、河〕 呉れる、あげる、やる。

「此の本を人にだす」
たづく(動四)〔仙〕 つかまる。

「おれに、たずぐな。」
たづくまる(動四)〔平〕 たぐりつく(手繰り付く)。

「流されないやうに早くたづくまる。」

たすこ(名)〔山、平、雄〕 たすき(褌)。

たんそ(名)〔平〕 やぶくわんざう(藪萱草)。

たんた(名)〔平〕 たび(足袋)。

だだ(名)〔北〕 親爺。

だだ(名)〔仙、平、雄〕 馬。

だだ(連)〔平〕 誰だ。

「そこを行くのはだだ。」

「あの人行って、了ってたんちほそい。」

たつかる(動四)〔市、平〕 たすかる(助かる)。

「危い處をたつかった。」

たつこ(名)〔平〕 巢立する鳥の子。

たつは(名)〔鹿、南、平〕 出立ぎは、又は出立の際のわかれの盃。

「だて(接尾)〔平〕 だよ。」

だて(接尾)〔平〕 だよ。

「そだであ。」

だんでかんで(副)〔由〕 とにかく。

たてげ(名)〔仙〕 たてかへ(建替)。

「あの家はたてげたのだ。」

たため(名)〔平、雄〕 傲る態度。

「あれはたためだんだ。」

たてる(動四)〔仙、雄〕 しめる。

「その障子をたてれ。」

たてる(動四)〔市、河、平、雄〕 閉ぢる。

だんだ(連)〔山〕 たれだ(誰か)。

「俺の頭を打ったのはだだ。」

だだこ(名)〔平〕 うま(馬)。

だだこく(動四)〔仙〕 亂暴する。

「子供はだだこいて困った。」

ただみ(名)〔市、平〕 たゞみ(疊)。

だちんつけんま(名)〔仙〕 にうま(荷馬)。

たちと(副)〔市、河、平〕 すこし(少し)。

「水がたちとこぼれた。」

たんちぶしね(形)〔河〕 寂しい、心細い。

「人の死んだあとにはたんちぶしね。」

たちほしね(形)〔南、市、平、雄〕 心細い。

「子供に死なれて、たちほしね。」

たんちほしね(形)〔雄〕 心細い。

「親が死んでたんちほしね。」

たんちほそい(形)〔平〕 さびしう(寂しい)。

「戸たでる。」

たてる(動四)〔市〕 熱湯で蒸す。

「乾葉湯でたでる。」

だどこ(名)〔北〕 臺所。

「それはだんでかでさうでない。」

たな(名)〔鹿〕 子供を脊負ふに用ひる帯の類。

たなぎ(名)〔雄〕 いけ(池)。

たなく(動四)〔鹿、北、山、河、仙、平、雄〕 たづさへる(携)。

「それをたないで行け。」

だなさん(市、平) 主人。

だなーや(連)〔平〕 でないか。

「あの人はひどい人だなーや。」

だなんす(連)〔平〕 ですね。

「好いお天氣だなんす。」

たねる(動下)〔鹿、南、平、雄〕 さがす(探す)。

たの部

「物を無くしたらよくたねれ。」
だの(副)(雄) など。

「犬だのちっとも怖くない。」
たば(接)(鹿、平、雄) たら。

「行っただばすぐ始った。」

たばご(名)(雄) 中休み。

たばご(名)(平) 休憩。

たばこれ(名)(市、平、雄) たばこいれ(煙草入。)

たばこれ(名)(河、平) 煙草入。

だぶ(名)(鹿、北) 女郎、藝者の總稱。

だぶ(名)(鹿) 鹽鮎。

だんぶ(名)(鹿、山、南、市、河) とんぼ(蜻蛉)。

だぶや(名)(鹿) 料理屋、妓樓。

だぶり(名)(山、南、平) 蜻蛉。

だんぶり(名)(鹿、北、河、仙、雄) 蜻蛉。

たっへ(名)(北) 啖。

たまし(名)(市、仙、平、由) いうれい(幽霊)。

だましかける(動四)(仙) いざなふ(誘ふ)。

「だましかけて川に行く。」

だます(動四)(市、仙) あやす。

「子供をだますに上手だ。」

だますこさせる(動下一)(平) 甘言を以て人

を欺く。

「あれにうまぐたますこかせだ。」

たまのまさか(副)(市、南、河) 稀に。

「たまのまさか家に歸ると身も心もゆっくりす

る。」

たまのまれに(副)(仙) わうわう(往往)。

「たまのまれにおれの家にくる。」

だみ(名)(北、山、南、市、河、仙、平、雄、由) 柩、

或は葬式。

だみ(名)(河) だび(茶毘)。

たの部

だべが(連)(平) だらうか。

「そだべか。」

たっへもす(動四)(由) もてなす(款待)。

「たっへもさねおで不調法した。」

だほこ(名)(北) 矮小者。

だま(名)(南、市、河、平) おてだま(お手玉)。

だま(名)(平、雄) 牝馬。

だま(名)(雄) まり(毬)。

たまげだ(形)(鹿、平、雄) おどろいた(非常な)。

「たまげだ大きいりんで見てきた。」

たまげる(動下一)(市、平) あきれる、驚く。

「私はたまげた。」

だまこ(名)(平) てだま(手玉)

だまこ(名)(北) 小さい握り飯。

たまさかね(副)(市、雄) たまに(偶然)。

「東京からたまさかね友人が来た。」

だみこ(名)(鹿) 葬式。

だみだし(名)(仙、平、雄) さうしき(葬式)。

だみばこ(名)(仙) くんをけ(棺桶)。

だみばな(名)(由) 葬式用造花。

だみや(名)(由) さうぐや(葬具屋)。

だめね(形)(河、平、雄) だらしない、心にし

まらない。

「あまりだめなくて財産をなくした。」

たもし(動四)(北) 下さい。

「遊びに来てたもし。」

たもちかる(動四)(山) すぎる(継る)。

「あの子も行きたいと言って袂にたもちかって

居た。」

たもつかる(動四)(鹿) つかまる。

「たもつかるな。」

たもて(名)(雄) たおもて(田面)。

たもて(名)〔南、平〕 たおもて、たんぼ(田圃)。
たもる(動四)〔市、河、雄〕 下さる。

「これを私にたもるの。」

たんもる(動四)〔平〕 下さる。

「よく教へてたんもる。」

たもれ(動四)〔鹿、市、河〕 下さい。

「さうしてたもれ。」

たら(名)〔鹿、山、南、河、仙、平、雄〕 俵。

だら(由) 糞。

たらうる(動四)〔北〕 酪酊を装ふ。

「ろくに飲まぬにたらうって居る。」

だらおげ(名)〔由〕肥桶。

だらぐな(形)〔市、仙、平、雄〕 だらしない、不法
な、不潔な。

「彼の人はだらぐだ風をしてる。」

たらくれる(動下)〔北〕 ふざける。

「餘りたらくねよ。」

だん(副)〔北〕 使に行けと命ずれば、いやとい

ふ場合にだんと答へる。

たんえ(連)〔鹿、市〕 下さい。

だんか(名)〔鹿〕 糞を入れる桶。

だんかおけ(名)〔北〕 糞桶。

たんかく(動四)〔河、平、雄〕 持上げる。

「かこをたんかく。」

だんかむし(名)〔鹿〕 どろおひむし(泥負虫)。

だんぐり(名)〔南、河〕 團栗、丈の低い人(罵倒

語)。

たんごけ(名)〔南、市、河、仙、雄〕 手桶。

だんこぬげ(名)〔由〕 脱肛。

「あれは小さい時だんこぬげだった。」

たんし(名)〔平〕 たんす(簞笥)。

だんじやくな(形)〔南、市、河、仙、雄〕 亂暴な。

「餘りたらくれるな。」

たらこすんべー(名)〔平〕 藁製雪靴。「さんべー」
に同じ。

だらつぼ(名)〔由〕 こえつぼ(肥壺)。

だるま(名)〔市、河〕 はんてん(半纏)。

だれ(代名)〔由〕 たれ(誰)。

たれ(名)〔鹿、市、平〕 たらひ(盥)。

だれ(代)〔平〕 たれが(誰が)。

だれやるだって。(句)〔平〕 誰がするもんか。

たれね(名)〔平〕 馬鹿。

たるべ(名)〔南、河、平〕 垂氷。

たるべ(名)〔市、仙〕 氷柱。

たるんべ(名)〔鹿、山、南、仙〕 つらら。

たゑ(名)〔鹿〕 たうゑ(田植)。

たゑなし(名)〔北〕 分別なし、懲性なし。

たゑね(形)〔市、仙、平〕 だらしない。

「彼はだんじやくな男だ。」

たんし(連)〔仙〕 下さい、敬語に用ふ。

「来たんし。」

たんす(接尾)〔仙、雄〕 ました。

「行ったんす」「食ったんす」。

だんす(名)〔市、仙、平〕 だんご(團子)。

「だんすを作る。」

たんず(名)〔北、市〕 置棚。

だんつ(名)〔平〕 だんなさん(旦那さん)。

たんと(副)〔雄〕 澤山。

「たんとけれ。」

たんとか(副)〔雄〕 たくさん(澤山)。

「もうたんとかいただきました。」

だんなさん(平) 主人。

たんば(助)〔由〕 たら。

「来たんば、終ってしました。」

ちの部

たんばら〔平、雄〕短氣。
たんび〔名〕〔平〕足袋。

たんぺ〔名〕〔鹿、北、山、南、市、河、仙、平、雄、由〕
唾。

「顔にたんべしかけられた。」
たんぼ〔名〕〔河〕銚子、徳利。

◆ちの部

ちえあ〔形〕〔平〕腹一杯だ。

「あゝ腹ちえあ。」

ちおこ〔名〕〔平〕しる(汁)。

「雉のちおこあうまがった。」

ちがる〔動四〕〔鹿〕ちがふ(違ふ)。

「言ひ方もよほどちがる。」

ちぎ〔名〕〔市、平〕布の小切れ。

ちんぎこ〔名〕〔雄〕きれ(布)

ちきしよ〔名〕〔仙〕畜生。

ちじげあば〔名〕〔平、雄〕うば(乳母)

ちんちかまる〔動四〕〔南、河、由〕ちぢまる。

「寒くてちんちかあまた。」

ちちげあば〔名〕〔平〕乳母。

ちちこあばる〔動四〕〔市〕かあむ或はしあがむ。

「後の方は見えないから前の方はちちこあばあって

下ああ。」

ちんちこあぼす〔動三變〕〔平〕しあがむ。

「太郎はちんちこあぼあすた。」

ちちあ〔形〕〔平〕小さい。

「あの人は割合にちちあ人だ。」

ちちあい〔名〕〔形〕小さい。

「ちちあちちあねい。」

ちちあいい〔形〕〔仙、平、雄〕小さい。

「何と云ふちちあいい家あでせう。」

ちちあ〔形〕〔鹿〕小さい。

ちの部

ちきしよ〔名〕〔平〕ちくしやう(畜生)。

ちんきりこ〔名〕〔平、雄〕ちうがへり。

ちげ〔名〕〔平〕ちのみご(乳兒)。

ちんけ〔名〕〔鹿〕丈低い人。

ちけ〔形〕〔鹿、仙〕近い。

「むかうの家に行くには此の道を行くとけ。」

ちげだな〔名〕〔仙〕ちがひだな(違棚)。

ちこし〔副〕〔仙〕少し。

「ちこし寒い。」

ちこでね〔連〕〔平、雄〕あんまりです。

「いい加減に止しなさいちこでねよ。」

ちこね。〔副〕〔雄〕度をこして、大變に。

「ちこねあ早く歩く人だ。」

ちこん〔副〕〔平〕しよんぼり。

「坐敷のまん中にひとりちこんとすわつてた。」

ちし〔名〕〔由〕二階。

「あの人はちちあ。」

ちちあ〔形〕〔市〕小さい。

「ちちあ子供だね。」

ちちあ〔形〕〔市〕ちひさい(小さい)。

「ちちあ人だ。」

ちちあばる〔動四〕〔鹿〕しあがむ。

「ちちあとこ間ちちあばる。」

ちちあげご〔名〕〔仙〕さとこ(里子)。

ちとこ〔副〕〔河〕ごく僅か。

「御飯あとちとこくれ。」

ちとこ〔副〕〔南〕僅か、一寸。

「ちとこだがたべて下さ。」

ちとこ〔副〕〔市〕ごく僅か。

「おれあちとこたんえ。」

ちのお〔句〕〔河〕ちのおを(知能を)。

「進んでちのお啓發す。」

ちの部

ちっぱ(名)〔仙〕蝶、蛾
 ちんべたれ(名)〔仙〕ほうひ(放屁)
 ちぼ(名)〔雄〕おには(お庭)。
 ちまけ^{あり}(名)〔河、雄〕けつまづくこと(蹉跌)。
 ちまけ^{あり}する(動^変)〔市〕つまづく。
 「ちまけ^{あり}して下駄の緒を切らした。」
 ちみで^{あり}(形)〔雄〕つめたい。
 「何てちみで^{あり}朝でせう。」
 ちみどりけ^に(副)〔鹿〕ちまみれ(血塗)。
 「血みどりけ^にになって死んでゐた。」
 ち(名)〔鹿、山、平、雄〕ちち(父)。
 ち(助)〔鹿、山、平、雄〕「へ」「に」。
 「いしちやいそ。」
 ちち(名)〔平、雄〕ちち(父)。
 ち^ちか^かで^ね(形)〔北〕容易でない。
 「ち^ちか^かで^ね仕事だ。」
 ちか^はか(副)〔雄〕急速。
 「仕事をちか^はか^はかとやれ。」
 ち^ちか^ほか^かか^かね^ね(形)〔平〕融通がきかない。
 「ち^ちか^ほか^かか^かね^ね男だ。」
 ち^がが^ま(名)〔雄〕てつびん(鐵瓶)。
 ち^こ(名)〔鹿、仙、雄〕猫。
 ち^ちこ(名)〔平〕猫。
 ち^ちち^ち(名)〔河、平、雄〕猫の兒童語。
 ち^ちち^ちぎ(名)〔雄〕みそさざい。
 ち^ちち^ちど(副)〔鹿、南、市、河、仙、平、雄、由〕
 ち^ちち^ちと(副)〔鹿、雄〕早く。
 「此の仕事をち^ちち^ちち^ちどでかせ。」
 「ち^ちち^ちと来いち^ちち^ちと〜。」
 ち^ちんと(副)〔仙〕すっかり。
 ち^ちんが(名)〔市〕中風。
 ち^ちよ(名)〔山、南、河、平〕けふ(今日)。
 ち^ちよ(感)〔河、平、雄〕まあ。
 「ち^ちよーこれ何だ。」
 ち^ちよー(名)〔平〕けふ(今日)。
 ち^ちよーえぎ(名)〔由〕けういく(教育)。
 ち^ちよーぐご(名)〔雄〕つぼ(壺)。
 ち^ちよ^かか^ける(動^{下二})〔市、河、平、雄〕じやれ
 る。
 「猫がち^ちよ^かか^ける。」
 ち^ちよ^けあ^さん(固)〔雄〕鳥海山。
 ち^ちよ^こな^こ(名)〔河、仙〕蝶々。
 ち^ちよ^かか^かか^かね^ね(連)〔河〕融通がきかない。
 「あの男ち^ちよ^かか^かか^かね^ね。」
 ち^ちよ^こや^こ(副)〔北、河〕忙しさに、早速に。
 「ち^ちよ^こや^こ廻って世話する。」

ちの部

「君達もう少しち^ちんとせ。」
 ち^ちんば^じ(名)〔河〕大皿。
 ち^ちんば^ち(名)〔山、南〕大皿。
 ち^ちんぶ^ん(名)〔山、南、河、仙〕脚絆。
 ち^ちんへ(名)〔北、市、河〕猫(小兒語)。
 ち^ちんへ(名)〔仙〕猫。
 ち^ちま^こ(名)〔鹿〕茶の間。
 ち^ちま^もれ^も(名)〔南、市、河〕後妻。
 ち^ちし^ぎ(名)〔雄〕中風。
 ち^ちし^くれ^も(形)〔平〕いけない。
 「これち^ちし^くれ^もまだ男だ。」
 ち^ちし^ち(名)〔雄〕じゃんけん。
 ち^ちん^ちん(名)〔平〕雀の兒童語。
 ち^ちん^ちち(名)〔雄〕じゃんけん。
 ち^ちし^ど(名)〔平〕短衣。
 ち^ちし^ぶ(名)〔市〕中風。

ちの部

ちよこら (副)〔平〕 ちよこ(一寸)。
 「その本をちよこら貸して下さる。」
 ちよさべつら (名)〔北〕 興ざめ顔。
 ちよじてぬげ (名)〔平〕 手拭。
 ちよじどこ (名)〔山〕 便所。
 ちよしまし (動四)〔北〕 いぢりまはす。
 「ちよしましてはけなす。」
 ちよじん (名)〔雄〕 ちやうちん(提灯)。
 ちよす (動四)〔鹿、南、河、仙、平、雄、由〕 からか
 ふ。もてあそぶ。
 「ちよすな。」
 ちよすだれ (名)〔山〕 手水鉢。
 ちよすどご (名)〔南〕 便所。
 ちよーせんこ (名)〔雄〕 鳳仙花。
 ちよーだい (名)〔河〕 きやうだい(兄弟)。
 ちよちよ (名)〔平〕 せうべん(小便)。

ちよちよらめく (形)〔鹿〕 ちよちよらめく。
 「花子はなかなかのちよちよらめきだ。」
 ちよちよりこ (名)〔仙〕 おほばこ(大葉子)。
 ちよんで (名)〔河〕 兄弟姉妹。
 ちよーてぶん (名)〔山〕 兄弟分。
 ちよどが (副)〔南〕 まるで。
 「走るにあまし早くてちよどが汽車みたいだ。」
 ちよとごま (副)〔鹿〕 ちよとの間。
 「となり迄ちよとごま行って来る。」
 ちよなこ (名)〔仙〕 てふ(蝶)。
 ちよねん (名)〔南、河、平〕 きよねん(去年)。
 ちよば (名)〔河〕 蝶々。
 ちよふ (名)〔雄〕 徴兵。
 ちよーふ (名)〔南〕 ぐんたい(軍隊)。
 ちよべ (名)〔山〕 口早い者。
 ちよーへ (名)〔北〕 兵隊さん。

っの部

ちよへます (動四)〔北〕 もてなす。
 「尋ねて行つたれば大變ちよへました。」
 ちよへつと (副)〔鹿〕 少し。
 「お菓子ちよへつと下さる。」
 ちよへなこ (名)〔仙〕 蝶、蛾。
 ちよへん (名)〔山〕 兵隊。
 ちよま (名)〔由〕 てふてふ(蝶)。
 ちよまこ (名)〔雄〕 蝶。
 ちよろがす (動四)〔平〕 嘲弄する。
 「人をちよろがす。」
 ちよろば (名)〔山〕 おほばこ。
 ちよろんこ (名)〔鹿〕 ちよろぎ(草石蚕)。
 ちらがる (動)〔平〕 ちらばる(散ばる)。
 「木の葉がちらがる。」
 ちるどり (名)〔雄〕 ちりとり(麋取)。
 ちんけ (名)〔平〕 後頭部の下にちよと生やした

ちんと (副)〔鹿、北〕 すこし(少し)。
 「御飯食べたくないからちんと下さる。」
 ちんべ (名)〔鹿〕 小さい子供。
 ◆つ の部
 つ〔雄〕 づ。
 「(自ら)をおのんつから、みんつから。」
 つ (助)〔平〕 といふ(と云ふ)。
 「角力見たっけ。」
 つー (感)〔河〕 ちよ。
 「つー馬鹿。」
 つあ (名)〔平、雄〕 おぢさん。
 「餘り立派で父及び小父さんの意。」
 つあー (名)〔平〕 お父さん。
 ついしん (名)〔河〕 つうしん(通信)。
 つえ (形)〔平、雄〕 つよい。

つ の 部

「力つえ人だ。」
 つかた(名)〔平〕 道具。
 つかな(名)〔由〕 いたどり(虎杖)。
 つかめ^あだ(動下二)〔雄〕 捕へた。
 「鳥つかめ^あだ。」
 つかめる(動下二)〔仙、平〕 つかまへる。
 「逃げない中早くつかめる。」
 つぎ(名)〔南、河仙、由〕 ぬのきれ(布切)。
 つきしよ(名)〔平〕 畜生。
 つぎぬぎ(名)〔平〕 辻。
 つぎや(名)〔雄〕 米屋。
 つぐす(動さ變)〔平〕 失策する。
 「大つぐすした。」
 つけ(助動)〔雄〕 といった^つけ。
 「今日友人が遊びに来る^つけ。」
 つけおの(名)〔雄〕 かうの物。

つけげ(名)〔河、平、雄〕 附木。
 つけだけ(名)〔河〕 附木。
 つけらたが(連)〔山〕 付けるのでせうか。
 「色つけらたが。」
 つご^あでね(副)〔平、雄〕 非常に。
 「つご^あでね^あ降るな。」
 つご^あでね(副)〔雄〕 非常、甚しき様。
 「つご^あでね^あ寒い。」
 つざ(名)〔仙〕 土。
 つざがまる(動四)〔鹿〕 つゞまる(約る)つゞむ(縮)。
 つざぎ(名)〔市、河、仙、平、雄、由〕 つつじ(躑躅)。
 つざぐまる(動四)〔平〕 屈する。
 つざげ(名)〔雄〕 さとこ(里子)。
 つざげこ(名)〔南、平〕 さとこ(里子)。
 つっちゃ(平) 小さい。
 「此の馬はつっちゃいよ。」
 つんつかまる(動四)〔由〕 ちぢまる(縮る)。
 「この虫をつついたらつんつかまるぞ。」
 つんぎ(名)〔南、河、平〕 つつじ。
 つつぐばる(動四)〔鹿〕 かゞむ(屈む)。
 「見付けられないやうにつつぐばる。」
 つつこ(名)〔平〕 つと(苞)。
 つつごぼ^あず(動さ變)〔平〕 しゃがむ。
 「つつごぼして、だまこであしぶべし。」
 つつで(副)〔仙、雄〕 ついて(付いて)つれて(連れ
 て)ついて(印を捺して)。
 「人につで行く、人をつで行く、印をつでか
 ら行く。」
 つてえぐ(連)〔南〕 つれて行く。
 「その子を早つくじえげ。」

つ の 部

つずここれ(名)〔雄〕 土塊。
 つずこばる(動四)〔仙〕 しゃがむ。
 「其處さつずこばれば着物のすそよごれるよ」
 つずごぼ^あこ(名)〔雄〕 しゃがむ。
 つずごぼこする(動さ變)〔雄〕 うづくまる(蹲
 る)。
 つずこまる(動四)〔平〕 かがまる、つづまる。
 「つずこま^あてなにしてをらね^あ。」
 「つずごぼこすれば見える。」
 つずみ(名)〔雄〕 沼。
 ついせ^あ(形)〔平〕 小さい。
 「ついせ^あ子だ。」
 つせ^あこえ(形)〔平〕 小さい。
 「つせ^あこえ石だ。」
 つそ(名)〔南、由〕 紫蘇。
 つちうす(名)〔河〕 摺臼。

つてえぐ(連)〔南〕 つれて行く。
 「その子を早つくじえげ。」

つ の 部

つでくる (連)〔平〕 連れて来る。
 「子供をつでくる。」
 つとがる (動四)〔由〕 とがらす。
 「口をつとがらせてをかした。」
 つとげる (動下二)〔南〕 とがらす。
 「その棒の先をつとげれ。」
 つとす (連)〔平〕 突きとほす。
 「指で窓の紙をつとすた。」
 つとんげる (動下二)〔河、平、雄〕 とがらす (尖す)。
 「口をつとんげる。」
 つなぎ (名)〔平〕 税金。
 つなぐ (動四)〔由〕 むすぶ (結ぶ)。
 「此の絲つなげ。」
 ついに (副)〔河〕 つひに (遂に)。
 「ついに泣いた。」

つんのめす (動四)〔平〕 つきのめす。
 「人をつんのめす。」
 つのめる (動下二)〔仙〕 前に倒れる。
 「押すなつのめるから」
 つばぐら (名)〔平〕 つばめ、
 つんばぐらのかがさん (名)〔平〕 おほばい。
 つぶ (名)〔山、仙、平、雄〕 たにし (田螺)。
 つんぶ (名)〔南〕 たにし。
 つっぺ (名)〔雄〕 つめ (詰)。
 つぺぐり (名)〔平〕 相殺。
 つべのこ (名)〔仙〕 つくし (土筆)。
 つぼ (名)〔鹿、北、仙、平〕 には (庭)。
 つっぽ (名)〔市、平〕 筒袖。
 つんぼ (名)〔南、雄〕 お庭。
 つんぼ (名)〔南〕 つぼみ (蕾)。
 つんぼける (動下二)〔南、河〕 積集める。

つ の 部

「屑をそこにつんぼける。」
 つぼこ (名)〔仙〕 つぼみ (蕾)。
 つんぼこ (名)〔雄〕 つぼみ (蕾)。
 つぼや (名)〔由〕 には (庭)。
 つぼら (名)〔平〕 傲ること。
 つまけより (名)〔仙、雄〕 つまづくこと。
 つまけよりする (連)〔南、平〕 つまづく。
 「餘り急いでつまけよりした。」
 つみたい (形)〔雄〕 冷い。
 「なんとつみたい水だ。」
 つみで (形)〔仙、平、雄〕 冷めたい。
 「つみで水だな。」
 つめんぎる (動四)〔平、雄〕 つめる。
 「いだぐつめんぎる。」
 つーやす (動四)〔南、河、雄〕 つひやす (費)。
 「長い日數をつーやすした。」

つよ (名)〔南、仙、平〕 露。
 つら (名)〔仙、雄、由〕 かほ (顔)。
 つらえぐね (形)〔北〕 恥しい。
 「負ければつらえぐねな。」
 つらだす (名)〔平〕 弔慰また、慶賀に行くこと。
 つらつけなし (形)〔鹿、北、平、雄、由〕 厚がまし
 く知らぬふりす。
 「つらつけなく何でも云ふやつだ。」
 つらのかはあず (形)〔仙〕 あつがまし (厚顔)。
 「つらのかはあず人だ。」
 つらのべる (連)〔南〕 見舞する (顔を出す)。
 「伯父の家へつらのべるに行つて来る。」
 つらましね (形)〔南、河、仙、平、雄〕 うたて無
 惨だ。
 「あの人體中血だらけにしてつらましねがつ
 た。」

ての部

つらわり(形)〔由〕 おもはゆい(羞)。
 「つらわりくてえ(行)がれねえ。」
 つり(名)〔雄〕 つる、血統。
 つる(動四)〔河〕 ちる(散る)。
 つれ(形)〔南、河〕 強し。
 「あの人はずれな。」
 つれ(平) 夫婦。
 つれごと(名)〔平、雄〕 口論。
 つゑ(形)〔河〕 強し。
 「力つゑ馬だ。」
 つんけりする(動三變)〔南〕 のめる。
 「あの人つんけりした。」
 つんつける(動下)〔南、河、平〕 のびない。
 「この衣服を洗へばつんつける。」

ての部

ての部

てか(名)〔北〕 やけどのあと。
 てが(助)〔雄〕 といったか。
 「東京に行ったが。」
 てかひかす(連)〔市〕 入らぬ手出しをする。
 「何にでもてかひかして困る。」
 てかふかす(連)〔河〕 入らぬ手出しをする。
 「餘りてかふかすな。」
 てかり(名)〔市、河、雄〕 藪にらみ。
 てかりこ(名)〔仙、由〕 すがめ。
 てかりこ(名)〔雄〕 斜眼(やぶにらみ)。
 てぎへん(連)〔由〕 できません。
 「そんなことはでぎへん。」
 てぎい(形)〔仙〕 大きい。
 「あの頭はでぎい。」
 ておきり(副)〔仙〕 少しも。
 「ておきり無し。」

「やれって言った。」
 て(名)〔平〕 連中。
 て(名)〔鹿、河、雄〕 たひ(鯛)。
 て(名)〔鹿〕 たい(平、隊、体)。
 て(名)〔鹿、雄〕 だい(大、臺、岱)。
 て(代)〔北〕 誰。
 て(接)〔雄〕 ……しないかよ。
 「行かねがでま。」
 て(助)〔北〕 だよ。
 「それでもえでま。」(それでもよろしいのだよ)
 てえす(助)〔雄〕 です。
 「さうでえす。」
 てお(助)〔雄〕 とさ。
 「来るでお。」
 ておな(助)〔雄〕 ってね。
 「来るでおな。」

てぐ(名)〔山〕 大工。
 てぐ(名)〔鹿〕 太鼓。
 てぐ(名)〔仙、平、雄〕 大工。
 てぐぐ(名)〔雄〕 大黒。
 てあくつ(名)〔仙〕 たいくつ(退屈)。
 てあくつ(名)〔鹿、山〕 たいくつ(退屈)。
 てあくて(助動)〔雄〕 たくて。
 「行きてあくてしようがない。」
 てぐばぐ(名)〔北〕 不揃、ちぐはぐ。
 てぐらから(名)〔北〕 上下戯。シーソー。
 てぐかん(名)〔雄〕 下男の頭。
 てけ(名)〔北〕 手の不具者。
 てっけ(名)〔仙、雄〕 手の不具者。
 てげ(助)〔雄〕 のですか。
 「ほんとにさうだてげ。」
 てげ(副)〔鹿〕 大概。

て の 部

「私^あは^あて^あげ^あ忘^あれ^あた^あ。」

て^あげ^あけ^あ (名)〔雄〕 おでこ。

て^あげ^あだ^あが^あや (連)〔雄〕 できましたか。

「もうで^あげ^あだ^あが^あや。」

て^あけ^あね (連)〔雄〕 なりません、いけません。

「此の家に入^あっ^あて^あは^あで^あけ^あね。」

て^あけ^あね (動)〔仙、平、雄〕 できない(出来ない)。

「そんな事^あは^あで^あけ^あね^あ。」

て^あげ^あね (形)〔雄〕 だめだ(駄目だ)。

「それ^あな^あん^あか^あで^あけ^あね^あ。」

て^あけ^ある (動)〔雄〕 すむ、終^あへ^ある。

「遊^あ戯^あが^あで^あけ^あた^あ。」

て^あご (名)〔鹿、山、南、仙、雄〕 太鼓。

て^あご (名)〔鹿、北、南、市、仙、平、雄〕 だいこん

(大根)。

て^あご (名)〔仙〕 たいかふ(大閤)。

て^あし^あば (名)〔山〕 停車場。

て^あず (代)〔市、河、平、雄〕 ど奴。

て^あず^あだ (連)〔平〕 どやつだ。

「其處^あに^あ居^ある^あの^あは^あで^あず^あだ^あ。」

て^あず^あま (名)〔市、仙、雄〕 てじな(手品)。

て^あず^あま (名)〔山、南、河〕 手品。

て^あだ^あじ (名)〔仙〕 外も、ひき。

て^あだ^あず (名)〔雄〕 よそほひ(装)。

て^あち^あば^あち (名)〔河〕 手の出しやうがない事。

て^あち^あょ (名)〔雄〕 てんじやう(天井)。

て^あつ^あけ^あは^あね (連)〔仙〕 手^あの^あ付^あけ^あ様^あが^あ無^あい。

「此^あの^あ兒^あは^あて^あつ^あけ^あは^あね^あ。」

て^あつ^あて (名)〔山〕 てつだひ(手傳)。

て^あて (名)〔由〕 ちち(父)。

て^あて (名)〔河、由〕 を^あつ^あと(夫)。

て^あて (名)〔仙〕 父。

て の 部

て^あご^あん (副)〔雄〕 平均に。

「君^あと^あ僕^あと^あて^あご^あん^あに^あ分^あけ^ある^あ。」

て^あご^あこ (名)〔仙〕 だい(臺)。

て^あご^あく^あさ^あま (名)〔山〕 大黒様。

て^あご^あし (名)〔平〕 でごし。

て^あご^あじ^あげ (名)〔雄〕 たくあん(澤菴)。

て^あご^あた (連)〔雄〕 さうだ。

「來^ある^あで^あご^あた^あ。」

て^あご^あた^あだ^あぎ (名)〔仙〕 たいこた^あた^あき(太鼓叩)。

て^あご^あま^あこ (名)〔河〕 片足跳躍。

て^あご^あり (副)〔仙〕 大いに。

「で^あご^あり^あ儲^あけ^あた^あ。」

て^あご^あろ^あだ (形)〔南〕 同等だ。

「君^あと^あ僕^あは^あて^あご^あろ^あだ^あ。」

て^あご^あん (名)〔山、由〕 だいこん(大根)。

て^あじ^あま (名)〔市、平〕 手品。

て^あて (名)〔仙〕 父。

て^あて (名)〔平〕 手代。

て^あて^あこ (名)〔仙〕 てだい(手代)。

て^あん^あて^あこ (名)〔山〕 こぞう(小僧)。

て^あて^あな^あず^あん^あご (名)〔平〕 私生兒。

て^あて^あめ^あに^ああ^あつ^あた (連)〔平〕 つらい目^あに^ああ^あつ^あた。

「悪^あい^あこ^あと^あを^あし^あて^あて^あて^あめ^あに^ああ^あつ^あた^あ。」

て^あと (名)〔南、河〕 と^あつ^あて(把手)。

て^あど^あご (名)〔鹿、山、南、仙、由〕 勝手、臺所。

て^あど^あこ^あろ (名)〔仙、平、雄〕 だいどころ。

て^あと^ある (動四)〔由〕 困^あつ^あた。

「あ^あの^あ弟^あ子^あに^あ行^あか^あれ^あて^あて^あと^あつ^あた^あ。」

て^あな^あれ (名)〔仙〕 かきかた(書方)。

て^あぬ^あぎ (名)〔山、市〕 手拭。

て^あぬ^あげ (名)〔鹿、北、平、雄、由〕 てぬぐひ(手拭)。

て^あね^あけ (名)〔鹿〕 手拭。

ての部

てのげ (名)〔鹿、山、南、河、仙、平、雄、由〕手拭。
てのご (名)〔平〕手拭。

てのさが (名)〔鹿〕だいのさか。

てのへら (名)〔山、雄〕たなごころ(掌)。

てば (名)〔仙〕はげ頭(禿頭)。

ではる (動四)〔鹿、南、河、仙、平、雄、由〕出る。

「そんな前にではるな。」

てあんびよ (名)〔仙〕きとく(危篤)。

てあぶが (副)〔雄〕大分。

「今年林檎がであぶがなった。」

てんぶやじ (形)〔市、河、仙、平〕亂暴な、無茶な、無理する者にいふ。

「あいつでんぶやじな奴だな!」

てんぶりはすぐわん (副)〔南〕無一物で。

「てんぶりはすぐわんで何商賣出きるが。」

てふおる (動四)〔南、河、雄〕外へ出る。

てあら (名)〔北〕平ら。

てらと (副)〔南、市、河、雄〕全部。

「てらと忘れて讀めない。」

てらめあり (名)〔仙〕てらまわり(寺詣)。

てらり (副)〔河、雄〕悉皆。

「彼は三十前からてらり頼げた。」

てらり (副)〔河、雄〕悉皆。

「てらり頼げた。」

てりほご (名)〔平〕通勤。

てろ (名)〔鹿、北、山、河、仙、平、雄、由〕泥。

てろと (副)〔南、河、雄〕すっかり。

「お鉢一つてろと食べた。」

てろと (副)〔南、市、河、雄〕でらとに同じ。

てろと (副)〔市、河、仙、雄〕いつもいつも。

「でろとものわすれする人だ。」

てろぼんず (名)〔北〕丸坊主。

ての部

「でふおると叱られる。」

てぶろく (名)〔由〕横着。

てへ (形)〔鹿〕たいへん(大變)な。

「頼まれた用事忘れててへなことした。」

てっぺ (名)〔北、市、河、仙、平、雄、由〕あたま(頭)

てっぺん (名)〔由〕うへ(上)又いたどき(頂)。

てんぼ (名)〔雄〕足不具者。

てんぼ (名)〔由〕うそつき。

てっぽ (名)〔雄〕鐵砲。

てっぽー (名)〔仙〕つつそで(筒袖)。

てぼき (名)〔仙〕不器用。

てぼだ (名)〔平〕うそ(虚)。

てまご (名)〔平〕玄孫。

てまわり (名)〔市、仙〕親類。

てめ (名)〔平〕お前。

てや (名)〔河〕連中。

てんご (形)〔山〕同じ。

「これとてんごだ。」

てんじよご (名)〔平〕てんちく(天竺)。

てんすけ (名)〔仙〕いたどり。

てんで (名)〔山〕だいたい、(橙)。

てんでん (名)〔仙〕かくじ(各自)。

てんとさま (名)〔由〕たいやう(太陽)。

てんとさん (名)〔雄〕そら(空)。

てんとつ (名)〔平〕えんとつ(煙突)。

てんぺ (名)〔仙、平〕頂上。

てん (代)〔鹿〕誰。

てんじに (副)〔鹿〕だいじ(大事に)大切に。

「一枚の紙もでんじにつかへ。」

てんで (副)〔仙〕ちっとも。

「でんで、きれぬ小刀だ。」

てんどこ (名)〔市、河〕臺所。

との部

◆との部

と(接尾)(由) 體言につきて體言を作る。

「手傳と。」

と(助)(平) しふと(云ふと)。

「人が行ぐととあの犬が吠える。」

ど(名)(平) 親父。

ど(接尾)(由) 體言につきて體言を作る。

「木挽んど。」

ど(接尾)(由) どの(殿)。

「何某ど。」

どー(名)(仙) 魚取器の一種。

どー(名)(仙) 父。

どか(名)(河、平) 粗忽者。

とかかる(動四)(仙) 取りかゝる。

「仕事にとかかる。」

どかしかて(形)(雄) そゝかしい。

とかふかする(動三變)(南、河) 落着かない。

「どうもあまりとかふかするから物を壊す。」

どから(連)(河) どこから(何處から)。

「貴方はどから來ましたか。」

どんがら(名)(平) いたどり。

どんがら(名)(平) いたどり。

どんがら(名)(平) いたどり。

どがらんぼ(名)(平、雄) いたどり(植物名)。

とき(名)(平) せっかち者。

とき(形)(鹿、仙) おちつきない (落着きな

し)。

「あの子はときでしけなし。」

とき(名)(北、南、平、雄、由) とげ。(刺)。

とき(形)(山、南) 遠し。

「とき所へ行けばなかなか歸られなし。」

ときび(名)(平) たうもろこし。

との部

「あれはどかしかで人であるから物をおき忘れる。」

どかしがて(形)(市) 前條に同じ。

どかすかて(形)(平) 粗忽な。

「あれはどかすかでやぶだ。」

どがずがて(形)(市) そそかしい (粗々かし

し)。

「どがずかで人だ。」

どかちか(形)(市) そそかしい。

「どかちか者は成功しない。」

どかつかて(形)(河) そそかしい。

「なんとどかつかで人だこと。」

どかつかと(副)(山) そそかしく。

「どかつかとやれば損をする。」

とかひかもの(連)(雄) あわてもの。

「級で一番のとかひかものは君だ。」

とっきび(名)(雄) たうもろこし(玉蜀黍)。

どきまぎする(動)(雄) あわてる。

ときみ(名)(雄) たうもろこし。

ときみ(名)(平、雄) たうもろこし。

ときす(動四)(市、雄) とりかへす(取返す)。

「子供から菓子をときす。」

どきまぎ(名)(由) らっぱい(狼狽)。

とき(動四)(市、雄) とりかへる(取換へる)。

「電燈の球をときやる。」

とーくい(形)(雄) 遠し。

「秋田市にとーくし。」

とぐえ(形)(平) とほし(遠し)。

「とぐえ山。」

とぐし(名)(平) とぐち(戸口)。

どくだび(名)(雄) どくだみ。

どぐだんび (名)〔平〕 どくだみ。

とくに (副)〔平、雄〕 とくに〔疾に〕。

「とくにいった。」

とくや (名)〔山〕 理髪營業の家。

とっくり (名)〔市〕 徳利。

とっくり (副)〔雄〕 しみじみ〔染染〕。

「説明をきいてとっくりよく分った。」

とっくりぎる (動四)〔鹿、市〕 くつがへる。

「お茶碗がとっくりぎった。」

とっくりける (動四)〔南、市、仙〕 ひっくりかへる

(引繰返)。

「とっくりけるほどびっくりした。」

とくりける (動四)〔雄〕 ひっくりかへる〔轉倒〕。

「吃驚してとくりける。」

とくりげ (動四)〔雄〕 ひっくりかへる。

「壺がとくりげある。」

どける (動下)〔仙、平〕 のける〔退ける〕。

「人をどげる。」

どげる (形)〔平、由〕 おどげる〔滑稽する〕。

「なんとあの人はどげる人だ。」

とける (動四)〔鹿、仙、平、雄〕 取りかへること。

「本と鉛筆二打ととける。」

とける (動下)〔山〕 とりかへる、取り換へる。

「其れと此れをとける。」

とこ (名)〔鹿〕 當〔番〕講。

どご (名)〔鹿、河〕 道具。

どごさ (連)〔仙〕 どごさ行く。

「どごさ行く。」

どごだす (連)〔雄〕 何處ともなしに。

「どごだすどごだす歩いた。」

どごて (副)〔南〕 速かに。

とっくりげ (動四)〔鹿〕 ひっくりかへる。

「あの町中でごろりととっくりげあった。」

とくれがる (動四)〔河〕 ひっくりかへる。

「子供がだぶをこねてとくれがる。」

とくるげ (動四)〔鹿、仙〕 ひっくりかへる。

「此の石をとくるげして見せる。」

とげ (名)〔南、仙、雄〕 とけい〔時計〕。

とげ (名)〔南、仙、雄〕 とけい〔時計〕。

「紙と鉛筆ととげこする。」

とげ (名)〔南、仙、雄〕 とけい〔時計〕。

「あの人に皆とげされた。」

どげもの (名)〔仙〕 おどげもの。

どける (動下)〔山〕 滑稽な事をする。

「彼奴どけるからね。」

どける (動下)〔山〕 よける、避ける。

「向ふから車が来たからどけれ。」

「どごて走れ。」

どごに (連)〔雄〕 どういたしまして。

「どごにさうではありません。」

どごにぎ (連)〔雄〕 どういたしまして。

「どごにぎそんなことして下さいますな。」

とごまぐり (名)〔平〕 奉公してある家を辭去す

る事。

ところ (代)〔河〕 ところ〔處〕。

どさ (連)〔仙、雄〕 どさへ〔何處へ〕。

「どさへ行く。」

どさえぐ (連)〔雄〕 どさへ行く〔何處へ行く〕。

「君どさえぐ。」

どさが (連)〔平〕 何處かへ。

「日曜にはどさが行かうね。」

とし (名)〔河〕 よだれ。

どし (名)〔鹿、南、仙、平、雄、由〕 かつたゐ〔癩病

と の 部

患者)。

どじくなし(名)(仙) 臆病者。

としけげ(名)(平) つけぎ。

としな(名)(仙、平、雄) 注連、七五三。

としなわ(名)(南、河、雄) しめなは。

とんじまげ(動下)(仙) 困る。

「雪に降られてとんじまげた。」

どしめがして(副)(雄) いそいで(急いで)。

「どしめがしてにげて行った。」

どしめがす(動四)(平、雄、由) うろたへる。

「おそくなって、どしめがして行った。」

どしめぐ(動四)(平、由) あわてる。

「あんまりどしめくな。」

とじめんぼふる(動四)(河) 當惑する。

「し事が少しも出来ないのどとじめんぼふた。」

とじん(名)(河) とぜん(徒然)。

としり(名)(南、河、平、雄) 年寄。

としる(動四)(仙) おいる(老る)。

「としらて、足や腰が立たない。」

とじん(名)(平) 困却。

とす(名)(北、山、市、河、仙、平、雄) 癩病。

とずぐ(動四)(南) とどく(届く)。

「のびたら棚の上へとずぐだらう。」

とすな(名)(平) しめなは。

とんずら(名)(平) 熊柳。

とせだ(形)(雄) さびし(淋し)。

「お婆さんに逝かれてとせだ。」

とせね(形)(仙、平) さびし(淋し)。

「一人ほうちでとせね。」

とぜん(形)(平) 退屈、さびし。

「今日は留守居でとぜんだ。」

どっちゃ(代)(北、南、雄、由) どちら。

どっちゃ(連)(平) 何方へ。

「どっちゃ行く。」

とっちゃげる(動)(鹿) とりあげる(取り上げる)。

「鍋の中からわらびをとっちゃげる。」

どちり(副)(南、雄) 澤山。

「どちり持って来。」

とつ(名)(平、雄) おとうさん(お父さん)。

とつかめ(連)(平) 取り押へる。

「逃げた盗人をつかめだ。」

とつくつする(動下)(河) くよくよする。

「そんなにとつくつするな。」

とつけぎ(名)(仙) マッチ。(燐寸)。

とつけぎ(名)(平) マッチ。

とつげ(名)(山、平) マッチ。

とつめる(動下)(平) 問ひ詰める。

と の 部

とーせんぼく(名)(鹿) まぬけ(間抜け)。

とだえ(副)(鹿) もともと(元々、元來)。

「とだえお前もわる。」

とだす(動四)(南) 出す。

「嫁をとだす(離縁する)。」

とたべ(連)(仙) とたらう。

「ナイフとたべ。」

どったり(副)(平) 重く卸す。

「籠をどったりおろしてこはれた。」

どち(代)(市) どちら。

とちかめ(動四)(仙) たいほ(逮捕)。

「盗人をとちかめた。」

どちぶれる(動)(鹿) つぶれる(潰れる)。

「昨夜の風であの小屋がどちぶれたと。」

とっちゃ(名)(仙、平) おとうさん(お父さん)。

どっちゃ(名)(仙) 父。

と の 部

どてまでもとつめる。「どてまでもとつめる。」

どても(名)〔鹿〕 どだい(土臺)。

とんてぎ(名)〔平〕 粗忽者。

とてくなた(動四)〔雄〕 死んだ。

「隣のおぢいさんは昨日とてくなたさうだ。」

どんでこんで(副)〔雄〕 どうでもかうでも。

「どんでこんで書かねばならぬから書いてしまふ。」

どでさま(名)〔雄〕 かみさま(神様)。

とでちもね(形)〔平〕 とんでもない。

「とでちもねのことした。」

とんでつもね(形)〔平〕 とんでもない。

「とんでつもねいどういふ。」

とでも(副)〔雄〕 非常に。

「とでもよい模様だ。」

どってん(名)〔市〕 びっくり(吃驚)。

どてんする(動三變)〔鹿、山、南、河、仙、平、雄〕

びっくりする。

「あの大水の時はどてんしてあった。」

どーでんする(動三變)〔鹿、由〕 おどろく。

「あまり強い雷で皆どーでんした。」

どてんだ(形)〔河〕 感心だ。

「人を助けたとはどてんだ子だ。」

どてんまぐる(動四)〔河、雄〕 吃驚する。

「どてんまぐったとは知らなかった。」

とと(名)〔平〕 父。

とと(名)〔山、南、平〕 とり(鳥)。

「鳥類に云ふ。」

とど(名)〔仙、平〕 ちち(父)。

とど(名)〔山〕 をと(夫)。

「下等社會の妻が自分の夫を云ふ時に用ひ、他のにはは稀に云ふ。」

と の 部

とと(名)〔南〕 雞。(小兒語)。

とど(名)〔山、市、仙、平、雄〕 肴。

とど(名)〔北、河、平、雄、由〕 父。

とど(名)〔仙、平〕 夫。

ととこ(名)〔鹿、雄、由〕 蠶。

とどこ(名)〔鹿、北、山、南、市、河、仙、平、雄、由〕

蠶。

どとこ(名)〔平〕 魚。

どどこ(名)〔由〕 うを(魚)。

ととこ(名)〔雄〕 蠶。

とどこ(名)〔仙〕 蠶。

どどこ(名)〔雄〕 おさかな(お肴)。

とどどじやる(句)〔鹿〕 ありがたうございます

(有難う御座います)。

「去年中はとどどじやった。」

どととさね(連)〔平〕 感心しない。

「それはあまりどととさね。」

とどさま(名)〔北〕 お月様。

とどつもね(形)〔河〕 とんでもない。

「餘りとどつもね事を云ふな。」

どどど(副)〔雄〕 どんぐり。

「どどど来い。」

どーどと(副)〔北〕 どしどし、さうと。

「どーどと出来してしまった。」

どーどと(副)〔市、河、平、雄〕 ととと、早く。

「どーどと歸っていった。」

どとど(副)〔由〕 急いで。

「どとど来い。」

どどはん(名)〔由〕 とうさん(父様)。

ととびろ(名)〔平〕 軽卒。

どどめき(名)〔北〕 堰止め。

どどめぎ(名)〔平〕 水を半塞いで激せしめて

との部

流すもの。

とんどりねね (形)〔南、河、平〕 とりとめない。不始末な。

「あの女はとんどりねね。」

とな (接尾)〔雄〕 とさ。

「學生も行くとな。」

となす (名)〔由〕 かぼちち (南瓜)。

となん (名)〔山〕 となり。

とにえく (連)〔山〕 とりにゆく。

「店へ物をとにえく。」

どんぬける (形)〔雄〕 まぬけたる。

「どんぬけ顔してる。」

とねね (動)〔仙〕 とらない。

「わらびとりに行ったが何もとねね。」

とのぐち (名)〔仙、由〕 入口。

どのごぼ (名)〔鹿、南、市、河、仙、平、雄、由〕

んのくぼ (後頭部)。

とは (名)〔平〕 戸外。

とば (名)〔平〕 苦。

とんば (名)〔雄〕 苦。

とばじらかす (動四)〔平〕 あやまる (誤る)。

「とばじらかして硝子をわる。」

とばじらす (動四)〔仙〕 過ちする。

「とばじらしてこはしたから御免な。」

とばずが (名)〔市〕 過失。

とばずが (名)〔市、由〕 あやまち (過)。

とばずかす (動四)〔山、平〕 過ちする。

「とばずかして汗をこぼしたた。」

とばずげげ (名)〔南〕 あやまち、過失。

とばずらがす (動四)〔平、雄〕 過失。

「とばずらがして茶碗を砕いてしまった。」

とばずり (名)〔平〕 餘波。

とんび (名)〔雄〕 まんと。

とびばし (名)〔雄〕 とびぐち。

とんびばし (名)〔雄〕 とびぐち (鳶口)。

とんびらまく (動四)〔雄〕 とぐるまく。

「蛇がとんびらまいて居た。」

とびろ (名)〔山〕 とび、鳶。

どひん (名)〔河、雄〕 どびん (土瓶)

どひんこ (名)〔河〕 急須。

とふ (名)〔山、仙、雄、由〕 とうふ (豆腐)。

どぶ (名)〔由〕 とんぼ。

とふふ (名)〔南、河、平、雄〕 屋外。

と一あぶあぐ (名)〔山、南、市、河〕 當惑。

どんぶどえ (形)〔雄〕 いけずるる。

「どんぶどえ事をすれば信用を失ふ。」

どふら (名)〔山、南、河、仙〕 南瓜。

どふり (名)〔平〕 落とし穴。

との部

どべ (名)〔山、仙〕 泥。

どべ (名)〔仙〕 肥料 (汚いもの)。

どんべ (名)〔平〕 ためて置いた人糞。

とべさへ (名)〔平〕 だらめ (杜撰)。

どへずぐ (動四)〔平〕 どかどかする。

「餘りどへずぐな。」

とほんとしてる (連)〔平〕 うかれてる。

「あの子はいつもとほんとしてる。」

とめめ (名)〔平〕 たうまへ (當番)。

とめば (名)〔雄〕 とめば (止場)。

ども (助)〔雄、由〕 けれども。

「春になったどもまだ寒い。」

ともて (名)〔平、雄〕 田圃。

ともとも (名)〔雄〕 ふくろぐも。

とや (名)〔仙〕 問屋。

どや (名)〔仙、由〕 いかげや (鑄掛屋)。

との部

どやぐ(名)〔仙、平、雄、由〕友人。
 どりやぐ(名)〔雄〕朋友。
 どやどの(名)〔平〕いかけや。
 とよ(名)〔南、仙、平、雄〕樋。
 とよし(名)〔由〕とう、籬。
 だらうず(名)〔南、平〕放蕩者。
 だらうず(名)〔平〕放蕩兒。
 「だらうずむすこ。」
 だらうち(名)〔北、河〕放蕩兒。
 だらぐもの(名)〔山〕放蕩者。
 どりらくもの(名)〔由〕遊藝人。
 とらげばんば(名)〔山〕さんば、産婆。
 とらぼ(名)〔北、南、仙、平〕ばった。
 とらぼ(名)〔雄〕だいまやうばった(大名飛蝗)。
 とらぼはったぎ(名)〔鹿、仙〕ばった。
 だらむすこ(名)〔由〕はうたうむすこ(放蕩息

子)。

どらんこ(名)〔仙、平〕煙草人。
 とらんぼ(名)〔雄〕ばった。
 とり(名)〔仙、平〕通り。
 とり(名)〔山、平〕どま(土間)。
 とり(名)〔仙〕土間。
 とりあげば(名)〔仙〕産婆。
 とりあげばんば(名)〔平〕産婆。
 とりえ(名)〔市〕鳥居。
 とりき(名)〔固〕〔鹿〕くろもじ(鈎樟)。
 とりける(動下一)〔鹿〕かたづける(片附ける)。
 「座敷をとりけれ。」
 とりこ(名)〔仙〕とり(鳥)。
 とりこ(名)〔雄〕にはとり(雞)。
 とりとまらず(名)〔平〕にしきぎ(衛矛)。
 とりばい(名)〔由〕とりおひ(鳥追)。

との部

どりゃ(助)〔平〕なさい。
 「書いどりゃ。」
 どりゃどりゃ(感)〔仙、平〕どれく。
 「どりゃ／＼おれによこして見れ。」
 とりゃとんだ(文)〔雄〕鳥が飛んだ。
 とれだ(動下一)〔北、平〕疲れきた、死んだ。
 「とうとうとれだ(遂にたふれた)。」
 とろびつ(副)〔河〕しよちゆう。
 「とろびつ食ってる。」
 とろべし(副)〔雄〕始終。
 「とろべし酒を飲んでる。」
 とろべし(副)〔平、雄〕始終。
 「とろべし口を動かしてゐる。」
 とろっべじ(副)〔市〕常に、いつでも(何時でも)。
 「某はとろっべじおれの家へきてる。」
 とろっべず(副)〔北〕絶えず。

「とろっべず遊んで居る。」

どろぼ(名)〔山〕どろぼう。
 とろろん(名)〔市〕薯蕷汁。
 とろん(名)〔市〕燈籠。
 とろんこ(名)〔仙〕燈籠。
 とん(感)〔河〕ちよっ。
 「とん馬鹿なことを言て。」
 どんがら(名)〔仙〕いたどり(植物)。
 どんけ(名)〔平、雄〕まぬけ。
 どんご(名)〔山、南〕だうぐ、道具。
 どんころ(名)〔北、平、雄〕太い木の切はし。
 どんじぎちき(名)〔雄〕地鎮。
 どんじぐ(名)〔仙〕たんりよく(膽力)。
 どんじくなし(名)〔仙〕おくびやうもの(臆病者)。
 とんじする(動さ變)〔平〕こまった。

との部

「ほんとにとんじした。」

とんじねね (形)〔河、由〕 徒然だ。

「誰も居なくてとんじねねな。」

とんじ (名)〔南〕 じゅばん。

とんじやくね (連)〔仙〕 なほざり(等閑)。

「暮あそびに夢中になって家業はとんじやくね。」

ねね

とんしょ (接尾)〔平〕 とよ。

「さうだどんしょ。」

とんじよ (名)〔平、雄、由〕 どぢぢらう、泥鰌。

とんじよ (名)〔仙〕 泥鰌。

とんじんあける (動下)〔雄〕 おどろいた。

「あの人にはとんじんあけた。」

とんじんする (動さ變)〔河、仙、雄〕 當惑する。

「あれのわんぱくにはとんじんする。」

とんじんまぐる (動四)〔平〕 非常に驚いた意。

「どんどど走れ。」

とんどんさん (名)〔平〕 雷(兒童語)。

とんのごぼ (名)〔雄〕 ほんのくぼ(盆の窪)。

とんぶぐ (名)〔南、市、河、仙、平、雄〕 わたいれ

ばおり(綿入羽織)。

とんぶで (形)〔平、雄、由〕 づうづうし。

「とんぶで奴だ。」

とんぶり (名)〔平〕 草箒の實。

とんぼ (名)〔由〕 とんぼ。

◆な の 部

な (感)〔平、雄〕 はい。

「な、な、やります。」

な (助)〔鹿〕 か。

「お前も見たな。一緒に行きたいな。」

な (助)〔雄〕 が、は。

「金銭な無い。自分な持って居ない。」

なの部

「おや！とんじんまぐた。」

とんじんまけだ (連)〔仙〕 よくよくしくじった。

「それをこはされてはとんじんまけだな。」

とんじんまける (動下)〔平、雄〕 おどろく。

「とんじんまけた雪だ。」

とんずぎ (名)〔南〕 地がため、地築。

とんたば (連)〔雄〕 と思ったら。

「雪降るがとんたば降らない。」

どんて (連)〔雄〕 と思って。

「僕だどんて許して呉れ。」

どんて (副)〔平〕 だうりで(道理で)。

「車が来たがどんで早いと思った。」

どんても (副)〔仙〕 なる程。

「どんても車が重いとおもったら君が乗ってゐるんだな。」

どんどど (形)〔雄〕 さっさと。

な (接)〔雄〕 ね。

「あのな。」

な (名)〔南、市、雄〕 もの、こと。

「あなたのなも私のなも似てゐる。」燕のとぶな早い。」

なー (感)〔河〕 はい。

甲「あそこに行ったか」、乙「なー。」

なえ (名)〔雄〕 地震。

なえ (代)〔雄〕 なに(何)。

「それはなえだ。」

なえてが (連)〔雄〕 どうしたって。

甲「あら大變だ」、乙「なえてが。」

なえる (動下)〔山、南〕 馴れる、練習する。

「なえればすぐ出来る。」

なかげお (名)〔仙〕 仲買。

なかちろい (形)〔仙〕 細長い。

「なかちろい。」

な の 部

「そのながちろい木をとってくれ。」

ながつり(名)〔仙〕 長居。

ながつれ(形)〔山〕 細長い。

「ながつれ顔だな。」

ながつろい(形)〔鹿〕 細長い。

「長つろい顔。」

なかんど(名)〔鹿〕 仲人。

ながんど(名)〔仙、雄〕 仲人。

ながなおり(名)〔南、由〕 病氣中の中直り。

ながびれ(形)〔平〕 細長い。

「ながびれ物です。」

ながべれ(形)〔河〕 細長い。

「ながべれ顔だ。」

ながっぺろい(形)〔平〕 長い。

「ながっぺろい大根だ。」

ながへろえ(形)〔仙、平、雄〕 長い。

「ながへろえ枝。」

ながら(名)〔河〕 丈の短い筒袖袴。

なから(名)〔南、河〕 長竿。

なからなまんに(副)〔雄〕 なまじひに(惣に)

「學校をなからなまんにしてしまった。」

ながらなまんに(副)〔平〕 半途に。

「學校をながらなまんに止めた人だ。」

なかれ(名)〔平〕 長嶺。

なぎべっちょかく(連)〔平、雄〕 澁面作る、泣顔

をする。

「よくなぎべっちょかく兒だ。」

なぎみそ(名)〔市、河、由〕 泣蟲。

なぎめろ(名)〔南、市〕 泣虫。

なげ(形)〔全縣〕 長い。

「あの木はなげ木だ。」

なげつら(名)〔山〕 泣面。

な の 部

なげる(動下)〔南、平〕 捨てる。

「それを用になげれ。」

なし(接)〔鹿〕 ね。

「私が遊びに行ったらなし。」

なしうる(動四)〔河〕 あてこする。

「餘り人になしうるな。」

なして(副)〔北、山、南、市、仙、平、雄〕 何故に。

「なしてさうした。」

なんじぎ(名)〔鹿、山、平、雄〕 ひたひ(額)

なんじして(副)〔雄〕 どうして。

「なんじして此の様になたらう。」

なんじだんべ(連)〔平〕 どうしてだらう。

「あの人の死んだのは、なんじだんべ。」

なんじて(副)〔雄〕 どうして。

「なんじて勉強しないのか。」

なんじよ(名)〔鹿、山、南〕 謎。

なんじて(副)〔仙〕 何故に。

「昨日なんじよであそびにこない。」

なしる(名)〔河〕 苗代。

なしろ(名)〔全縣〕 苗代。

なす(動四)〔河、雄、由〕 返済する。

「借りたものは早くなせ。」

なす(動四)〔北、平〕 生む。

「おぼこなした。」

なんすが(連)〔平〕 何だとか。

「なんすが、私に來いと。」

なんずぎ(名)〔北、南、市、河、仙、雄、由〕 額。

なんずする(動三變)〔雄〕 なんとする。

「負けたらなんずする。」

なんずんでもかんとんでも(副)〔雄〕 どうでもかう

でも。

「なんずんでもかんとんでも先づ難關を切りぬけ

な の 部

なから安心だ。」「
なずに(副)(雄) 何と。」「

「此の字はなずに讀むか。」「
なすば(名)(由) 乳齒。」「

なだ(連)(山、南) 泣いた。」「
「未だなだ事ない。」「

なたが(連)(鹿、北) 何といたか。」「
「あなたがよくわからぬ。」「

なたごと(連)(雄) どんなこと。」「
「この意味はなたごとだ。」「

なただ(連)(平、雄) どのやうだ。」「
「君の父の病氣はなただ。」「

なったり(副)(平、雄) 決して、どうしても。」「
「なったり行かない。」「

なたんし(連)(雄) なりました。」「
「山は皆白くなつたんし。」「

「なんど、はっきり言へ。」「
なな(名)(雄) もの。」「

「あなたのななも私のななも似てゐる。」「
なにふんに(副)(平) なにとなしに。」「

「あの模様はなにふんに良い。」「
なにへに(副)(仙) 何となしに。」「

「なにへにたゞさう言っただけだ。」「
なに(副)(仙) どうした。(聞き返す時に用

ふ)」「
「なに、よく分らないな。」「

なは(接)(鹿) ね。」「
「あのなは。」「

なばんどり(名)(雄) やませうびん。(翡翠)。
なび(名)(平) 鍋。

なっへ(名)(由) つば(睡)。
なんべすり(名)(仙、平) 牡丹餅。

な の 部

なっちがる(動四)(鹿、平、仙) すがる、吊あさ
がる。

「あの子はすぐなっちがる。」「
なて(南、平) なはて(峻)

なて(連)(雄) なんて。」「
「林檎十錢に三ツだなんて賣つて居た。」「

なてかんで(副)(山、南、市、河、仙、平、雄) 是非
なとも、きつと。」「

「なんでかんで明日来い。」「
なてみず(名)(平) なはてみち。

なても(副)(河、由) なんにも。」「
「なてもなくなつた。」「

なてもね(連)(鹿) 心配ない。」「
「そんな事、なてもね。」「

なと(名)(南、雄) 納豆。」「
なんど(副)(北) 何か。」「

なんべすりもじ(名)(南、河、平、雄) 牡丹餅。
なんぼんだべ(連)(南、雄) いくらですか。」「

「この机はなんぼんだべ。」「
なまんえり(名)(平) 鉛。

なまぐらもの(名)(平) なまけもの。凡物。
なまんじ(副)(仙) 中途半端。

「なまんじな事をするな。」「
なましんどり(名)(鹿) くひな(水雞)。

なままだ(名)(由) 南無阿彌陀佛。
なまだら(名)(鹿) 道草。

「なまだらしなやうに早く行ってい。」「
なまちけ(副)(仙) なまじひに。

「なまちけ學校に入ればなまいきになる。」「
なまにし(名)(鹿) 鯽。

なまね(名)(仙) なまにえ(生煮)。
なめ(名)(北、山、南、仙、平) 名前。

な の 部

なめぐじら (名) (鹿、仙、雄、由) なめくぢ (蛞蝓)
なめくぢら (名) (平) なめくぢ。
な^んも (副) (鹿、山、南) なんにも。

「ゆうべの火事なんも知らない。」
な^もみ (名) (由) ひがた (長く久しく火にあた
れば皮膚に生ずる斑紋)。
な^もみ (名) (平) みづひき、ぬすびとはぎ、や
ぶじらみ、(三者に共通して用ふ)。

な^らじ (名) (山) わるさ。
な^らね (連) (河) 同情が深い。
「ならね^お人達だ。」

な^らね (連) (平) 勝てない。
「私なら到底ならね^お。」
な^りごげ (名) (平) 馬鹿。

な^りったげ (副) (平、由) なるたけ。
「なり^りったげよく縫へ。」

な^んたか^んた (副) (鹿) 何としても、是非共。
「な^んたか^んた出かしてみせる。」
な^んだ^けな (連) (雄) なぜですか(何故か)
「な^んだ^けな、遊びに来ないて。」

な^んだ^て (副) (平、雄) なん^とまあ、如何にも。
「な^んだ^てをか^しい人だ。」

な^んだ^てが (連) (雄) 何ですか。
「な^んだ^てが、も一度聞きたい。」

な^んた^らもの (連) (雄) どん^なもの。
な^んた^ら (連) (平) 何と云ふ。
「な^んた^らま^ちが^った話だ。」

な^んた^らだ^ら (連) (平) まあ、なんといふ。
「な^んた^らだ^ら下^手な繪だ。」

な^んつ^け (連) (平) なん^とい^ってあ^ったか。
「花子はなん^つけ。」
な^んて (連) (北) 何といふか。

な の 部

なりぬげ (名) (平) 不注意者、馬鹿者。
なりもの (名) (南、仙) く^だもの (果實)
な^んえ (副) (平) 何。
「な^んえ^して泣く。」

な^んか^り (接) (雄) など。
「細^なたり^なんか^りして^る。」

な^んこ (名) (平) 酌婦。
な^んこ (名) (鹿、平、雄) 馬肉。
な^んじ^ょ (名) (山、南) な^ぞ (謎)。

な^んす (接) (鹿、仙、平、雄) ね。
「好^い天^気だ^なん^す。」
な^んせ (副) (平) な^にしろ。
「な^んせ^寒い^日だ^こと。」

な^んぞ (名) (仙、由) 謎。
な^んた^か (連) (北) 何ですか。
「な^んた^か、今^いった^のは。」

「今^なん^て。」
な^んて^かん^て (副) (市、平、雄、由) 非常に、何と
い^っても。

「な^んて^かん^て面^白い。」
な^んて^もね (連) (南、市、雄) なん^ともない。
「雨^降っ^たて^なん^ても^ね。」

な^んと (副) (市、河、平) やあ。
「な^んと、良^く出^来た^こと。」

な^んと^が (副) (由) な^にと^ぞ (何卒)
「な^んと^がさ^うし^てくれ。」

な^んと^なん^と (副) (南、平、由) なん^とまあ。
「な^んと^なん^と感^心し^た。」

な^んば (名) (平) 唐辛。
な^んば^く (副) (雄) そ^んな^に。
「此^處か^ら岩^崎ま^では^なん^ばぐ^ない。」
な^んば^ん (名) (鹿、南) 唐辛。

にの部

なんべ(名)〔平〕 おはぐろとんぼ。
なんぼ(副)〔鹿、山、南、仙、平〕 いくら。

「この本をなんぼに買った。」
なんぼが(副)〔平、雄〕 どんなにか。

「なんぼが驚いたやら。」
なんぼけ(副)〔雄〕 何度。

「なんぼけよりも書いて見よ。」
なんぼだ(副)〔鹿〕 いくらでも。

「なんぼだり食へ。」
なんぼばり(副)〔雄〕 どれくらゐ。

「なんぼばり釣れたか。」
なんも(副)〔鹿〕 何も。

「なんも食ひたくない。」
なんもかも(副)〔鹿、由〕 なんもかも。

「なんもかも皆焼いてしまった。」

◆にの部

に(助)〔雄〕 のに。

「人がみんな行くに自分一人だけ行かない。」
にあた(連)〔仙〕 にあつた。(似合つた)。

「此の帽子は君ににあたよ。」
にか(名)〔平、雄〕 赤兒。

「かこ(名)〔雄〕 嬰兒。」
にかこ(名)〔平、雄〕 赤ちゃん。

「あの人にかてまけた。」
にかにかと(副)〔雄〕 にこにこ。

「にかにかと笑つてゐる。」
にかむ(動下)〔鹿〕 しかむ(顰)にかむ。

「障子紙にかめないやうに張れ。」
にぎ(形)〔鹿、山、南、市、河、仙、由〕 憎い。

「彼はにぎ人だな。」

にしまる(動四)〔平〕 汚れる。

「にしまつた姿して来た。」
にしら(代)〔雄〕 貴様たち。

「柿にしまれた。」
にしんだ(連)〔山〕 盗んだ。

「柿にしまれた。」
にすんど(名)〔仙〕 盗人。

「にすんど(名)〔平〕 みがきにしん。」
にだず(動四)〔北、南〕 煮えたつ。

「釜の飯がにだず。」
にどえも(名)〔河、仙、平、雄〕 馬鈴薯。

「にどえも(名)〔南、平〕 荷繩。」
になぎ(名)〔南、平、雄、由〕 擔ひ棒。

「になぎ(名)〔河〕 天秤棒、擔ひ棒。」
ににく(名)〔平〕 にんにく。

「ににく(名)〔鹿〕 庭。(屋内の庭)。」
にやう(動四)〔南、由〕 似合ふ。

にの部

にしご(名)〔平〕 鯨の子。
にしひかし(名)〔平〕 蠶の蛹。

にし(名)〔鹿、山、南、市、仙〕 にしん(鯉)。

にげぼち(名)〔雄〕 藁で造つた雪よけの帽子。
にげ(形)〔鹿、南、仙、平、雄〕 ながい。

「これはにげ菓子だな。」
にげ(名)〔全縣〕 一階。

「にげ(名)〔雄〕 ねぶと(根太)。」
にぎりこ(名)〔仙〕 握飯。

「にぎりこ(名)〔南〕 握拳。」
にぎりこ(名)〔雄〕 ねぶと(根太)。

「にぎりこ(名)〔南、河〕 右。」
にぎ(形)〔鹿、南、仙、平、雄〕 賑やかだ。

「にぎ(形)〔鹿、南、仙、平、雄〕 賑やかだ。」
にぎ(名)〔全縣〕 一階。

「にぎ(形)〔鹿、山、南、市、河、仙、由〕 憎い。」
にしまる(動四)〔平〕 汚れる。

「にしまつた姿して来た。」
にしら(代)〔雄〕 貴様たち。

「柿にしまれた。」
にしんだ(連)〔山〕 盗んだ。

「柿にしまれた。」
にすんど(名)〔仙〕 盗人。

「にすんど(名)〔平〕 みがきにしん。」
にだず(動四)〔北、南〕 煮えたつ。

「釜の飯がにだず。」
にどえも(名)〔河、仙、平、雄〕 馬鈴薯。

「にどえも(名)〔南、平〕 荷繩。」
になぎ(名)〔南、平、雄、由〕 擔ひ棒。

「になぎ(名)〔河〕 天秤棒、擔ひ棒。」
ににく(名)〔平〕 にんにく。

「ににく(名)〔鹿〕 庭。(屋内の庭)。」
にやう(動四)〔南、由〕 似合ふ。

ぬの部

「よくにやう夫婦だこと。」
 「やく(名)〔南、河〕にひやく。」
 「この子供はにやらごだ。」
 「にやらご(名)〔平〕弱者。」
 「はでな模様で、若い人ににやる。」
 「はでな(名)〔鹿〕 稲架に乾かして後雨雪を防ぐ爲
 稲を圓錐形に積み上げたもの。」
 「文字(小兒語) 佛様。(幼兒語) ねらふ(覘ふ) 片目でにらつた。」
 「煮えた。」
 「煮えたる(連)〔平〕 煮えたる。」
 「魚がにれた。」
 「煮えたる(動下)〔河、雄、由〕 煮えたる。」
 「芋がにれた。」

「土間。」
 「にわに庭敷いて遊ぶ。」
 「にわがんだお祭だ。」
 「にはとこ。」
 「詐欺の爲に作った不正物。」
 「ぬの部」
 「ぬぎ(名)〔由〕 のき(軒) 暑い、暖い。」
 「今日はぬぐえ日だ。」
 「ぬぐだまる(動四)〔鹿、南、仙、雄〕 あたたまる(暖まる) 一心に。」
 「ぬったり(副)〔平〕 ぬったり勉強する。」
 「ぬりし(塗師) 一面に、すっぽり。」
 「ぬり(名)〔山、南、河、仙〕 のり(糊) ぬる(動四)〔鹿、山、南、仙、平、雄、由〕 のる(乗る) 車にぬって停車場に行った。」
 「ぬる(動四)〔鹿〕 縫ふ。」
 「ぬる(動四)〔鹿〕 すべる、迂る。」
 「ぬれ(形)〔平〕 ぬるい。」
 「ぬれんこ(名)〔平〕 椽側。」

ぬの部

「からだをぬぐだめる。」
 「ぬげ(名)〔鹿、平〕 間抜け、馬鹿。」
 「ぬげ(形)〔北、平〕 暑い。」
 「ぬげ(名)〔南、雄〕 精。」
 「ぬす(と)〔名)〔鹿、南〕 盗人。」
 「ぬせる(動下)〔南、市〕 のせる。」
 「ぬだぐる(動四)〔南、仙、平、雄、由〕 塗りつける。」
 「ぬだんばる(動四)〔鹿、平〕 這ふ、倒れる。」
 「ぬし(名)〔南、雄〕 精。」
 「ぬす(と)〔名)〔鹿、南〕 盗人。」
 「ぬせる(動下)〔南、市〕 のせる。」
 「ぬだぐる(動四)〔南、仙、平、雄、由〕 塗りつける。」
 「ぬだんばる(動四)〔鹿、平〕 這ふ、倒れる。」
 「ぬし(名)〔南、雄〕 精。」
 「ぬす(と)〔名)〔鹿、南〕 盗人。」
 「ぬせる(動下)〔南、市〕 のせる。」
 「ぬだぐる(動四)〔南、仙、平、雄、由〕 塗りつける。」
 「ぬだんばる(動四)〔鹿、平〕 這ふ、倒れる。」

「ぬたり(副)〔平〕 一心に。」
 「ぬったり勉強する。」
 「ぬりし(塗師) 一面に、すっぽり。」
 「ぬり(名)〔山、南、河、仙〕 のり(糊) ぬる(動四)〔鹿、山、南、仙、平、雄、由〕 のる(乗る) 車にぬって停車場に行った。」
 「ぬる(動四)〔鹿〕 縫ふ。」
 「ぬる(動四)〔鹿〕 すべる、迂る。」
 「ぬれ(形)〔平〕 ぬるい。」
 「ぬれんこ(名)〔平〕 椽側。」

ねの部

◆ねの部

ね(名)〔平、雄〕 近傍。

ね(名)〔鹿、河、仙、雄〕 苗。

ね(形)〔全縣〕 無い。

「こゝになんかなにもねあ。」

ねおの(連)〔平〕 ないもの。

「いくら探してもねおの。」

ねがす(動四)〔南、由〕 ながす。

「そのねすみねがすなよ。」

ねから(副)〔由〕 すこしも。

「此の事はねから分らない。」

ねぎ(名)〔平〕 神主。

ねぎする(動三變)〔平、雄〕 だだこねる、ねだ

る。

「いつもねぎする子供だ。」

ねぎばな(名)〔仙〕 鼻汁。

ねぎんび(名)〔平、由〕 にきび。

ねくなる(動)〔鹿、山、南、平、雄〕 無くなる。

「雪はだんだんねくなる。」

ねくりげ(動四)〔平〕 にえかへるほど、に

ぎやかである。

「ねくりげちて笑ふ。」

ねくるげ(動四)〔仙、平〕 大にぎやかだ。

「子供多くてねくるげあ。」

ねげ(名)〔仙、平〕 願事。

ねげさる(動四)〔北、南〕 寝る(罵語)

「早くねげされ。」

ねげ(動四)〔平〕 寝る(罵語)

「まだねげしゃってるか。」

ねけ(連)〔北〕 大騒動した。

「解散を命じたら議場はねけした。」

ねげる(動下)〔南、河、仙、平、雄、由〕 逃げる。

「あのねさ。」

ねじ(形)〔雄〕 吝嗇だ。

「ねじくて何もくれな。」

ねしき(名)〔由〕 寢床。

ねじくれる(動下)〔北〕 すねる。

「大變ねじくれる子供だ。」

ねんじん(名)〔平〕 人蔘。

ねじこび(名)〔平、雄〕 吝嗇家。

ねし(名)〔由〕 執念。

ねす(接)〔市、河〕 ねー。

「あのねす。」

ねず(形)〔河、雄〕 丁寧だ、吝嗇だ。

「ねず人で、義捐金なんか出さない。」

ねずい(形)〔市、平〕 吝嗇だ。

「あまりねずい人だ。」

ねず(名)〔由〕 よくばりもの。

ねの部

「戦はずにねげる事ばかり考へてゐる。」

ね(名)〔平〕 泥炭。

ね(名)〔仙、由〕 根。

ね(名)〔平〕 泥炭。

「あの人はねちりかまへてゐる。」

ねごげ(名)〔平〕 まうせんごけ。

ねこげら(名)〔平〕 背當。

ねこんばる(動四)〔河、仙、平、雄、由〕 カむ、氣

張る。

「ねこんばって綱引してゐる。」

ねこび(名)〔平〕 吝嗇者。

ねこんぼ(名)〔平、雄、由〕 ねぶと。

ねこんぼ(名)〔南、河〕 ねぶと、腫物。

ねごもの(名)〔北〕 腫物。

ねこんこ(名)〔平〕 ねこやなぎ。

ねさ(接)〔河、市〕 ねー。

ねの部

ねずみづくり(名)〔鹿、北、山〕 癩痢。
 ねすら(名)〔平〕 いたづら。
 ねずれる(動下二)〔由〕 野合して夫婦となる。
 「あの二人はねずれた人方だ。」
 ねそかれる(動下二)〔平〕 寝損ふ。
 「昨夜はねそかれてしまった。」
 ねだ(連)〔雄〕 煮えた。
 「お汁がねだ。」
 ねった(連)〔平、雄〕 ねむった。
 「もうねったのか音が無い。」
 ねだず(動四)〔鹿、平〕 煮えなかつた。
 「御飯がねだず。」
 ねたつ(動四)〔雄〕 煮え立つ。
 「湯がねたつ。」
 ねったれ(名)〔由〕 寝小便たれ。
 ねっち(名)〔仙、平〕 寝小便。

「子牛は繩をつけねまても親牛のそばを離れな
 50」

ねねこ(名)〔鹿、南、平〕 子供を負ふ時の綿入上
 着。

ねねあんほち(名)〔河〕 無一物。
 ねんばす(名)〔河、平〕 眞綿。
 ねふかぎ(名)〔平、雄〕 居睡。
 ねぶかぎ(名)〔平、雄〕 居眠り。
 ねぶかぎ(名)〔仙〕 居眠り。
 ねんぶかぎ(名)〔山、河、仙、雄、曲〕 居眠り。
 ねんぶかぎ(名)〔鹿、南、市〕 居眠り。
 ねぶかけ(鹿、平) 居ねむり。
 ねんぶこ(名)〔由〕 寝坊。
 ねんぶた(名)〔鹿〕 たなばた(七夕)。
 ねんぶた(名)〔平〕 ねむのき。
 ねんぶて(連)〔鹿、南、平〕 眠い。

ねの部

ねちくちんだ(形動)〔平〕 因循である。
 「あの子の性質はねちくちんだ。」
 ねちたれ(名)〔平、雄〕 寝小便をする人。
 ねちねちする(動三變)〔平〕 ねばねばする。
 「今朝のままはねちねちする。」
 ねちよふけ(形)〔北、南〕 執念深い。
 「ねちよふけ人だ。」
 ねちよふけ(連)〔平、雄〕 執念深い。
 「ねちよふけ人だ。」
 ねちり(副)〔平〕 どしり。
 ねつい(形)〔仙〕 吝嗇だ。
 「あの人ねつい人だ。」
 ねつばれ(名)〔由〕 寝小便。
 ねってし(副)〔平〕 さっぱり。
 「あれはねってしだ。」
 ねとても(連)〔雄〕 なくとも。

「あゝねんぶて。」

ねべ(名)〔平〕 よだれ。
 ねべ(形)〔雄〕 念入な。

「あの人はねべ人だから失敗がない。」
 ねんべ(名)〔南、河、雄〕 根際から出た新條。
 ねんべ(名)〔雄〕 新條、新しい枝。
 ねんべこ(名)〔平〕 根生。
 ねべし(連)〔由〕 寝ませう。
 ねっぼ(名)〔仙〕 吝嗇家。
 ねんぼ(名)〔山、南〕 棒。
 ねんぼたげる(動下二)〔由〕 寝坊する。
 「ねんぼたげて學校に遅れた。」
 ねまてたんひ(連)〔仙〕 坐って下さう。
 「さあ先づねまてたんひ。」
 ねまる(動四)〔鹿、河、仙、由〕 坐る。
 「ねまる場所がなくなった。」

の の 部

ねねら(名)〔平〕馬がかぜひきして鼻汗をたらすこと。

ねねる(動下二)〔鹿、平、雄〕煮える。

「鍋の魚がねる。」

ねねる(動下二)〔鹿、南〕眠る。

「子供等はねる頃だ。」

ねねれれままここ(名)〔平〕出来そこなひ者。

ねねろ(連)〔雄〕ねよう。

「さあもうねろ。」

ねねんんじじ(名)〔鹿、北、南〕人蔘。

ねねんんじんじん(名)〔鹿、山、南、仙、由〕人蔘。

の の 部

のの(動上二)〔雄〕見よ。

「行つての」、「來ての」、「さうしての。」

ののええ(名)〔山〕野原。

ののぐぐだだままるる(動四)〔河〕暖まる。

「したつでのぐだまれ。」

ののけけ(名)〔河〕間ぬけ。

ののここ(名)〔山、南〕植物の初芽。

ののここうう(動四)〔雄〕ぬぐふ。

「鼻をのこう。」

ののここずずりり(名)〔由〕のこぎり。

ののここりり(副)〔鹿〕澤山。

「一晩の中のにっこり雪がふった。」

ののささんんばばりりここ(名)〔平、雄〕ぬすびとはぎ。

ののささんんばばるる(動四)〔北、山、市、河、仙、平、雄、由〕

甘える。

ののっっささりり(副)〔平〕澤山。

「雪がのっさり積った。」

ののささるる(動四)〔北〕乗る。

の の 部

ののがが(名)〔河〕綬殼。

ののかかががるる(動四)〔南、河、雄、由〕寄りかゝる。

「そこにかがると戸がはづれる。」

ののががるる(動四)〔南、河〕ぬかる。

「のががてあるかれな。」

ののぎぎ(名)〔河、仙、平〕虹。

ののぎぎ(形)〔山、仙〕暖く。

「この頃は少しのぎぐなつた。」

ののききんんけけるる(動四)〔雄〕仰向になる。

「あの人はのきんけけて居た。」

ののぐぐ(動四)〔南〕脱ぐ。

「着物をのぐ。」

ののここるる(動四)〔平〕拭ふ。

「汚ないからののここれ。」

ののごごれれ(形、動)〔南、仙〕名残惜しい、残念な。

「これでやめるのはのごれな。」

ののじじ(名)〔鹿、北、平、雄〕虹。

ののんんじじ(名)〔南〕虹。

ののししええんんげげるる(動下二)〔河〕ぶんなぐる。

「あんな奴のしえんえんげげれ。」

ののししええんんげげるる(動下二)〔河〕おだてる。

「のしえんえんげて旨い事した。」

ののじじととすす(動三變)〔雄〕やりとほす。

「あの人ならのじとすだらう。」

ののぞぞここむむ(動四)〔平、由〕のぞき込む。

「人の家をのぞこむな。」

ののだだぐぐるる(動四)〔河、由〕なすりつける。

「いつも罪を人にのだぐぐて。」

ののだだんんばばるる(動四)〔鹿、北、南、河、仙、平、雄、由〕

うつぶしになる。

「石につまづいてのだんばばつた。」

の の 部

のちり (副)〔平、仙、雄〕 澤山。
 「のちり雪が降った。」
 のつてあがる (動四)〔雄〕 乗する。つけあがる。
 「のつてあがって困った奴だ。」
 のんであがる (動四)〔平〕 つけあがる。
 「餘りのんであがるな。」
 のつておげる (動下二)〔雄〕 おだてる。
 「あの男をのつておげれ。」
 のんどしずこ (名)〔平〕 懸壺垂。
 のんどすんちこ (名)〔南、市〕 懸壺垂。
 のどろ (名)〔平〕 芋かけ豆腐。
 のの (名)〔北、仙、雄〕 布。
 のの (名)〔河〕 木綿綿入。
 ののかだり (名)〔平〕 どもり。
 のの (名)〔山〕 雷様。
 のの (名)〔北〕 和尚様。

のんのさん (名)〔北、南、仙、平、由〕 僧侶。
 ののんば (名)〔平〕 つりがねにんじん、そばな、
 ききょうの若葉。
 のんば (名)〔山、南、河〕 火葬場。
 のふ (名)〔河〕 間ぬけ。
 のへ (名)〔北、山、平、雄〕 間抜け。
 のへ (名)〔仙、平〕 長い人。
 のへ (名)〔雄、南〕 ぼんやり、無能者。
 のの (形)〔鹿〕 のろい。
 「そればかりのことのののやつだな。」
 のの (副)〔雄〕 絶えず。
 「ののの飲んでばかりゐる。」
 のの (副)〔河〕 しょっちゅう。
 「のののとろろ、失敗してゐる。」
 のの (副)〔平〕 鈍漢。
 のの (副)〔北、山、河〕 始終。

の の 部

「ののの遊びでばかり居る。」
 のほり (名)〔平〕 おくみ(枉)
 のま (名)〔雄〕 大きな蜻蛉。
 のま (名)〔山、南、仙、平、雄〕 沼。
 のま (名)〔南、河、由〕 とま(舌)
 のま (名)〔南、河、由〕 とま小屋。
 のみぬけ (名)〔鹿〕 よっぱらひ。
 のめくる (動四)〔北〕 うそぎまはる。
 「のめくつてあるて居る。」
 のめくる (動四)〔鹿、南〕 轉ぶ、顛く。
 「あの子はのめくつた。」
 のめくる (動四)〔鹿、河、平、由〕 行く、来る、
 (卑語)
 「よくのめくる奴だ。」
 のめす (動四)〔北〕 押倒す。
 「あいつをのめしてやれ。」

のら (名)〔平〕 愚者、下等のもの。
 のりぎ (名)〔平〕 神おろし。
 のりん (連)〔南、雄〕 無法な、非常な、
 「のりんでねえ寒い日だ。」
 のりもの (名)〔仙〕 塗物。
 のーれ (形)〔由〕 のろまな。
 「のーれ男だな。」
 のれずげ (名)〔鹿〕 梟。
 のろかぶる (動四)〔平〕 どころかぶる。(泥被る)
 「まるでのろかぶつた。」
 のんこ (名)〔南、仙〕 幼苗。
 のんさま (名)〔北〕 長男(上流の)。
 のんのさん (名)〔平〕 男兒。
 のんのんど (副)〔平〕 勢一ぱいに、盛んに。
 「のんのんど走つてきた。」
 のんま (名)〔平〕 大きな蜻蛉。

はの部

◆はの部

は(名)〔雄〕はう、方。

「増田に行ったはえー。」

ば(助)〔雄〕は、をば。

「生徒ば此處に入れなさい。」

はー(助)〔雄〕よ、ね。

「寒くなったはー、お前に譲るはー。」

ばー(名)〔雄〕祖母。

はーえ(感)〔雄〕ごめんください。

「はーえ、太郎さんは居りますか。」

はえぐ(副)〔山、由〕早く。

「はえぐ走れ。」

はえならし(名)〔市〕灰搔。

はが(名)〔由〕石碑。

はがえぐ(動四)〔由〕はかゆく、捗る。

「あの仕事ははがえたな。」

ば、きさらば、きさら(副)〔山、平〕弾力あって堅く。

「この昆布はば、きさらば、きさらしてゐる。」

はきり(名)〔南〕大盥。

はぐ(副)〔山、南、由〕早く。

「はぐ行って来。」

ばぐ(名)〔南、市、河、平〕嘘。

ばぐじこぎ(名)〔山〕博奕者。

はんくた(名)〔雄〕半端。

はぐたもの(名)〔全縣〕一人前ないもの。

ばぐて(副)〔南、平〕莫大。

「この着物は、ばぐてよよいものだ。」

はぐむし(名)〔南〕しみ(紙魚)。

はぐらん(名)〔全縣〕霍亂。

ばぐる(動四)〔仙、平〕交換する。

「それとこれとをばぐれ。」

ばぐろ(名)〔平〕交換。

はの部

はがおれ(名)〔平、雄〕朝食後の就業。

ばがけ(名)〔全縣〕馬鹿者。

はがど(名)〔北〕墓所。

はから(副)〔鹿〕今から、こんなに早く。

「はから歸るのか。」

はから(副)〔市、平〕早くから、(年若いから)

「あの子ははから煙草吸ふ。」

はがりむす(名)〔平〕しゃくとりむし。

はがわ(名)〔山〕女郎。

はぎ(名)〔全縣〕箒。

はぎかける(動下一)〔由〕勵ます。

「犬にはぎかけてゐた。」

はぎばん(名)〔山〕掃除當番。

はっきょ(名)〔北〕八卦。

はきさら(副)〔雄〕はきり。

「はきさらとした目だ。」

はけ(形)〔市、河、仙〕冷い。

「はけ水だ。」

はげ(名)〔鹿、平〕はね(羽)。

ばけ(名)〔由〕分家。

ばんけ(名)〔由〕路の臺。

ばけ(名)〔鹿、山、南、仙〕路の臺。

はげえぐ(動四)〔鹿〕はかどる。

「あの仕事ははげえぐた。」

はけおぎ(名)〔山、南、市〕卜筮師。

ばけあす(動四)〔平〕奪ひ取る。

「それをばけあせ。」

はげてっぺ(名)〔仙〕はげあたま(禿頭)。

ばっけ(動四)〔平〕とりかへる(取換へる)。

「この小刀と鉛筆十本とばっけ。」

はご(副)〔河〕早く。

「はご来。」

はの部

ばい(名)〔南〕馬具。
 ばい(副)〔山、由〕すこし〔少し〕。
 「砂糖ばいこくれ。」
 ばい(名)〔平〕老婆。
 ばい(名)〔仙〕長女以外の女の子。
 ばい(形)〔河〕ひやい(冷い)。
 「はい水だ。」
 ばい(形)〔仙、平、雄〕冷い。
 「はい水だ。」
 ばい(名)〔仙〕はぐき(齒莖)
 ばい(名)〔平〕かたばみ。
 ばい(名)〔山〕白墨。
 ばい(名)〔鹿、南〕いなぎ、はで、稻架。
 ばい(名)〔平〕老婆。
 ばい(名)〔鹿、南〕流産。
 ばい(名)〔山〕蜂。

ばい(名)〔南、雄〕猫などの尾の短くなったもの。
 ばい(名)〔南〕端。
 ばい(連)〔平〕罰が當る。
 「そんな事をするとはい(だ)るよ。」
 ばい(名)〔全縣〕はじめ(始め)。
 ばい(動四)〔南、由〕快活に騒ぐ。
 「はい子供だ。」
 ばい(名)〔鹿〕婆さん。
 ばい(名)〔山〕走り競べ。
 ばい(名)〔鹿〕流しもと。
 ばい(名)〔鹿、仙、由〕把針、裁縫。
 ばい(名)〔南、河、仙、平、雄、由〕詐り、嘘。
 ばい(助)〔平〕ばかり。
 「少しばい(だ)呉れ。」
 ばい(動四)〔市、仙〕嘘をいふ。
 「あの人はばい(だ)すこい。」

はの部

ばい(動四)〔雄〕漏らす、外す。
 「見ばい(だ)さない様に善く見ろ。」
 ばい(動下)〔平、雄〕うそをつく。
 「お前はばい(だ)すまげてゐる。」
 ばい(動四)〔平〕乾く。
 「この頃の早にはばい(だ)すらいだ。」
 ばい(動四)〔鹿、北〕はしる。
 「子供がばい(だ)せる。」
 ばい(連)〔山、平〕おんぶさせる。
 「赤子をばい(だ)せる。」
 ばい(名)〔河〕秣桶。
 ばい(名)〔平〕うそ(嘘)。
 ばい(名)〔雄〕てんたう虫だまし。
 ばい(名)〔鹿、北〕凧。
 ばい(連)〔平〕筈だ。
 「明日君の家に行くはばい(だ)だ。」

ばい(名)〔鹿〕親(動物にいふ)。
 ばい(名)〔北〕小兒の遊戯。
 「紙牌を打ちて裏返りたるものを取りて自分
 のものとする遊戯。」
 ばい(名)〔雄〕馬追虫。
 ばい(動四)〔山、平〕へだ(る)る。
 「あまりはばい(だ)がるな。」
 ばい(連)〔雄〕打たれる。
 「はばい(だ)がれるといけない、行くな。」
 ばい(名)〔山、南、平、雄〕はたけ(畠)。
 ばい(名)〔山、南〕いなご。
 ばい(動四)〔南、仙〕た(く)く(擲)く。
 「人をはばい(だ)ぐ。」
 ばい(動下)〔山、南、雄〕開く。
 「懷をはばい(だ)げる。」
 ばい(動下)〔南、河〕掻き集める。

は の 部

「その米をはんだげてゆけ。」

はんだこ (名)〔鹿、仙、雄〕 肌着。

はんだす (名)〔鹿〕 農村にて嫁が實家に歸り休むこと。

ばったり (名)〔北〕 水臼。

はだる (動四)〔平、仙〕 ねだる。

「金をはだる。」

ぼち (名)〔平〕 半纏。

はんちける (動下一)〔山、南〕 はじける。

「豆はんちけた。」

はんちこ (名)〔平〕 はし(端)。

ぼちこ (名)〔仙〕 末子。

ぼちち (名)〔仙、平〕 妹。

ぼちち (名)〔雄〕 伯叔母。

はちがる (動四)〔南、仙〕 はねあがる。

「あまり太陽にてられてこの板はちがった。」

はなわせ (名)〔由〕 はなあはせ(花合)。

はねがる (動四)〔山〕 抵抗する。

「あの子は親に叱られたらはねがって行った。」

はねばこ (名)〔河〕 片足跳躍。

はのえ (名)〔平、雄〕 梁の上。

ばば (名)〔河、平、雄、由〕 煙草(小兒語)。

ばんば (名)〔全縣〕 糞。

はっぱ (名)〔平〕 ダイナマイト。

ぼっぱ (名)〔全縣〕 老婆。

ばっぱ (名)〔河〕 着物(小兒語)。

はばぎ (名)〔南、平〕 きゃはん。

ばっばする (動三變)〔鹿、山〕 おんぶする。

「子供をばっばする。」

はっぴ (名)〔山、南、河、雄、由〕 はんぴ(半臂)。

はんぶかけ (名)〔全縣〕 端、斷崖。

ばんぼける (動下一)〔雄〕 跳ねまはる。

は の 部

はちちがる (動四)〔全縣〕 そり反る。

「この板はちちがった。」

はちちちぎ (名)〔雄〕 ほととぎす(杜鵑)

ばちちめ (名)〔仙〕 次女以下の小女。

ばっつ (名)〔平〕 末子。

ばっつ (名)〔平〕 祖母。

ばって (接)〔北〕 けれども。

「雨が晴れ、ばえばって。」

はんど (名)〔平〕 まど(窓)。

はんどめ (名)〔平〕 家の入口。

はなおど (名)〔山、南、市〕 軒。

はなごど (名)〔鹿〕 いびき(鼾聲)。

はなごんび (名)〔山、南、市〕 鼻糞。

はなつらもど (名)〔北、山、南〕 眼前。

はなびぎ (名)〔平〕 いびき(鼾)。

はなびち (名)〔北〕 鼻の低いもの。

「子供がばんぼけて歩く。」

はまりかくする (動三變)〔雄〕 差出口する。

「人の事にはまりかくするな。」

はまる (動四)〔雄、由〕 おごる(奢)。

「今日は一つはまるがな。」

はみこぐ (動四)〔河〕 強辯する。

「はみこぐ人だ。」

ばやう (動四)〔雄〕 奪ひ合ふ。競争する。

「菓子などをばやうものでないよ。」

ばやがす (動四)〔河〕 ごまかす。

「あの事件をばやがしてしまった。」

はやす (動四)〔山、南、河、平、雄〕 切る(料理の時)

「魚をはやす。」

ばやとり (名)〔雄〕 うばひあひ。

はやな (連)〔平〕 はやいな。

はの部

はらおき(連)(仙) 妊娠してゐる。

「隣のお嫁さんがはらおきくなった。」

はらたがくなる(連)(南、由) はらむ(妊)

はらち(連)(平) まんぶくした。

「あまり食べたらはらちやくくなった。」

はらつゑ(連)(山、南、仙、由) まんぶくした。

「あゝはらつゑ。」

はらはす(連)(平) 下痢。

ばらばら(名)(鹿、平) 雨(兒童語)。

はらびだ(名)(鹿) 妊娠。

「どうせ賣る牛だけけれど、はらびだから。」

はらんびと(名)(平、由) 妊婦。

はらびり(名)(平) 下痢。

はらんべ(名)(山、南) 心地、感情、胃腸の工合。

はらわり(連)(山、南、仙、平、雄) はらたつ(腹立つ)

「ああはらわり、もうやめた。」

ばり(助)(鹿、北、南、仙、平、雄) ほど(程)。

「こればり、もってきた。」

ばりこ(助)(鹿) ばかり。

「こればりこくれるのか。」

はりぎ(名)(雄) とげ魚。

はりじり(名)(雄) 針當。

はれ(副)(雄) はっきり。

「目のはれと見える。」

ばれる(連)(全縣) おんぶする。

「あんまり道悪いからばれて来。」

はんかくせ(連)(山) 非常識だ。

「彼ははんかくせ奴だ。」

ばんげ(名)(全縣) 晩。

はんち(名)(鹿、北、山) 筒袖の羽織にて襟を返さぬもの。

はんで(接)(鹿、平、由) であるから。だから。

「天気だはんで山へ行く。」

ぼんどり(名)(雄) むさぶび。

はんば(名)(南、仙) なまじ。半端。

ぼんば(名)(山、南、仙、平) 老婆。

ぼんぱん(名)(雄) 面圖。

「ぼんぱん遊びをしませう。」

はんび(名)(全縣) 土曜日。

ぼんめ(名)(南、平) 順番。

ひの部

ひおんばさん(名)(雄) 曾祖母。

ひかぎ(名)(鹿) 十能。

ひかだ(名)(南) 南南西風。

ひからめ(名)(山) ひがめ。

ひぎ(形)(山、南、河、由) ひく(低)。

びつき(名)(平、雄) 財布、墓口。

ひの部

びつき(名)(全縣) かへる。

ひぎる(動上)(北) 蠶が成熟する。(蠶の成熟に用ふ)

「蠶はもはやひぎる。」

ひぐ(動四)(仙) いそぐ(急ぐ)。

「未だ時間があるからひぐな。」

ひくなぎ(名)(雄) せきれ(鶺鴒)。

ひぐる(動四)(仙、平) 閉ぢる。

「目をひぐる。」

ひげし(名)(平) ひがし(東)。

ひけとる(動四)(平) 負ける。

「どこに行っても、ひけとらな。」

ひこだめ(名)(雄) くぼみ(凹處)。

ひこなぎ(名)(雄) せきれ。

ひこむ(動四)(山、仙) ひいむ(引込む)。

「打ったらひこんだ。」

「打ったらひこんだ。」

ひの部

ひざか**んぶ**(名)〔北、南、仙〕膝頭。
ひさ**んぎ**(名)〔平〕木製の片口。
ひし(名)〔南、市、河、平〕低鼻、又は女兒の眨稱。

ひじ**さ**(名)〔平〕曾祖父。

ひじ**ちり**(名)〔鹿〕眩。

ひじ**つり**(名)〔雄〕眩。

ひし**ばな**(名)〔平〕低鼻。

ひん**じゃ**(名)〔鹿、河、平、雄、由〕膝。

ひし**ゃ**か**げ**る(動下)〔北〕虚喝する。

「餘り騒ぐからびし**ゃ**か**げ**てやる。」

ひん**じ**ゃ**かんぶ**(名)〔鹿、山、仙〕膝頭。

ひん**じ**ゃ**て**(名)〔雄〕前垂。

ひ**ず**ぎ(名)〔河〕爐縁。

ひ**せ**る(動下)〔雄〕ふせる(伏せる)。

「本をひせる。」

ひだ**ら**こ**い**(形)〔平〕平たい。

「此れはひだ**ら**こ**い**石だ。」

ひた**ら**こ**い**(形)〔仙〕平たい。

「ひた**ら**こ**い**石だ。」

ひた**り**(名)〔雄〕ふたり(二人)。

ひん**だ**り**こ**ぎ(名)〔平〕左きき。

ひち**げ**る(動下)〔雄〕くじく(挫く)。

「手をひち**げ**まった。」

ひち**ゃ**ぐ(動四)〔平〕引裂く。

「紙をひち**ゃ**ぐ。」

ひち**ゃんぶ**す(動四)〔河〕ぶつぶす。

「ひち**ゃんぶ**して仕舞へ。」

ひち**ゃり**(副)〔由〕びし**ゃり**。

「びち**ゃり**つぶした。」

ひち**ょ**げ**る**(動下)〔北〕壓しつぶされる。

「餘り高いからひち**ょ**げ**る**。」

ひの部

ひだ(名)〔鹿、山、平〕女を罵っていふ語。

ひた**ん**ぎ**る**(動上)〔平〕切る。

「木をひた**ん**ぎ**る**。」

ひた**た**ぎ**る**(動上)〔雄〕ひききる(挽き切る)。

「木を鋸でひた**た**ぎ**る**。」

ひた**た**くた(連)〔平〕奪ひ取った。

「私のもってゐたのをひた**た**くた。」

ひた**た**ぐ**ら**げ(名)〔平〕裾を端折る。

「ひた**た**ぐ**ら**げして働く。」

ひだ**し**ゃ**れ**(名)〔平〕女をひどく罵る語。

ひた**つ**(名)〔平、雄〕ふたつ(二つ)。

ひだ**て**(副)〔仙〕先頃。

「君はひだ**て**どこへ行った。」

ひだ**み**(名)〔平〕櫛の實。

ひた**む**(動四)〔雄〕したむ(醗む)。

「醬油をひた**む**。」

ひ**ん**で(形)〔全縣〕ひどい。

「ひ**ん**で雨だ。」

ひ**て**お(名)〔平〕ひたひ(額)。

ひ**て**お(副)〔平、雄〕一寸の間。

「ひ**て**お待ちなさう。」

ひ**て**もの(名)〔市、雄〕單衣。

ひ**で**り**め**こ(名)〔市〕すがめ(眇)。

ひと**げ**お**り**(副)〔仙、平、由〕一度。

「ひと**げ**お**り**行った。」

ひど**こ**(名)〔平〕窪地。

ひと**ご**ん**び**する(動さ變)〔山、南、市〕はにかむ。

「私の赤ちゃんは人**ご**ん**び**する。」

ひと**ず**に(副)〔平〕一緒に。

「今私もひと**ず**に行きませう。」

ひと**ず**れに(副)〔雄〕一緒に。

「皆ひと**ず**れに行く。」

ひとたぼげあ (副)〔平〕 しばらく。

「ひとたぼげあかかった。」

ひとて (連)〔雄〕 一人で。

「ひとで働ぐ。」

ひとりかが (名)〔平〕 やもめ(寡婦)。

びんどりげあ (動四)〔平〕 反りかへる。

「日に乾かしたら、あの板がびんどりげあった。

びんど (動四)〔雄〕 ひぞる(乾いて反る)。

「板が天日の爲、びんどってしまった。」

ひとあ (市、仙、平、雄) 一寸の間。

「ひとあ待あててくれ。」

ひな (名)〔市〕 兄。

「あれは私のひなです。」

ひなくせあ (連)〔山、平、雄〕 焼けくさす。

「何だかひなくせあな。」

ひねぎ (動上)〔平〕 ひねる。

「お尻をひねぎる。」

ひねじ (動上)〔河、平、雄〕 つねる、ひね

る。

「言ふ事をきかないとひねじる。」

ひのまえ (名)〔雄〕 ひるのまへ(午前)。

ひばん (名)〔平〕 曾祖母。

ひびな (名)〔雄〕 たんほほ。

ひびれ (動下)〔雄〕 しびれる(痺れる)。

「足がひびれる。」

ひぶど (名)〔北〕 すびつ、爐。

ひべあ (形)〔仙〕 せまう(狭う)。

「道がひべあ。」

ひぼ (名)〔全縣〕 紐。

ひんぼ (名)〔山〕 貧乏な人。

ひまげ (動下)〔平〕 完了する。

「これでひまげた。」

ひまだおれ (名)〔由〕 ひまつぶし(暇潰し)。

「ひまだおれなあことしてゐるな。」

ひまだだれ (名)〔平、雄〕 ひまつぶし(暇潰し)。

「芝居にはひまだだれで行かれない。」

ひむしり (名)〔平〕 カレンダー。

ひむん (動下)〔平〕 すねる。

「またそんなにひむんつける。」

ひやぐ (名)〔全縣〕 柄杓。

ひやぐ (名)〔平〕 腸。

ひやぐ (名)〔由〕 腸。

ひやくめ (名)〔河〕 開戸前の庭。

ひやく (名)〔雄〕 ひは(金雀)。

ひやく (名)〔平〕 小路。

ひやし (名)〔全縣〕 ひさし(庇)。

ひやしん (副)〔全縣〕 久振り。

「ひやしんぶりで見た。」

ひやだ (名)〔平〕 薪。

ひら (名)〔市、大町〕 平。

ひう (動四)〔南〕 背負ふ。

「米をひう。」

ひょ (形)〔鹿〕 恥かしい。

「笑はれてひょしかった。」

ひち (副)〔北〕 突然。

「ひちと走って来た。」

ひな (名)〔河〕 ひよ。

ひろ (名)〔平〕 ちろげ。

ひろ (動下)〔北〕 めかす、しれる。

「さうひろけてあるくな。」

ひら (名)〔雄〕 山の中腹。

ひら (名)〔全縣〕 げんごらう。

ひら (名)〔平〕 げた(下駄)。

ひら (名)〔鹿〕 臺所。

ひの部

ひらぎもど(名)〔山〕 縁側。
 ひらぐち(名)〔鹿、山〕 浴衣。
 ひらちち(形)〔仙、平〕 平たい。
 「この板はひらちち。」
 ひらつぎ(名)〔鹿、平〕 雪崩。
 ひらてこい(形)〔仙、平〕 平たい。
 「ひらてこい皿だ。」
 ひられ(名)〔平〕 痴者。
 ひり(名)〔仙〕 芹。
 ひる(名)〔平〕 蠶の蛆。
 ひる(名)〔雄〕 さなぎ(蛹)。
 ひる(動上)〔北〕 卵を生む。
 「蛾が卵をひった。」
 ひるー(動四)〔雄〕 ひろふ(拾ふ)。
 「石をひろう。」
 ひるげる(動下)〔雄〕 ひろげる(廣げる)。

「布呂敷をひるげる。」

ひるし(名)〔仙〕 印。
 ひるまま(名)〔仙〕 晝飯。
 「ひるままを早く食へ。」
 ひろ(名)〔鹿、南、仙〕 ひる(蛭)。
 ひろ(名)〔鹿〕 蛹。
 ひろ(名)〔鹿〕 葱。
 ひろ(名)〔鹿、北、山〕 よだれ。
 ひわすね(形)〔山〕 うるさい、せはしない。
 「ひわすね兒だな。」
 びんがり(副)〔平〕 ごつんと。
 「彼をびんがり叩いてやった。」
 びんぎ(名)〔平〕 便り。
 びんこ(名)〔仙〕 線香。
 びんこ(名)〔仙〕 髪の毛。
 びんと(副)〔鹿〕 きちんと。

ふの部

「戸をびんと閉めれ。」
 ひんひ(名)〔山、仙〕 先生。
 ◆ふの部
 ぶー(動四)〔全縣〕 背負ふ。
 「子供をぶって行って来た。」
 ふ(名)〔南、市、平、雄〕 は(齒)。
 ふおび(名)〔南〕 兵兒帶。
 ふから(副)〔南、平〕 今から。
 「ふから酒呑んで何とする。」
 ふぐ(名)〔山、河〕 百。
 ふげ(名)〔平〕 はげ(禿)。
 ふっけ(名)〔鹿〕 頭。
 ふさんば(名)〔仙〕 稻架。
 ふた(名)〔平〕 はた(旗)。
 ふい(名)〔平〕 ひ(火)。
 ふいんじ(名)〔雄〕 膝頭。

ふ(名)〔全縣〕 屁。
 ふ(名)〔南、河、雄〕 蠅。
 ふあぐ(名)〔河〕 尺八。
 ふあつてる(連)〔仙〕 入ってゐる。
 「學校にふあつてる。」
 ふあとり(名)〔雄〕 かまきり。
 ふあならし(名)〔南、河、仙、雄〕 はひならし(灰ならし)。
 ふある(動四)〔雄〕 はひる。
 「湯にふある。」
 ふえんじ(名)〔南、河〕 ひぜん。
 ふえーたえ(名)〔全縣〕 兵隊。
 ふえち(名)〔南、河〕 臍。
 ふえて(名)〔鹿〕 兵隊。
 ふえとめぎ(名)〔河〕 脳天。
 ふえどろ(名)〔仙〕 雪靴。

ふの部

ふんぼ (名)〔南、市、河、雄〕 梅毒。
ふまげる (連)〔由〕 放屁する。

「大きなふまげだ。」

ふら (名)〔由〕 飯杓子。

ふらける (動下)〔由〕 ふざける。

「ふらけるな。見悪い。」

ふかがる (動四)〔南〕 引かかる。

「凧が木にふかがった。」

ふかし (名)〔鹿、仙、雄〕 赤飯。

ふかし (名)〔山〕 東。

ぶかした (連)〔山、北〕 打ちこはした。

「茶碗をぶかした。」

ぶからむ (動四)〔平〕 打擲する。

「杖でぶからむ。」

ぶかれだ (連)〔鹿、山、仙〕 破れた。

「大風のために傘がぶかれだ。」

ふくろ (名)〔由〕 濁酒。

ふくろび (名)〔南、市、河〕 綻。

ふげ (名)〔山、南〕 鬚。

ふげされ (連)〔雄〕 あちへ行ってゐろ。

「邪魔になる、ふげされ。」

ふげし (名)〔由〕 ひがし(東)。

ふげしやれ (連)〔平〕 寝れ。

「早くふげしやれ。」

ふげす (動四)〔河〕 ひっくりかへす。

「その椅子をふげすした。」

ぶげす (動四)〔雄〕 ひきたふす。

「裏の木をぶげすして仕舞った。」

ふげね (連)〔平〕 腑甲斐なし。

「ふげね子供だ。」

ぶこ (名)〔平〕 犬。

ぶこす (動四)〔山、南、仙、平〕 破る、こはす。

ふの部

ぶがん (名)〔平〕 不器用。

ぶぎ (名)〔全縣〕 ふぶき(吹雪)。

ぶぎ (名)〔河〕 ひいき(最負)。

ぶぎんどり (名)〔全縣〕 吹雪倒れ。

ぶきる (動上)〔南、仙〕 断る。

「木をぶたぎる。」

ぶぎん (名)〔雄、由〕 ふきん(布巾)。

ぶぐ (動四)〔全縣〕 ひく。

「風をぶぐ。」

ぶぐだらびき (名)〔河、仙、平、雄〕 ひきがへ

る。

ぶぐど (名)〔平〕 棒。

ぶぐのり (名)〔河〕 ふのり。

ぶぐる (動四)〔河〕 追出す。

「暴れるとぶぐるぞ。」

ぶぐれこ (名)〔仙〕 鬼ごっこ。

「亂暴に弄ぶとぶこすよ。」

ぶこす (動四)〔雄〕 こはす(毀す)。

「筆入をぶこしてしまった。」

ぶこぬぐ (動四)〔雄〕 引き抜く。

「大根をぶこぬぐ。」

ぶこみ (名)〔市〕 雪袴。

ぶこむ (動四)〔北〕 草履のまゝ爐に入る。

「寒いからずっとぶこむ。」

ぶこむ (動四)〔南〕 引込む。

「腹がぶこんだ。」

ぶこれる (動下)〔雄〕 こはれる(毀れる)。

「箱がぶこれた。」

ぶこるす (動四)〔南〕 打ち殺す。

「ぶころして呉れる。」

ぶこわれる (動下)〔雄〕 こはれる。

「何かぶこはれる音がした。」

ふの部

ふさし(名)〔山〕 庇。
 ふざま(名)〔平〕 様子、(悪い意味で)。
 ふじくる(動四)〔平〕 ふざける、難題をいふ。
 「酒酔うてふじくる。」
 ふんじげる(動下一)〔鹿〕 踏みつける。
 「彼はその本をふんじげて行った。」
 ぶしずら(名)〔仙〕 にかがほ(苦顔)。
 ふんじんばる(動四)〔山、南、平〕 しばる(縛る)。
 「その犬をふんじんばれ。」
 ぶしんばる(動四)〔仙、平、雄、由〕 不機嫌な顔を
 する。
 「用をいひつけるとぶしんばる子供だ。」
 ふんじゃ(名)〔南、河〕 ひざ(膝)。
 ふんじゃかんが(名)〔河〕 膝頭、膝小僧。
 ふしやく(名)〔山〕 柄杓。
 ふしやくれる(連)〔山〕 日が暮れる。

「ふしやくれで来た。」
 ふんじゃける(動下一)〔仙〕 ふざける。
 「あまりふんじゃけるな。」
 ふじなむ(動四)〔北〕 さいなむ。
 「子供をふじなむ。」
 ぶじゃま(名)〔鹿、山〕 不様。
 ふんじゅ(名)〔山、南〕 ふじゆう(不自由)。
 ふんじゅ(名)〔山、河、平〕 不自由。
 ぶじたがれ(名)〔由〕 不性者。
 ぶじよほ(名)〔南、平、雄〕 失禮すること。不調
 法。
 ぶじよる(動四)〔平〕 折る。
 「枝をぶじよる。」
 ぶず(動四)〔南、平〕 打つ。
 「鳥をぶず。」
 ぶずぎ(南) 縁木(圍爐裏)。

ふの部

ふすける(動下一)〔山、南、河〕 吹く。
 「この管をふすけなさい。」
 ふんずげる(動下一)〔南、平〕 踏み付ける。
 「土をふんずげる。」
 ぶすめぐ(動四)〔南、仙〕 くすぶる(燻ぶる)。
 「此の木は生だからぶすめぐ。」
 ぶずる(動四)〔平〕 しみが出来る。
 「幕がぶずだ。」
 ふせもの(名)〔平〕 駄菓子。
 ぶんぞ(名)〔河〕 葡萄。
 ふんだ(連)〔平〕 さうだ。
 「彼は東京へ行ったふんだ。」
 ぶだ(名)〔南、河〕 襪褌。
 ふたしき(名)〔仙、雄〕 雑巾。
 ぶただぐ(動四)〔山、南〕 打ち叩く。
 「聞かねばぶただぐぞ。」

ふだんに(副)〔雄〕 澤山に。
 「今年は林檎がふだんになった年だ。」
 ふたふき(名)〔平〕 雑巾。
 ふだら(名)〔仙〕 にかい(二階)。
 ぶたらぐ(動四)〔仙、雄〕 ながる(毆打する)。
 「そんな事をするとなぶたらぐぞ。」
 ぶたらぐ(動四)〔鹿、仙、平、雄〕 打たく。
 「ぶたらぐてくれるぞ。」
 ぶたらげ(連)〔鹿、北〕 叩くぞ。
 「お前をぶたらげ。」
 ふんだり(名)〔山、南〕 左。
 ふち(名)〔雄〕 ぶち(斑)。
 ふちやく(動四)〔平、雄〕 さく(裂く)。
 「その紙ふちやくな。」
 ぶちやく(動四)〔由〕 打つ。
 「彼奴をぶちやく。」

ふの部

ぶちやく(動四)〔由〕 擲る。
 「野郎ぶちやくぞ。」
 ぶちやく(動四)〔河〕 ぶつぶす。
 「あんな奴、ぶちやくぶしてやれ。」
 ぶちやく(動下一)〔鹿〕 折れる。
 「柱もなにも皆朽ちてぶちやく居た。」
 ぶつか(動四)〔仙〕 突きあたる。
 「電信柱にぶつかった。」
 ぶつく(動四)〔平〕 引きつく。
 「あまりぶつくな。」
 ぶつく(動四)〔南、河〕 密着す。
 「手に粉がぶつく。」
 ぶつける(動下一)〔平〕 くっつける。
 「その破片を漆でぶつけれ。」
 ぶつける(動下一)〔南〕 ふきつける(吹き附ける)

「火をふつけて焚く。」
 ぶんつさん(固名)〔全縣〕 ふじさん(富士山)。
 ぶつらがした(連)〔平〕 ちらばす。
 「道具をぶつらがした。」
 ふて(形)〔河、平〕 太い。
 「あの松の木の方て事。」
 ふて(形)〔雄〕 ……くて。
 「高ふて買はれない。」堅ふてかめなく。
 ぶておける(連)〔鹿〕 打ち倒れる。
 「今日坂でぶておけた。」
 ふと(名)〔全縣〕 ひと(人)。
 ふとげ(副)〔河〕 一遍、一度。
 「芝居には一げ行ったとけさ。」
 ふとげ(副)〔山〕 一度。
 ふとご(名)〔山、南〕 ふところ。
 ふとつ(名)〔山、南〕 一つ。

ふの部

ぶどめめ(名)〔平〕 ふとみみす。
 ふとめ(連)〔全縣〕 恥かしい。
 「こんな格好してふとめわり。」
 ふとめ(副)〔南、河〕 ちよと(一寸)。
 「ふとめ待って呉れ。」
 ふなぐる(動四)〔南〕 無理に取り返す。
 「人の物をふなぐる。」
 ぶんなげる(動下一)〔山、南、雄〕 すてる(棄てる)
 「ごみをぶんなげる。」
 ぶな(連)〔鹿〕 たくよ、なぐるよ。
 「そんなこといふとぶなこれ。」
 ふぬげ(名)〔全縣〕 ほんやり者。
 ふねじ(動上一)〔南、河〕 ねぢる。
 ぶっぱ(動四)〔南〕 引叩く。
 「お前をぶっぱだぐど。」
 「こんなものふねじしてしまへ。」

ふば(動四)〔鹿、山、南〕 引張る。
 「車をふばる。」
 ふん(名)〔山、南〕 ひび、あかぎれ。
 ふんび(動四)〔山、南〕 響く。
 「頭にふんびぐ。」
 ぶ(名)〔仙〕 馬鹿。
 「あの人ぶっぺだ。」
 ふん(名)〔南〕 紐。
 ぶつ(動四)〔仙〕 ちらばす。
 「何でもぶつほがして置く。」
 ぶつ(動四)〔河、平〕 放り出す、投げる。
 「彼は怒って椅子をぶつほがした。」
 ふま(動下一)〔平、雄〕 踏みあげる。
 「ふまげでくれる。」
 ふみ(動四)〔平〕 裂く。
 「その本ふみじやいて居る。」

ふの部

ふめ^{ある}る(動下一)〔平〕 踏み占める。

「大黒様が依をふめ^{ある}る。」

ふよ(名)〔鹿、北、山、仙、雄、本〕 冬。

ふよがぎ(名)〔由〕 ふゆがき(冬垣)。

ぶらからする(動三變)〔雄〕 ぶらぶらする。

「し事が無いからぶらからしてる。」

ぶらすぎ(名)〔山、平〕 なまけもの。

ぶらばげもの(名)〔雄〕 無頼漢。

ぶらり(名)〔北〕 提灯。

ぶりこ(名)〔南、河、市、平、雄〕 鱒の卵。

ふりん(名)〔河〕 ふーりん(風鈴)。

ふるがる(動四)〔由〕 ひろがる(廣る)。

「だんだんにふるがる。」

ぶるぎ(名)〔平〕 ブリキ。

ふるげ(名)〔由〕 辨當。

ふるげ(名)〔南、河〕 辨當用小桶。

ふるこ(名)〔平〕 こんろ。

ぶん(名)〔平〕 別。

「それとこれとはぶんだ。」

ぶんこ(名)〔仙〕 かばん(鞆)。

ぶんど(名)〔山、南〕 ぶだう(葡萄)。

へ部の

へ(名)〔仙、平〕 稗。

べ(助動)〔全縣〕 ……だらう

「きと来るべ。」

へー(名)〔河〕 理由、爲め。

「あのわるもの一人のへーで組合全體がもめる。」

へー(名)〔雄〕 灰。

へ^お(名)〔全縣〕 蠅。

へ^お(名)〔鹿、南〕 おかづ、お菜。

べ^お(連)〔北〕 でせう。

へ部の

ふるげる(動下一)〔鹿〕 ひろげる。

「風呂敷をふるげる。」

ふるし(形)〔山、市、河、由〕 古。

「この肴はふるしやうだ。」

ふるしぎ(名)〔全縣〕 風呂敷。

ふるしぎほ^ち(名)〔雄〕 おこそづきん。(御高祖頭巾)

ふるま(名)〔鹿、山、南〕 お晝。

ふるます(動四)〔南、市、雄〕 ふりまはす。

「その鈴をふるまして見れ。」

ふるみし(名)〔鹿〕 晝飯。

ふるめ^ま(名)〔鹿〕 晝前。

ふるめ^ま(名)〔鹿、南、雄〕 振舞ひ。

ふるめ^まこ(名)〔南〕 飯事遊(小兒語)。

ふるげる(由) ひろげる(廣げる)。

「風呂敷をふるげる。」

「勉強したらよかべ^ま。」

へいしん(名)〔平〕 取消し。

べおの(連)〔雄〕 だらうさ。だらうもの。

「まさか行かね^おべ^おの。」

べおん(連)〔山、平、雄〕 だらうさ、だらうもの。

「まさか行かね^おべ^おん。」

べ^き(名)〔鹿〕 蛙。

へぎはる(動四)〔平〕 かたはる(肩張る)。

「米俵をかついだらへぎはた。」

へ^おぐ(名)〔河〕 ひやく(百)。

へげ(名)〔南、由〕 小川(堰)。

へげだ(連)〔鹿〕 剥げた。

「紙がへげだ。」

へ^こ(名)〔平〕 女の陰部。

へ^こ(名)〔南〕 せいご(魚)。

べ^ご(名)〔全縣〕 牛。

へ の 部

べっこ(名)〔仙〕 かんてん(寒天)。
 べこ(名)〔鹿〕 若芽。
 べい(名)〔鹿、河、平、由〕 着物(小兒語)。
 べい(名)〔雄、由〕 あばた(痘痕)。
 べい(副)〔北、南〕 ばかり。
 「しれべいこくれたのか。」
 へご(動四)〔動下一〕〔南、河〕 督勵する、催促する。
 「早く出来すやうにへごかけた。」
 べい(雄) 猫柳の花。
 べい(名)〔平〕 少量。
 「べいこしでいゝからお湯をくれ。」
 へこまる(動四)〔仙〕 くぼむ。
 「乾かない壁を押したらへこまった。」
 へこみ(名)〔仙〕 くぼみ(凹み)。
 へこむ(動四)〔河〕 熱中する。

「彼は野球にへっこんでる。」
 べし(助動)〔鹿、山、平〕 ……しませう。
 「學校へ行くべし。」
 へしぐだまる(動四)〔平〕 ちぢまる(縮る)。
 「あまり恐ろしいのでへしぐだまって何も言へなかつた。」
 へじね(形)〔山、南〕 苦しい。
 「へじねがって逃げて行つた。」
 べし(連)〔仙、平〕 だらうよ。
 「彼は今年卒業だべしや。」
 へずね(形)〔南〕 くるし(苦し)。
 「暑くてへずねま。」
 べそ(名)〔市〕 臍。
 へそ(名)〔仙〕 御幣。
 へそび(名)〔平〕 釜などの下につく煤。
 へそへ(名)〔山、南〕 釜のすす。

へ の 部

べた(名)〔南、平〕 女の陰部。
 べた(連)〔平〕 ……でせうよ。
 「そでねべた。」
 へた(名)〔平〕 へた(帯)。
 べた(形)〔平、雄〕 小さい。
 「べたたこえ石。」
 へたじぎ(名)〔仙〕 下手律義。
 べたら(形)〔仙、平〕 平たし。
 「重ねたらつぶれでべたらこくなつた。」
 へたれ(名)〔仙〕 よく尻を放るもの。
 へち(名)〔鹿、市〕 竈。
 へちと(副)〔平〕 極少く。
 「お湯をへちと下ささ。」
 へち(名)〔平〕 饒舌家。
 へち(名)〔仙〕 饒舌者。
 へちむぐれ(名)〔平〕 饒舌家。

へち(名)〔鹿〕 へそ(臍)。
 へち(名)〔全縣〕 臍。
 へち(名)〔鹿、平〕 へそ。
 べち(名)〔南、平、雄〕 蝶々。
 「あのべちよきれいだな。」
 べち(名)〔鹿〕 泣顔。
 べちかぐ(動四)〔南、河、平〕 べそをかく。
 「べちかいて泣いた。」
 べちかぐ(動四)〔仙〕 泣顔する。
 「朝から晩までべちかいてる兒だ。」
 へつ(名)〔平〕 へつひ(土竈)。
 へつ(名)〔仙〕 へそ(臍)。
 へて(形)〔平、雄〕 小さい。
 「彼はへて男だ。」
 へんど(名)〔由〕 吐瀉物。
 へど(名)〔仙〕 乞食。

へ の 部

へんだな(副)〔南、河、雄〕先度。
 「へんだなまた大御馳走になって。」
 へとびき(名)〔雄〕頭骨の凹所。
 へとみぎ(名)〔平〕頭骨の凹所。
 へとりげんぜぼー(名)〔平〕かまきり。
 へとりむす(名)〔平〕かまきり。
 へどろん(名)〔平〕わらぐつ(藁靴)。
 へな(名)〔南、河〕兄。
 へなぎ(名)〔河〕流しのどぶ水。
 へなぐり(名)〔平〕果實を打ちおとすもの。
 「へなぐりかけて梨をおとす。」
 へーならし(名)〔雄〕灰搔。
 へならし(名)〔全縣〕灰ならし。
 へのご(名)〔平〕男の陰部。
 へんば(接)〔河〕さうすると、さうすれば。
 「へんば、間違ひないか。」

へびたま(名)〔鹿〕蝸牛。
 へびのてもし(名)〔平〕天南星。
 へふ(名)〔平〕配賦。
 へふず(名)〔河〕忠實。
 へふりむし〔鹿、仙〕くさがめ。
 へべ(名)〔由〕着物。
 へんべ(名)〔山〕蛇。
 へっぺ(副)〔河〕たくさん、うんと。
 「へっぺ働け。」
 へべあ(名)〔南、平〕着物(小兒語)。
 へんぼ(名)〔南、平〕梅毒。
 へんぼかぎ(名)〔由〕梅毒患者。
 へまかが(名)〔平〕後妻。
 へめ(形)〔南〕狭い。
 「へめ家だ。」
 へやみ(名)〔河〕なまけ者。

へ の 部

へやみこぎ(名)〔南、市、河〕なまけ者。
 へら(名)〔全縣〕妻が夫より年の多いもの。
 へら(名)〔全〕飯を抄ひとるもの(杓子)。
 へら(名)〔鹿〕甲。
 べら(名)〔平〕垂涎。
 べら(名)〔平〕掌。
 べらこ(名)〔南、市、河〕蝶々。
 へらずぐ(動四)〔平〕しゃべる。
 「子供は随分へらずぐこと。」
 へらつぎもじ(名)〔平〕ぼたもち又はおはぎ。
 へりぐず(名)〔平、雄〕入口、玄關。
 へる(動下一)〔河、由〕入れる。
 「この箱に物をへれ。」
 へある(動四)〔平、雄〕はひる(這入る)。
 「お湯へへあれ。」
 へろ(名)〔平、雄、由〕蛭。

べろ(名)〔全縣〕唾液。
 へろ(名)〔平〕はんだ。
 べろ(名)〔仙〕婆百合。
 べろと(副)〔市、河、仙、雄〕悉皆。
 「べろと平らげた。」
 べろと(副)〔北〕悉皆。するりと。
 「穴へべろと這入った。」
 へろへろ(副)〔仙〕弱々しい。
 「この子は體格が悪くへろへろだ。」
 べろべろ(名)〔雄〕饅飩(小兒語)。
 べろり(副)〔由〕悉皆。
 「べろり一升飲んでしまった。」
 へろり(副)〔由〕悉皆。
 「一升の餅へろり平らげた。」
 べん(名)〔平〕べに(紅)。
 べんけのなぎどご(名)〔市〕向脛。

へ の 部

へんぜん(名)〔山〕 疥癬。

へんち(名)〔河〕 雪隠。

へんぢ^やら(名)〔山、河〕 辯舌。

へんてずね^お(連)〔平〕 張合なし。

「あの人はへんてずね^お人だ。」

へんへ(名)〔南〕 先生。

へんぼく(固名)〔南、河〕 せんぼく(仙北)。

◆ほ の 部

ほ(名)〔雄〕 ほん(本)。

「筆二ほ。」

ほー(感)〔雄〕 さうですか。

「ほーそれは始めてだ。」

ほいこ(名)〔平〕 おにごい(鬼戯)。

ほいれする(動三變)〔由〕 加入する。

「私をもほいれさせて呉れ。」

ほう(動四)〔全縣〕 おふ(追ふ)。

「鳥をほう。」

ほえど(名)〔全縣〕 乞食、吝嗇家。

ほえどやんど(名)〔仙〕 木賃宿。

ほーえん(名)〔雄〕 神官。

ほえんさま(名)〔南、平、雄、由〕 神官。

ほが(副)〔平〕 より外に。

「五十錢ほがない。」

ほがう(動四)〔南、河〕 手向ける。

「あの墓にもほがえ。」

ほかける(動下一)〔仙〕 追ひかける。

「小供をほかけける親もあった。」

ほかした(連)〔仙〕 壊した。

「札をほかした。」

ほがす(動四)〔平〕 毬つく。

「毬ほかさないか。」

ほがす(動四)〔雄〕 放り出す。

「相撲としてほがされた。」

ほがぶり(名)〔鹿、南、仙、平〕 頬被り。

ほぎ(名)〔山、南、仙、平〕 ふき(路)。

ほぎかける(動下一)〔雄〕 けしかける。

「あの犬はほぎかけたらすぐ喧嘩した。」

ほきなぎ(名)〔南、平、雄〕 棒切。

ほぐど(名)〔平〕 杖。

ほくる(動四)〔河〕 追出す。

「犬をほくってやれ。」

ほげ(名)〔北〕 老耄者。

ほっけ(名)〔鹿〕 老牛馬。

ほげさま(名)〔山〕 神官。

ほけす(動四)〔鹿、山、平〕 ほりかへす(掘り返す)。

す)

「犬が木の根をほけした。」

ほ の 部

ほっけす(動四)〔平〕 掘返す。

「土をほっけす。」

ほけた(名)〔仙〕 頬邊。

ほげ^あたおの(連)〔平〕 そんなもの。

ほげ^あてね(連)〔平〕 分外だ。

「ほげ^あでね^あ大きな大根だ。」

ほげ^あね(連)〔平〕 本気で無い。

「ほげ^あね^あ男だ。」

ほげる(動下一)〔平〕 流浪してありく。

「諸國をほげで歩く。」

ほげる(動下一)〔雄〕 もえる(萌え出る)。

「春になって草がほげた。」

ほげる(動下一)〔仙〕 ふざける。

「その年してほげると笑はれる。」

ほご(名)〔北、雄〕 其處。

ほんこ(名)〔平〕 ほんたう(本當)。

「今度ほんこして遊ぼう。」

ほっこ(名)〔鹿、山、南、市、仙、雄、由〕 幼兒。

ほっこ(名)〔雄〕 下駄につく雪。

「ほこいついて歩かれな。」

ほこぐる(動四)〔由〕 おひだす(追ひ出す)。

「あの嫁をほこぐる。」

ほこす(動四)〔平〕 とく(解く)。

「もつれた糸をほこす。」

ほこす(動四)〔河、平、雄、由〕 壊す。

「あの子は繪本をほこした。」

ほごる(動四)〔雄〕 子供等が互に戯れて騒ぐ。

「餘りほごるな。」

ほこれる(動下一)〔南、市、河、仙、雄、由〕 こは

れる。

「机がほこれた。」

ほさま(名)〔鹿、山、平、雄、由〕 めくら、あんま。

ほじ(名)〔南、由〕 餅(小兒語)。

ほんじ(名)〔山〕 坊主。

ほじくたらね(連)〔平〕 他愛ない。

「この子は朝から遊んでばかり居でほじくたらね。」

ほして(形)〔仙〕 欲しい。

「あの着物ほして。」

ほじね(連)〔平〕 有難い。

「それはほじねことだ。」

ほんじね(連)〔仙〕 氣絶した。

ほしゃげる(動下一)〔由〕 おだてる(煽る)

「あいつをほしゃげる。」

ほじょ(名)〔山、仙、平、雄〕 庖刀。

ほすね(連)〔北、仙、平〕 非常識な。

「ほすね事言ふな。」

ほんずぎ(名)〔山、仙、平〕 ほぼづき。

ほんずけ(名)〔北、南〕 ほぼづき。

ほすない(連)〔雄〕 頑はない。

「ほすの無い子供だ。」

ほせ(形)〔河〕 ほそ(細い)。

ほそけ(形)〔河、南〕 細い。

「ほそけ竹だ。」

ほそこえ(形)〔鹿、平、雄〕 細い。

「ほそこえ棒だこと。」

ほそんびぎ(名)〔河〕 口笛。

ほた(名)〔平〕 頬。

ほた(名)〔平〕 へそくり金、又内證稼ぎすること。

ほった(名)〔仙〕 主人の仕事をする以外に私の

仕事をする利得。

ほった(名)〔市、平〕 頬。

ほだ(連)〔鹿、平、雄〕 さうだ。

甲「雨ふりでせう」、乙「ほだ」。

ほだ(名)〔全縣〕 鹽鮭。

ほんだぐ(動四)〔雄〕 たはむれる(戯れる)。

「子供がほんだぐ。」

ほたく(連)〔平〕 追出す。

「悪い事をして家からほたくられた。」

ほたす(動四)〔平〕 追ひ出す。

「嫁ほたす。」

ほんたべ(連)〔北〕 そればかり。

「ほんたべ、呉れた。」

ほたんぼ(名)〔雄〕 頬。

ほだらんこ(名)〔由〕 螢。

ほだろ(名)〔由〕 螢。

ほっち(名)〔全縣〕 頭巾。

ほっちゃけめ(連)〔北〕 衣物の前が合はないと。

ほの部

「着物ほっちゃけめにして居る。」

ほつく(動四)〔雄〕 嘴でつく。

「鳥がほつき廻る。」

ほで(名)〔由〕 深雪。

ほんで^おつもね^お(連)〔山、河、仙、平〕 飛んでもな

い。

「それはほんで^おつもね^お事だ。」

ほんで^おね^お(連)〔仙、平〕 わからない。

「どうだったか、ほんで^おね^おくなった。」

ほてやる(連)〔仙〕 放逐する。

「犬をほてやれ。」

ほど(名)〔山、平〕 ぼろ。

ほど^い(名)〔平〕 圍爐裡の火の燃えてゐる處。

ほっと(名)〔雄〕 ぼろ(襪褌)。

ほっと(副)〔平、雄〕 突然に。

「彼はほっとやって來た。」

ほふら^い(名)〔雄〕 かぼちゃ(南瓜)。

ほー^いふりむし(名)〔仙〕 ぼうふら虫。

ほっ^いへ(形)〔南〕 細い。

「ほっ^いへ糸を買ってけ(來い)。」

ほっ^いへ(名)〔北〕 頬。

ほっ^いへだ(名)〔全縣〕 頬。

ほっ^いへた(名)〔鹿、由〕 頬。

ほほ(名)〔河、仙、雄〕 餅(小兒語)。

ほほ(名)〔雄〕 火(小兒語)。

ほんほ(名)〔山〕 赤ちゃん。

ほんほ^い(名)〔平、由〕 赤兒。

ほんほこなし(名)〔雄〕 出産。

ほほら(接頭)〔雄〕 かすかに。

「ほほら苦い、ほほら温い。」

ほぼら(名)〔平〕 かぼちゃ(南瓜)。

ほんまつ(名)〔平〕 へそくり金、内職、内證稼

ほの部

ほんどかしら(名)〔山〕 慾張り。

ほんどぎ(名)〔平〕 九輪草。

ほんどぎ(名)〔山、平〕 佛。

ほんどぐ(動四)〔南、仙〕 解く。

「帯をほんどぐ。」

ほんどげだけ(名)〔雄〕 佛事。

ほんどゆぎ(名)〔由〕 平地の雪。

ほんどんと(副)〔全縣〕 殆ど。

ほんな(名)〔平〕 よぶすま草。

ほんなぐる(動四)〔平〕 逐ひ出す。

「犬をほんなぐる。」

ほなだ(代名)〔鹿〕 お前。

ほんね^お(形)〔雄〕 有難い、忝い。

「よいものもらってほんね^お。」

ほのご(名)〔山〕 頭の後部の凹み。

ほっびぎ(名)〔平〕 ふくびぎ(幅引)。

ぎ。

ほめらえる(連)〔平、雄〕 ほめられる(賞められ

る)。

「先生にほめらえる。」

ほや(感)〔平〕 おや。

「ほや魂消た。」

ほーや(感)〔平〕 まあ。

「ほーや、俺知らない。」

ほやて(接)〔河〕 さうして。

「ほやて、何ときめたか。」

ほや^いとしてる(連)〔平〕 ほんやりして

「ほや^いとしてる男だね。」

ほーやめ^お(名)〔北〕 チフス。

ほら(感)〔平〕 其れ。

「ほら、雨降って來た。」

ほら^い(名)〔南、仙、雄〕 魯鈍者。

ほの部

ぼら(名)〔由〕放埒。

ぼらまげる(連)〔平、雄〕めかす、自慢をする。

「あの女はぼらまげて白粉などばかり付けてる。」

ほり(名)〔市〕池。

ほる(動四)〔鹿、北〕追ふ。

「鶏をほった。」

ほるぐ(動四)〔雄〕振り落す。

「體についた雪をほるぐ。」

ほれ(代名)〔平、雄〕それ。

「ほれ、そこにある。」

ほれね(形)〔平〕有り難い。

「澤山戴いてほれね。」

ほろ(名)〔河〕戸棚。

ほろぐ(動四)〔山、南〕ふりおとす、みななくす。

「ことしの厄はこれでほろた。」

ほろける(動下一)〔北、平〕失ひつくす。

「財布の金をほろける。」

ほろっこ(名)〔平〕かたまり。

「下駄にほろっこがついて困った。」

ほろろし(名)〔平〕使用初め。

「ほろろしの着物。」

ほんえ(感)〔平〕まあ。

「なんとらほんえ。」

ほんが(名)〔南〕奉加。

ほんがん(名)〔山、河〕奉加。

ほんじ(名)〔全縣〕坊主。

ほんじき(名)〔鹿〕ほほづき。

ほんたこと(連)〔平〕そんなこと。

「ほんたことすら知らない。」

ほんて(副)〔雄〕本當に。

「まー一度書いて見れ。」

まいんじ(名)〔山、南〕まいにち(毎日)

まうり(名)〔平〕甜瓜。

まえちんど(副)〔仙〕いまいちど(今一度)

「まえちんど歌って見れ。」

まーおだ(形動)〔雄〕まっさをだ(眞青)

「まーおだ顔してる。」

まっか(名)〔鹿、平、雄〕木のまた。

まがだあう(動四)〔河、平、由〕渉る、間に合ふ。

「漸くまがだあうた。」

まがだあわす(動四)〔南〕間に合せる。

「お祭の着物、何とかまがだあわせれ。」

まがだぜる(動下一)〔河〕仕事のくくりをつけ

る、仕事を促進させる。

「今日で、何とかまがだぜるさ。」

まかなう(動四)〔北〕身仕度する。

まの部

ま(副)〔南、平〕もう。

「ますこしやれ。」

まー(副)〔南、雄〕もう。

まの部

「まかなくて来て働く。」
まかなる (動四)〔鹿〕 身仕度する。

「早くまかなれ。」

まがる (動四)〔山、南、仙〕 轉覆してこぼれる。
溢れる。

「水がまがる。」

まぎ (名)〔鹿、南、平、雄、由〕 血統。

まぎ (名)〔仙〕 血統。

まぎ (名)〔鹿〕 梁。

まぎ (名)〔由〕 うづまき(渦卷)。

まぎみ (名)〔平〕 頭髮の旋毛。つむじ。

まぎめ (名)〔南〕 頭髮の旋毛。つむじ。

まざり (名)〔山、南〕 小刀。

まぐさ (名)〔河〕 まぐさ(稜)。

まぐす (動四)〔南、河、由〕 ころがす。

「臼をまぐして持って来い。」

もの。

まぐれる (動下)〔南、河、由〕 ころげる、皺になる。

「縁側からまぐれ落ちた。」

「この着物はまぐれてのらなう。」

まげらがす (動四)〔由〕 まげらがす。

「なんだまげらかして。」

まげる (動下)〔河、平、雄、由〕 排泄する。

「小便まげる。」

まご (名)〔平〕 馬の子。

まげる (動下)〔鹿、北、仙、平、雄〕 くつがへす、こぼす。

「水桶をまげた。」

まげる (接尾)〔南、雄〕 …まげる。

「虚言まげる。自慢まげる。」

まげる (動下)〔南、平〕 値引する。

まの部

まぐまくど (副)〔雄〕 眩暈嘔吐の状態の形容。

「船に酔ってまぐまくどなって来た。」

まぐもんぢょ (名)〔北〕 うはごと。

まぐもんぞ (名)〔雄、由〕 うはごと。

まぐらう (動四)〔北、山、南〕 たべる(卑語)。

「飯をまぐらへ。」

まぐらけし (名)〔仙〕 大食家。

まぐらけし (名)〔平〕 居候(卑語)。

まくらる (動四)〔鹿〕 食べる。

「飯まくられ。」

まぐり (名)〔仙〕 まくはうり(眞桑瓜)。

まぐりあう (動四)〔平〕 喧嘩する。

「太郎と二郎とまぐりあった。」

まぐりっぱ (名)〔仙〕 大葉子(おほばこ)。

まぐる (名)〔山、南〕 眞黒。

まぐれだおし (名)〔由〕 無能にして大食する

「すこしまげてやらう。」

まごもんぞ (名)〔河〕 うはごと。

まさ (名)〔河〕 こけら、柿。

まし (名)〔河、平、雄〕 角力まはし。

まじきつつ (名)〔仙、平〕 水屋の水槽。

まじこえ (形)〔雄〕 まばゆ(眩)。

「まじこえくて外見られなう。」

ましこし (副)〔山〕 今少し。

「ましこし待ちなさう。」

まんじべ (形)〔南、市〕 まばゆ。

「まんじべ程よい天気だ。」

まじべ (形)〔仙〕 まばゆ。

「まじべ日だ。」

まんじまんじて (副)〔南、河、平〕 めをはなさずに

「眼を放さず」

「まんじまんじて見て居る。」

まの部

まじ^ャる (動四)〔南、角〕 混る、交る。

「米に豆がまじ^ャる。」

まじ^ヱつけね (形)〔河、雄〕 おくしない (臆しな^ス)

「どんな所に行ってもまじ^ヱつけね^ホ人だ。」

まじ^ヱね (形)〔河、雄〕 臆しない。

「まじ^ヱね^ホ人だ。」

まじ^ラ (接)〔雄〕 ままに (儘に)。

「餅を重まじ^ラよこせ。」

「硯を箱まじ^ラ持って来い。」

ます (動四)〔雄〕 まはす (廻す)。

「札をます。」

ま^ズ (副)〔平〕 まあ。

「ま^ズよかった。」

ま^ズ (名)〔平〕 市、市日。

ま^ズえ (形)〔雄〕 不潔だ。

「あの人はま^ズえない人だ。」

ま^ズね (形)〔平〕 おそれない (恐れな^ス)。

「どんな所もま^ズね^ホ。」

ま^ンだ (名)〔平、南〕 しのの木。

ま^ダぎ (名)〔鹿、北、山、南、河、平、雄、由〕 狩人。

ま^タんぶ (名)〔平〕 またたび (植物)

ま^チ (名)〔雄〕 市 (いち)

ま^チくぐり (名)〔平〕 まつかさ (松毬)。

ま^チこえ (形)〔平〕 まばゆい。

「餘りま^チこえ^ホで目を開けることが出来な^ス。」

ま^チだち (名)〔平〕 町の買物。

ま^チびやし (形)〔雄〕 まちどほい (待遠い)。

「友達が来ないで、ま^チびやし^ナ。」

ま^チへ (形)〔山〕 まぶし^ス。

「ま^チへ^クてお日様を見られない。」

まの部

「便所は餘りま^ズえ。」

ま^ズげ (名)〔平、由〕 まゆげ (眉毛)。

ま^ズこえ (形)〔平〕 まばゆい。

「日照ってま^ズこえ。」

ま^ズこ^ンぼ (名)〔河〕 松かさ。

ま^ズだ^ンず (名)〔平〕 市に買物に行くこと。

ま^ズびやす (形)〔平〕 待ちどほい。

「ま^ズびやす、さっぱり来ないで。」

ま^ズぼい (形)〔平、雄〕 まばゆい。

「お日さまの光がま^ズぼい。」

ま^ズら (接)〔平〕 ……のまま。

「皮ま^ズら甘諸食ふ。」

ま^セ (名)〔雄〕 厩の前の笹棒。

ま^セく^ッて (副)〔平〕 待遠しくって。

「ま^セく^ッて困る。」

ま^ズえない (形)〔雄〕 臆劫がらない。

ま^チほしい (形)〔北〕 待遠い。

「遅くてま^チほしい。」

ま^チま^チ (副)〔平〕 まあ、まあ。

「ま^チち、ま^チち。」

ま^ツ (副)〔山、河、雄〕 ま^ツ (先づ)。

「ま^ツつ行って来い。」

ま^ツぐ^ニ (副)〔南、河、平、雄、由〕 真直に。

「ものごとは何でもま^ツぐ^ニにやれ。」

ま^ツつけ (形)〔南〕 まぶし^ス。

「あまり電燈があかりくてま^ツつけ。」

ま^ツこ^ンい (形)〔北〕 眩し^ス。

「お日さま見ればま^ツこ^ンい。」

ま^ツぬぎ (名)〔平、雄〕 ま^ツのき (松の木)。

ま^ツふぐれ (名)〔平〕 まつかさ。

ま^ツぶ^ッて (形)〔由〕 まばゆい。

「電燈がま^ツぶ^ッて^ホな。」

まの部

まんつべも (形)〔河〕まばゆい。

「この電燈はまんつべも。」

まんつぼえ (形)〔仙、雄〕まぶしい(目映)。

「この電燈はまんつぼえ。」

まで (名)〔鹿〕吝嗇。

までだ (形動)〔山〕丁寧だ。

「までんだ男だな。」

までに (副)〔仙〕丁寧に、入念に。

「もっとまでに御辭儀せ。」

まっと (副)〔鹿、山、南、市、河、仙、由、雄〕もっと、も少し。

「まっと食ひたい。」

まんどう (動四)〔市〕つぐなふ(償ふ)。

「君の本をなくしたからまんどう。」

まなぐ (名)〔全縣〕まなこ(眼)

まなく (名)〔仙〕眼。

まにあせる (動下一)〔仙〕まにあはせる。

「その着物でまにあせれ。」

まにゃーね (運)〔平〕間に合はない。

「とても今日はまにゃーねあ。」

まのくそたが (名)〔鹿〕はやぶさ。

まなぶ (名)〔由〕雪のたまたところ。

まなぶち (名)〔市〕まぶた(眼瞼)。

まふどけり (副)〔河〕今一度。

「まふどけり走って来い。」

まなぶる (動四)〔鹿、平〕守る。

「神さんがまぶって下さる。」

まへん (名)〔河〕ませぼう(馬防棒)。

まま (名)〔平〕岸。

ままおやんじ (名)〔仙〕繼父。

ままご (名)〔鹿〕まなこ(眼)。

ままんで (副)〔山、南、市、河、仙、平〕まるで。

まや (名)〔平〕ごまかし。

まやがす (動四)〔平〕ごまかす。

「よいあんばいにまやがされた。」

まゆう (動四)〔平、雄〕辨償す。

「僕の本をなくして、まゆうてよこせ。」

まよう (動四)〔鹿、南、河、仙、平、雄、由〕償ふ。

「時計こはしても、まよってやるからよしさ。」

まよんじ (名)〔河〕眉毛。

まよんず (名)〔南、市〕眉毛。

まる (名)〔山、河、平、由〕まり(毬)。

まるき (名)〔平〕おほぼこ(植物の名稱)。

まるきり (副)〔鹿〕悉皆。

「彼の算術はまるきりだめだ。」

まるぐ (名)〔平〕おほぼこ。

まるぐ (動四)〔平、雄〕束ねる。

「その枝をまるげ。」

まの部

まもり (名)〔雄〕みづすまし。

まや (名)〔山、南、河、仙、平、雄、由〕厩。

まめのご (名)〔平〕きなこ。

「嫁がまめなる話だ。」

まめなる (動四)〔南、平、雄、由〕お産する。

まめじゃこ (名)〔平〕水すまし。

「此の間はまめしくないか。」

まめし (形)〔山〕健康だ。

まめ (名)〔南、仙、平〕けんかう(健康)。

まんみ (名)〔仙、平〕虱(兒童語)。

「鬮子をままるける。」

ままるける (動下一)〔河〕まるめる。

「あの人はまゝなく人だ。」

ままなく (動四)〔平、雄〕どもる。

ままなき (名)〔平、雄〕どもり。

「ままんで繪の様だ。」

まの部

まるくた(連)〔平〕ろくな。
 「まるくたものでない。」
 まるける(動下一)〔南、雄〕まるめる。
 「ものをまるけるにうまい人だ。」
 まるこ(名)〔平〕べんき(便器)。
 まるこい(形)〔平、雄〕まるこ(圓)。
 まるば(名)〔鹿〕かたばみ。
 まるべ(名)〔鹿、山〕まるめろ(楹椀)。
 まる(名)〔南〕丸。
 まる(名)〔河〕まり(毬)。
 まるくた(連)〔南〕まるくた。
 「あれはろくな者でない。」
 まるこ(名)〔河〕便器。
 まるだ(名)〔山〕丸太。
 まるべ(名)〔山〕まるめろ。
 まわし(名)〔平〕まんと。

まわる(動四)〔河、由〕まめに働く。

「よく一人でまわる女だ。」
 まんき(名)〔河、平、由〕軽い意味の嫉妬。
 まんき(名)〔鹿〕革師。
 まんきたげる(動下一)〔雄〕嫉妬する。
 「まんきたげる兒だ。」
 まんけわり(形)〔仙、平〕きまりわるい。
 「一人で行けば、まんけわり。」
 まんこ(名)〔仙〕馬。
 まんじえつけね(形)〔雄、由〕臆しない。
 「あの男はまんじえつけねで話す男だ。」
 まんじえね(形)〔平〕臆しない。
 「まんじえねで喋る。」
 まんず(副)〔市、由〕まあ。
 「まんず、おひさしぶりなこと。」
 まんち(副)〔鹿、北、市、平、雄〕まあ。

◆みの部

「君まんち、此の萬年青を見れ。」
 まんつ(副)〔南、河、仙、平、雄、由〕先づ。
 「まんつまんつ珍しい人だ。」
 まんつまんつ(副)〔南、平〕あらまあ、ほんに。
 「まんつまんつ、困ったこと出来たな。」
 まんつり(副)〔南〕先づ。
 「まんつり、呆れたもんだ。」
 まんどーだ(形動)〔平〕明るい。
 「百燭光の電燈付けたからまんどーだ。」
 まんぶ(名)〔雄〕吹き溜り。
 まんべはれ(名)〔仙〕やぎいけ。
 まんまで(副)〔平〕まるで、そっくり。
 「まんまで死んだと同じだ。」
 まんまるける(動下一)〔平〕まるめる(圓める)
 「團子をまんまるける。」

みがげ(名)〔雄〕容貌。

みぎり(名)〔仙、平、雄〕みぎ(右)。
 みぐし(形)〔鹿、仙〕みにくい。
 「あの人はみぐし。」
 みくせ(形)〔由〕見苦しい。
 「みくせ事するな。」
 みくせ(形)〔平〕みにくい。
 「あの人の顔はみくせ。」
 みご(名)〔仙〕藁の身。
 みごる(動四)〔山、南、河、仙、平、雄、由〕にごる。
 「水がみごる。」
 みごろさげ(名)〔平〕濁酒。
 みさぐんばる(動四)〔河、平〕適當に選擇する。
 「みさぐんばって買ひいさ。」
 みさる(連)〔市、河〕……なさる。

みの部

みの部

「あなた行きみさったの。」

みし(名)〔鹿、北、山、南、河、平、雄、由〕 飯。

みじめだ(形動)〔雄〕 つらくい。

「みじめだ事する人だな。」

みんじ(名)〔北、南、河、仙、平、雄、由〕 流し場。

水屋。

みんじやじり(名)〔仙、平〕 下水流し。

みんじやだいく(名)〔平〕 下手な大工。

みんじやんぶれ(名)〔平〕 溺死者。

みんず(名)〔平、雄〕 うはばみさう。

みんずあんぶり(名)〔平、雄〕 水泳ぎ。

みんずおとし(名)〔仙〕 水落し(鳩尾)

みんずか(名)〔平〕 短衣。

みんずけ(形)〔南、平〕 短かい。

「糸がみんずけあ。」

みんずばし(名)〔平〕 ベこのした。

みずめ(名)〔市〕 里開。

みずめだ(形動)〔平〕 憎い。

「おやおや、みずめだ餓鬼た。」

みせんじらかす(動四)〔仙、平〕 みせびらかす。

「外の子にみせんじらかすな。」

みせろが(連)〔平〕 見せようか。

「この本をみせろが。」

みそこ(名)〔平〕 人並はづれ者(卑語)

みそちん(名)〔仙、平〕 みそさざい。

みそちんちん(名)〔仙〕 みそさざい。

みそんば(名)〔平〕 むしば。

みだくなす(名)〔平〕 ぶきりやう者、醜女。

みだぐね(形)〔山、南、河、仙、平、雄〕 醜い(多

く容貌にいふ)

「あの人みだぐねあ人だ。」

みちくわじど(副)〔平〕 一所懸命に。

みてんだ(連)〔雄、由〕 ……のやうだ。

「飛行機は鳥みてんだ。」

みっと(名)〔山、南〕 見物人。

みとかがて(副)〔河〕 一所懸命で。

みどご(名)〔平〕 肉。

「私にみどごくれ。」

みなから(副)〔山〕 皆。

「みなから遊びに來い。」

みなぐずどりこ(名)〔仙〕 鶴鴿。

みのごなし(名)〔仙、平、雄、由〕 臆病者。

みのはんじ(名)〔平〕 しんるゐ(親類)。

みっぼし(形)〔平〕 人目につくやうな。

「形見わけにみっぼし物を争ふ。」

みみきんか(名)〔市〕 聾。

みみきか(名)〔平〕 つんぼ。

みみくそ(名)〔山〕 耳垢。

みの部

みてがんせ(連)〔鹿〕 御覽なさい。

「此の木見てがんせ。」

むの部

みみたぶ(名)〔仙〕耳朶。
 みみたんぼ(名)〔山、仙〕みみたぶ(耳朶)。
 みーもんだ(連)〔山〕見物だ。
 「實にあの繪はみーもんだ。」
 みやく(名)〔山、平〕脈。
 みょんけだ(形動)〔鹿〕妙だ。
 「みょんけだことした。」
 みょんけに(副)〔河〕可笑しげに。
 「みょんけにやってしまった。」
 みょんみんぜみ(名)〔雄〕みんみんぜみ。
 みん(名)〔雄〕みの(簀)
 みんくせ(形)〔平〕みにく。
 「みんくせことしてゐる。」
 みんこ(名)〔平〕簀。
 みんじ(名)〔平〕水屋。

◆むの部

むえる(動下)〔雄〕孵化する。
 「雛がむえた。」
 むがつね(名)〔平〕すね。
 むがつね(名)〔仙〕脛。
 むがつら(名)〔鹿、平、仙、雄〕顔(卑語)
 むかれどき(名)〔雄〕むかはり年(周年)
 むぎこ(名)〔雄〕麥こがし。
 むきちね(形)〔平〕こころえがない(心得無
 5)
 「あの人はむきちね人た。」
 むぎつけね(形)〔北〕不憫だ。
 「難澁して居るところ見れば、むぎつけね。」
 むく(名)〔南〕藻草。
 むくり(名)〔河〕くれ(芝生土)
 むくり(副)〔平〕急に。

むの部

むぐる(動四)〔平、由〕剝ぐ、裏返す。
 「足袋をよくむぐって洗へ。」
 「林檎の皮をむぐる。」
 むぐる(動四)〔南、平〕もぐる。
 「水をむぐるに上手だ。」
 むぐつら(名)〔南〕顔(卑語)。
 むげ(名)〔山、平〕向ひ。
 むげち(名)〔仙〕へんくつ。
 むこおみる(連)〔河〕向ふを見る。
 むさえ(形)〔雄〕徳用な。
 「此の木炭はむさくて長く燃える。」
 むざぐ(動四)〔河、雄〕引裂く。
 「しくじってもむざぐな。」
 むささんび(名)〔雄〕りす(木鼠)。
 むんじける(動下)〔由〕ひねくれる。
 「よくむんじける子だ。」

むんじげる(動下)〔平〕拗ねる。
 「この子供は、むんじげる。」

むしのご(名)〔南、河、平、雄〕しらみの卵。
 むんじやく(動四)〔南〕細々と引裂く。
 「おごって繪をむんじやいた。」
 むし(形)〔北〕盡きがたい。
 「堅い墨は何程つかってもむし。」
 むしぼい(形)〔平〕喉につかへる。
 「汗吸はないで御飯たべたらむしぼい。」
 むしらど(副)〔山〕だまって、おとなしく。
 「太郎はむしらどした子だ。」
 むんじり(名)〔河、仙、平、雄、由〕つつそで(筒袖)
 むんじる(動四)〔平、雄〕向きを換へる。
 「體を右にむんじる。」
 むす(動四)〔山、南、平〕ごまかしてしまふ。

むの部

「私の鉛筆をむしたな。」
むすける(動下)〔平〕 孵化する。

「二三日前にむすけた雛だ。」

むすける(動下)〔仙、雄〕 ひねくれる、憤る。

「むすけるものでないよ。」

むすなく(動四)〔平〕 結ぶ。

「その繩をむすなげ。」

むせ(形)〔河〕 たやすく消費されずに長持する。

「この炭は割にむせまく使はれる。」

むぞえ(形)〔仙〕 かはいさうだ。

「あんな子に仕事させるなんて、むぞえな。」

むぞさえ(形)〔雄〕 むごい(無慙)。

「むぞさえ話だ。」

むぞさかね(形)〔雄〕 かはいさうだ。

「迷子をみてむぞさかねと思った。」

むんどつらし(形)〔平〕 不憫だ。

「むんどつらし話だな。」

むんどつらんだ(形動)〔仙〕 かはいさう。

「母もなくてむんどつらんだ。」

むね(名)〔仙、平〕 畝。

むよか(名)〔全縣〕 むいか。

むり(名)〔仙〕 あまもり。

むり(副)〔南〕 熱心に。

「むり」と勉強してゐる。」

むりやりに(副)〔南〕 無理に。

「人をむりやりに押した。」

むる(動四)〔南、河、仙、平、雄、由〕 漏る。

「雨がむるので困った。」

むんじり(名)〔南、平〕 筒袖の上衣(多く紺色なり)。

めの部

むぞせ(形)〔雄〕 かはいさうだ。

「何てむぞせ子だらう。」

むぞつらし(形)〔平、雄〕 憫然だ、かはいさう。

「何てむぞつらし子供だらう。」

むた(副)〔市〕 一所懸命に。

「彼は昨日からむた々と勉強し始めた。」

「此の間むっくりと寒くなった。」

むたり(副)〔北、山、南、仙、雄〕 専心に。

「此の間はむたり勉強した。」

むんつける(動下)〔山、南、仙、雄〕 ねぢける。

つむじまげる。

「あの人は忽ちむんつける人だ。」

むつり(副)〔南、河、仙〕 始終、毎度。

「むつりお世話になって。」

むんどさかね(形)〔平〕 かはいさう。

「あの兒はむんどさかね。」

◆めの部

め(名)〔全縣〕 まへ(前)。

め(名)〔全縣〕 まゆ(繭)。

めうり(名)〔山、河〕 甜瓜。

めか(名)〔市、河、雄〕 牝犬。

めかけ(名)〔平、雄〕 まへかけ(前掛)。

めかた(名)〔鹿〕 片目。

めがら(名)〔仙〕 蛇、蠶等の脱皮。

めぎ(形)〔平〕 かはいさう。

「おー、めぎ兒だ。」

めぐさい(形)〔平〕 みにくい(見悪い)。

「めぐさい女だ。」

めんくされ(名)〔北、山、南、雄〕 眼病者。

めぐされ(名)〔平〕 眼病者。

めぐし(名)〔平〕 前腰。

めんくし(形)〔雄〕 みにくく(醜く)。

めの部

「彼女はめくしえな。」
 めぐせあ(形)〔仙〕 醜い。
 「めぐせあ女だ。」
 めぐそり(名)〔雄〕 めぐすり(目薬)。
 めぐらす(動四)〔仙〕 濁す。
 「水をめぐらす。」
 めぐらぶんどー(名)〔平、由〕 野葡萄。
 めぐり(名)〔山、河〕 榊木。
 めぐりこぎ(名)〔平、雄〕 すりこぎ。
 めぐる(動四)〔鹿〕 濁る。
 「水がめぐる。」
 めんげ(形)〔河、雄〕 めぐら。(愛ぐら)。
 「めんげ兒だ。」
 めげ(形)〔河、平、由〕 めぐら。
 「めげお子さんだ。」
 めけあ(名)〔北〕 めす(牝)。

めつけあ(名)〔鹿〕 牝牛。
 めんげかる(動四)〔南、由〕 かはゆがる。

「母さんはあの子をうんとめつけがる。」

めける(動下一)〔雄〕 みつける(見付ける)。
 めつける(動下一)〔鹿、河、仙、平〕 見つける。

「針をめつける。」

めこ(名)〔平、雄〕 愛兒。
 めあこ(名)〔鹿〕 菓子。
 めあこ(名)〔平〕 まゆ(繭)。
 めあこ〔山〕 まゆ(繭)。
 めこ〔名〕〔鹿、北、山、南、河、仙、平、雄、由〕 片目。
 めいこ(名)〔仙〕 かはい子。
 めあここ(名)〔北、河〕 菓子(小兒語)。
 めあここ(名)〔南、河、雄〕 まゆ(繭)。
 めあここ(名)〔平〕 まゆ(繭)。

めの部

めこえ(形)〔鹿、北、南、仙、平、雄、由〕 かはい。
 「めこえ子供だ。」
 めこがる(動)〔由〕 かはゆがる。
 「父さんは吾々を非常にめこがる。」
 めんじゃ(名)〔山、平〕 水屋又は流場。
 めしゃい(連)〔河〕 めされ(召され)。
 「早く行きめしゃい。」
 めしえ(名)〔鹿、平〕 店。
 めしえる(動下一)〔平〕 見せる。
 「その本めしえれ。」
 めせ(名)〔山、河、仙、平、雄、由〕 店。
 めせる(動下一)〔山、雄〕 見せる。
 「その品物めせれ。」
 めた(名)〔河〕 牝犬、牝牛。
 めたた(名)〔河〕 牝犬。
 めあんだま(名)〔南、河〕 繭玉の形をした餅を藁

にとりつけて神前に供へるもの(正月の行事)の豊作を祝福する意味か。

めあんだまもず(名)〔平〕 まゆ玉餅。

めためたと(副)〔雄〕 やはらかに。

「めためたとなってしまった。」

めんだり(名)〔由〕 まへだれ。

めあんだり(名)〔山、南、河、仙、雄、由〕 前垂。

めあんだれ(名)〔仙〕 前垂。

めちゃ(名)〔河〕 牝犬、牝牛。

めちゃあ(名)〔南、由〕 女(卑語)。

めちゃかぐ(動四)〔由〕 べそかく、泣く。

「いちぢめられてめちゃかぐ弱虫め。」

めなぐする(連)〔由〕 見えなくする。

「折角買ったのをめなぐした。」

めなぐなる(連)〔由〕 見えなくなる。

「おれの帽子がめなぐなった。」

めの部

めねめ(連)〔雄〕 みえない(見えない)。

「何もめねめ。」

めのたま(名)〔平〕 あめだま(飴玉)。

めば(名)〔北〕 眼瞼の出来もの、ものもらひ。

めっば(名)〔平〕 若布。

めっば(名)〔山、河、平〕 眼病者。

めんぶぐ(名)〔平〕 面目。

めぶぶり(名)〔鹿〕 前垂。

めへ(名)〔南〕 店。

めへれ(動下一)〔仙〕 みせれ。

「雑誌めへれ。」

めんぼ(名)〔山〕 棒。

めっぼへだ(連)〔北〕 狼狽する。

「至急の事でめっぼへだ。」

めままわる(動四)〔仙、雄〕めまひする、眩暈する。

「人ごみに長くゐたらめままはる。」

めめ(名)〔山、河〕 虱(小兒語)。

めめ(名)〔仙、平、雄〕 みづ(小兒語)。

めめめ(名)〔雄〕 菓子(小兒語)。

めめんこ(名)〔平〕 柳の芽。

めめんじ(名)〔鹿、北、山、平、雄〕 みみず。

めめんず(名)〔鹿、南、仙、平、雄、由〕 みみず。

めめたれ(副)〔山〕 少し(小兒語)。

「めめたれしかくれない。」

めめらし(名)〔平、雄〕 めひ、(姪)。

めめんそ(名)〔平〕 おてだま(お手玉)。

めーやぐ(名)〔平〕 迷惑。

めより(名)〔市〕 まより、眼脂。

めんけに(副)〔南〕 妙に。

「からだの工合めんけに悪く。」

めら(名)〔平〕 なきむし、阿呆。

めらこ(名)〔平〕 下女。

めらし(名)〔鹿、北、仙〕 娘、女兒。

めらし(名)〔北、南、河、仙、平、雄、由〕 下女。

めりき(名)〔平〕 ミルク。

める(動下一)〔鹿、南、河、仙、平、雄〕 見える。

「秋の水は底までめる。」

めろり(名)〔南、河、平、雄〕 間ぬけ。

めわらし(名)〔雄〕 姪。

めんか(名)〔平〕 牝犬。

めんくされ(名)〔雄〕 目腐れ、眼病者。

めんけ(形)〔南、市、平、由〕 愛らしい。

「めんけ子供だね。」

めんこ(名)〔南、仙、雄、由〕 かはいい兒。

めんこ(名)〔平〕 いもうと(妹)

めんこい(形)〔雄、由〕 かはいい。

「ねずみの子はめんこいなー。」

めんこえ(形)〔鹿、仙、平〕 かはゆらしい。

もの部

もの部

「あの子供はめんこえな。」

めんちよい(形)〔仙〕 かはいい。

「めんちよい坊だ。」

めんとい(形)〔仙〕 かはいい。

「この子はめんといな。」

めんぶぐ(名)〔南、平〕 めんもく(面目)

めんぼ(名)〔雄〕 刀物の鈍きこと。

めんぼ(名)〔河〕 棒。

めんめんそ(名)〔雄〕 おてだま(お手玉)。

◆もの部

もえ(名)〔鹿、南、河、仙、平、雄、由〕 め(芽)

もかぐばら(名)〔平〕 さるとりいばら。

もきり(名)〔鹿、平〕 茶椀酒。

もぐ(名)〔山、河〕 藻草。

もくら(名)〔北〕 たつつけ袴。

もぐらもじ(名)〔鹿、南、仙、由〕 むぐらもち土龍

も の 部

もぐり(名)〔山〕 潜水夫。
 もくれ(名)〔南〕 芝生。
 もけ(名)〔山、南〕 ひきがへる。
 もけ(名)〔鹿、南、仙〕 ひきがへる。
 もけず(動四)〔平、由〕 掘返す。
 「屑箱を犬がもけおしてゐた。」
 もけず(動四)〔平〕 ほりさがす。
 「箆笥をもけおす。」
 もけだ(形動)〔鹿、北、由〕 困った、仕様のな
 5。 5。
 「そんなことばかりしてもけんだ子供だ。」
 もけびき(名)〔河〕 ひきがへる。
 もご(名)〔鹿〕 向ふ。
 もご(名)〔市〕 向ふ。
 もご〔鹿、山、南、市、河、仙〕 婚。
 もご(名)〔鹿、北、仙〕 怪物、おそろしいもの。

もっこ(名)〔仙〕 竹製の籠。
 「雨降りだからもっこで乾せ。」
 もっこり(副)〔市、仙、平、雄、由〕 澤山。
 「お菓子をもっこり上げるよ。」
 もごろみ(名)〔平〕 設計、計畫。
 もんざね(形)〔仙〕 とり散らした状態。
 「もんざね、少し片付けれ。」
 もじぎ(名)〔由〕 ゆひなふ(結納)
 もじくなる(動四)〔北〕 もむ。
 「もじくなる」と裂ける。
 もじずぎ(名)〔由〕 臨月。
 もんじぐる(動四)〔平、雄〕 もます。
 「紙をもんじぐるなよ。」
 もんじぐる(動下)〔平〕 もめる。
 「よくもんじぐる紙だな。」
 もじげる(動下)〔河、由〕 もちあげる、お齧

も の 部

てる。
 「うんと力入れてもじゃげれ。」
 「あの人をもじゃげておごらせれ。」
 もじゃね(形)〔由〕 無邪氣な。
 「あの男はもじゃね奴だ。」
 もんじゃね(形)〔仙、平、雄〕 ごたごた取りちら
 して居る。
 「もんじゃね家に案内して面目ない。」
 もじゃばなして(副)〔鹿〕 持って居れないで。
 「何ももじゃばなしでなくする、」
 もんじょくたらね(形)〔雄〕 でたらめだ。
 「もんじょくたらねよく読んで何も分らない。」
 もしろ(名)〔鹿、山、南、仙、雄、由〕 むしろ。
 もず(動四)〔南、平、由〕 うむ(産む)
 「雛が卵をもった。」
 もんぞ(名)〔鹿、仙、平〕 ねごと。

もそかしてしごと(連)〔平〕 のろのろして居る
 しごと。
 もそかそて(副)〔河、雄〕 のろのろして。
 「もそかそてゐないで早くすれ。」
 もそくそて(副)〔河、雄〕 のろのろして。
 「もそくそてお前はだめだ。」
 もそけ(形)〔鹿〕 こそぐたゝ、かゆゑ。
 「背中がもそけあけてこまる。」
 もそもそど(副)〔平〕 のろのろと。
 「毛蟲がもそもそど這って来た。」
 もたな(名)〔南〕 子を負ふ帯。
 もったな(名)〔平、雄〕 ねんねこ帯。
 もたら(名)〔河〕 同上。
 もんだら(名)〔南、仙、平、雄、由〕 たわし。
 もたら(名)〔由〕 ねんねこ帯。
 もちあそび(名)〔仙〕 玩具。

もの部

もちあみ (名)〔河、雄〕 四つ手網。
 もちとこ (副)〔河〕 今少し。
 「もちとこ我慢すれ。」
 もちやくちやす (動さ變)〔南〕 取りまぎれる。
 「もちやくちしてゐて、まだ禮も言はないで。」
 もちよこ (名)〔平〕 つづれ。
 もちやへねお (形)〔雄〕 物を粗末に取扱ふ状態。
 「もちやへねおくて本を切らしてしまった。」
 もちやもちやじ (形)〔平〕 もしくしゃだ。
 「もちやもちやじ髪して學校に來た。」
 もちよこてお (形)〔鹿〕 くすぐったい事。
 「くすぐるともちよこてお。」
 もつこし (副)〔平〕 もう少し。
 「もつこしくれ。」
 もて (名)〔南、河〕 元結。
 もてなこ (名)〔仙、平〕 元結。

もってあぶる (動四)〔仙、平〕 重々しく振舞ふ。

「あの人はもってあぶる人だ。」
 もてる (動下一)〔雄〕 分蘖する。
 「良くもてる稻だ。」
 もんどす (動四)〔平〕 嘔吐す。
 「腹の工合悪くてもどした。」
 ものさんべ (名)〔雄〕 話。
 「あの人、ものさんべよく分らない人だ。」
 ものし (名)〔河〕 ト者。
 ものしり (名)〔河〕 ト者。
 ものもり (名)〔河〕 眼瞼の腫物。
 もひき (名)〔雄〕 股引。
 もひとげおり (副)〔市〕 もう一度。
 「もひとげおり行って見たい。」
 もふえ (名)〔南、河、仙〕 煽動、おだてること。
 もふえきる (動四)〔南〕 おだてにのる。

もの部

「この兒はもふえきて働く兒だ。」
 もふえしょう (動四)〔雄〕 圖に乗る、おだてに
 乗る。
 「もふえしょうとどんなことでもする。」
 もへ (名)〔北、平〕 煽動。
 もへへ (名)〔山、南、市、仙、平、雄、由〕 股引。
 もへへ (名)〔河〕 股引。
 もへしよわせる (動下一)〔平〕 おだてあげる。
 「子供に、もへしよわせる。」
 もへたげて (副)〔平〕 おだてられて。
 「彼奴め、もへたげて。」
 もほ (名)〔鹿〕 鼻。
 もほ (名)〔鹿〕 無法。
 もめんじ (名)〔鹿〕 紅葉。
 もめあする (動さ變)〔北〕 周章狼狽する。
 「餘り忙しいのでめあする。」

もめん (名)〔鹿〕 新しい着物、晴衣。

ももしき (名)〔鹿、平〕 股引。
 ももたんぼ (名)〔平〕 股。
 もよう (動四)〔仙〕 装ふ。
 「さあ時間だ、もよって出かけれ。」
 もらり (副)〔平〕 澤山。
 「お土産をもらりもらった。」
 もらる (動四)〔鹿〕 貰ふ。
 「金をもらる。」
 もり (名)〔雄〕 土地の小高き所。
 もりこ (名)〔平〕 子守。
 もれおこ (名)〔平〕 養子。
 もろ (名)〔仙〕 むろ(室)
 もんき (名)〔鹿、南、河、平〕 むくげ(木槿)。
 もんく (名)〔南、仙〕 苦情。
 もんじゃ (名)〔山、南〕 亡者。

ヤの部

もんなり(名)〔平〕ものなり、小作料。
もんぶし(名)〔河、雄、由〕もんぶしやう。
(文部省)

もんへ(名)〔鹿、北〕雪袴。

◆ヤの部

や(名)〔雄〕君。

「や、活動見に行かう。」

や(接尾)〔平〕よ。

「たくさん来るや。」

やうずり(名)〔由〕引越し。

「やうずりしたか。」

やが(名)〔山、南、河、仙、平〕厄介。

「やがる。」

やんか(仙、平、雄)いや、嫌ひ。

「さうするなら、俺やんか。」

やがえなる(連)〔由〕厄介になる。

「親にやがえなる。」

やがこむ(動四)〔平〕ねたむ。

「やがこんで取戻した。」

やかしめ(形)〔平〕やかまし。

「そんなにしては、やかしめ。」

やがしめ(形)〔仙、平、雄〕やかまし。

「やがしめ、静かにせ。」

やかになる(連)〔平〕邪魔になる。

「やかになるな。」

やがねる(動四)〔仙〕ねたむ。

「あの人は何でもやがねる人だ。」

やかましね(連)〔市〕やかまし。

「やかましねが、静にせ。」

やかむ(動四)〔平〕ねたむ(妬む)。

「あの方はよく物をやかむ方だ。」

やかむ(動四)〔平、雄〕ねたむ。

やっけ(名)〔平〕やくかい(厄介)。

やげ(名)〔南、由〕火傷。

やげば(名)〔山〕火葬場。

やげばた(名)〔鹿〕やけど(火傷)。

やっこ(名)〔北、山、南、市、仙、平、雄、由〕こじき(乞食)。

やこい(形)〔河、仙〕やはらかい(軟い)。

「此のりんごは見たよりやこい。」

やこい(形)〔鹿、平、雄〕やはらかい(柔い)。

「やこい木だ。」

やこえ(形)〔平〕柔い。

「綿はやこえ。」

やごど(名)〔平〕戯語。

やざがね(連)〔仙〕いけない、不可だ。

「そしたてやざがねやめれ。」

やざがね(連)〔鹿、市、河、仙、平、由〕いけない

ヤの部

やっけ(形)〔山、南、市、仙、平、由〕軟い。

「今朝のままはやっけな。」

「やけ豆腐だな。」

やけ(形)〔平、由〕やはらかい(軟い)。

やけ(名)〔平〕やけど。

やぐん(名)〔仙〕はげあたま(禿頭)。

やぐれ(名)〔平〕(藥禮)。

「やぐどに行け」

やぐどに(副)〔平〕即坐に。

やぐど(名)〔鹿、北、山、南、市、河、平〕うそ。

やぎみし(名)〔南、仙〕握飯。

やぎば(名)〔鹿〕火葬場。

やぎ(名)〔由〕野妓(賣春婦)。

「やがんえなるから、あちらへ行け。」

やがんえなる(連)〔雄〕邪魔になる。

「人のことをやっかんではいけない。」

やの部

い、埒あかなら。

「あなたそんなこととしてはやざねがねあ。」

やっさど (副)〔市、雄〕 一所懸命に。

「やっさど働け。」

やざねあな (連)〔平〕 いけないねー。

「友達留守で、やざねあなー。」

やざね (形)〔平〕 かなしい(悲しい)。

「子供を亡くしてやざねや。」

やし (形)〔仙〕 いやしい。

「やし者だ。」

やじ (名)〔仙〕 水っぽい土地。

やじ (助)〔鹿、北〕 のに。

「俺も行くやじ知らせない。」

やしかける (動四)〔北〕 そのかす。

「犬をやしかける。」

やじかたこ (名)〔平〕 しょうじゅうばかま。

やじがね (連)〔山〕 いけない、駄目。

「とてもやじがね。」

やじがね (連)〔雄〕 らちあかない(埒明かなら)。

「さうしたってやじがねあ。」

やしべし (連)〔山〕 やりませう。

「私もやしべし」

やじまげる (動下二)〔仙、平〕 困った事をする。

「これはやじまげた。」

やしめる (動下二)〔仙、平、雄、由〕 いやしめる (輕蔑)。

「隣の人にやしめられた。」

やしめわなあ (連)〔平〕 おやすみなさい(お休みなさい)。

「まづやしめわなあ。」

やじかかね (連)〔北、仙〕 らちあかね(埒あかな)。

「まづやしめわなあ。」

やじかかね (連)〔北、仙〕 らちあかね(埒あかな)。

ぬ)。

「さうしたってやじかかねあ。」

やーじかかね (連)〔鹿〕 埒あかない。

「勉強しないとやーじかかねあ。」

やじかね (連)〔山、河〕 いけない、だめだ。

「そんなことをしてはやじかねあ。」

やじかねがた (連)〔雄〕 しかたありませんでし

た。

「折角来たが病気でやじかねがた。」

やじまげだ (動下二)〔由〕 しばいした(失敗)。

「汽車におくれてやじまげだ。」

やしんご (名)〔平〕 玄孫。

やし (名)〔南〕 お灸。

やす (形)〔雄〕 やすい(安い)。

「それはやすな。」

やの部

やず (名)〔平〕 沮洳の地。

やず (代)〔仙〕 彼。

やすまはれ (連)〔由〕 休みなさい。

「こゝに腰かけてやすまはれ。」

やすめる (動下二)〔平〕 輕蔑する。

「人をやすめる。」

やせ (名)〔平〕 野菜。

やせもの (名)〔南〕 さくもつ(作物)、野菜物。

やせんま (名)〔平、雄〕 おとしだま(お年玉)。

やだ (代)〔平〕 君等。

やだ (連)〔鹿、市、仙、平、雄、由〕 いやです(嫌です)。

「この寒いに行くのはやだ。」

やだがる (動四)〔由〕 いやがる。

「やだがるのをむりに連れて行った。」

やだくなつた (連)〔仙〕 あきた(倦きた)。

「あきた(倦きた)。」

やの部

「勉強はやだぐなった。」

やだやだ(副)(仙) 澁々。

「やだやだとし事する。」

やじまげだ(連)(平、雄) こまってしまった、

(困ってしまった)。

「こんなにされてやじまげだ。」

やじまげる(動下)(河、雄) 仕様のないこと

をする。

「そんなにやじまげるな。」

やじやくちな(形)(由) らんざつな(亂雜)。

「紙や筆をやぢやくちなことするな。」

やぢやね(連)(山、南、河) らちあかない。

「それはやぢやね。」

やぢやね(連)(南) し方がない。

「やぢやねごどした。」

やぢやねなんす(連)(雄) おきのどくです(お

氣の毒です)。

「わざわざ来て下さったのにやぢやねなん

す。」

やぢした(名)(雄) し様のないこと。

やぢべら(代)(南) 奴等。

やだ(連)(南、河、平、由) いやだ。

「行くのがやんだ。」

やたぎる(動四)(雄) やき切る(焼き切る)。

「木をくべてやたぎる。」

やだひと(連)(河) いやなひと(厭な人)。

「あの人はやんだひとである。」

やぢやね(形)(平) 弱さうな。

「あのやぢやねわらしこが。」

やぢんびる(動四)(河) こせこせする。

「そんなにやぢんびるな。」

やつか(名)(平) はんのき。

やつがない(連)(平) いけない。

「其のやうにしては、やつがない。」

やつぎたもの(代)(雄) あんなもの。

やつね(連)(雄) 悲しい。

「友人が死んでやつね。」

やつまげだ(連)(平、雄) 大變。

「隣りの家が火事でやつまげだ。」

やてば(副)(鹿) ややもすれば(動もすれば)。

「やてば泣いてこまる子供だ。」

やてば(副) ややもすれば。

「やてば何々君はそんな事を云って。」

やと(副)(河) 漸く。

「やと間にあった。」

やどえ(名)(市) 人足。

やどご(名)(鹿) 家建。

やとが(副)(北) 辛うじて。

やの部

「やつとが逃げて来た。」

やなさて(名)(北、仙、雄) 明々後日。

やね(名)(平、雄) やに(樹脂)。

やねん(名)(山) 來年。

やねん(名)(南、河) 來年。

やのえ(名)(雄) やね(屋根)。

やっぱし(副)(南、仙、平、由) やはり(矢張)。

「人違ひかと思たらやっぱしおまへであった。」

やばち(形)(鹿、山、南、平、雄、由) しめっほい。

「雨にたたかれてやばちな。」

やんばち(形)(南、河) 濕って氣持が悪い。

「ここからはやんばちな。」

やばちい(形)(仙) 不潔な。

「やばちい人は病氣になる。」

やんばつ(形)(平) しめっほい。

「ここは何時も乾はかないでやんばつ。」

やの部

やっぱり(副)(仙) やはり。
 「やっぱり菓子よりは果物がいい。」
 やひ(名)(鹿、山、河) 炙。
 やびし(連)(北) やりませう。
 「おにごっこやびし。」
 やんぶる(動四)(河) あびる(水を)。
 「川で水をやんぶる。」
 やっへし(連)(山) やりませう。
 「凧揚げをやっへし。」
 やま(名)(平) やんま(とんぼの一種)。
 やまががず(名)(平) やまかがし。
 やまご(名)(鹿、平、雄) 杣夫。
 やまご(名)(平、雄) 杣。
 やまざ(名)(平、雄) けが(怪我)。
 やまだいこん(名)(平) くりんさう。
 やまのあに(名)(平) 猿。

やまのあんこ(名)(南、平) 猿。
 やまはんぎ(名)(河) 正月の行事の一種。
 やまよど(名)(雄) 山稼連中。
 やみや(名)(北) やまひ。(病)
 やめ(名)(鹿、北、山、仙、雄) びやうき(病氣)。
 やめ(名)(南、平、雄) 病人。
 やめれ(動四)(雄) やめなさい。
 「やめれ泣くから。」
 やめればえ(連)(鹿) やめなさい(止めなさい)。
 「悪い遊びだからやめればえ。」
 やもじ(名)(平) 山内。
 ややこ(名)(平) 兒童の友を呼ぶ語。
 やら(代)(仙、平、雄) きみ(君)。
 やら(名)(仙) 原。
 やらう(名)(雄) 競争。
 やらしくね(形)(雄) にくらしい。

ゆの部

「やらしくね人だな。」
 やろ(名)(雄) 下男(但未だ大人にならぬ者)。
 やろこ(名)(平、雄) 下男(未成年の)。
 やわらけ(形)(河) やはらかい(柔かい)。
 「豆腐はやわらけ。」
 やんたる(名)(河) 墓場、火葬場。
 やんちゃ(名)(河) 茶目。
 やんちもの(名)(河) 茶目。
 やんま(副)(平) 澤山。
 「子供がやんま居る。」

ゆの部

ゆえ(名)(雄) 努力の交換。
 ゆえ(動四)(鹿) 言へ。
 「そのとほりゆえ。」
 ゆえこ(名)(平) お互に手傳合ふ事。
 ゆおー(名)(鹿) 硫黄。

ゆきしろみず(名)(市、平) 雪解水。
 ゆきどろ(名)(平) 吹雪に倒れた人。
 ゆきふた(句)(雄) 雪がふた。
 ゆぎやげ(名)(山、市) 霜焼。
 ゆっきゆっき(名)(平) もやもや。
 ゆぐ(名)(平) 慾。
 ゆぐでなし(名)(鹿) ろくでない者。
 ゆぐね(形)(平、由) よくない。
 「ゆぐね奴だ。」
 ゆぐばる(連)(鹿) 慾ばる。
 「彼はなかなかゆぐばる。」
 ゆくゆく(副)(雄) よく〜。
 「ゆくゆく見限られてしまった。」
 ゆげ(連)(連) ゆでた(沸でた)。
 「此の青物ゆげあたか。」
 ゆこ(名)(雄) ゆ(湯)。

NAN MO 彦

ゆ の

ゆんご (名)〔平〕 夕顔。
 ゆっこ (雄) おゆ(お湯)。
 ゆごどきまき (名)〔雄〕 従順なること。
 ゆこや (名)〔平〕 風呂屋。
 ゆさんど (名)〔平〕 留守居。
 ゆじげる (連)〔山〕 言ひ附ける。
 「し事をゆじげる。」
 ゆす (名)〔仙〕 るす(留守)。
 ゆすぎ (名)〔平、雄〕 留守居。
 ゆすぎ (名)〔平〕 留守居。
 ゆすばん (名)〔平〕 るすばん(留守番)。
 ゆすぶる (動四)〔平、由〕 ゆるがす(揺)。
 「からだゆすぶてあり人。」
 ゆせん (名)〔雄〕 徳利。
 ゆせん (名)〔北、南、雄〕 銚子(陶器)。
 ゆせんこ (名)〔平〕 とくり(徳利)

ゆったらど (副)〔平〕 ゆっくりと。
 ゆったり (副)〔仙〕 ゆっくり。
 「倒ばない様にゆったり行け。」
 ゆちがす (動四)〔平〕 ゆるがす。
 「木をゆちがす。」
 ゆちぎやす (動四)〔平〕 大騒ぎする。
 「火事でゆちぎやす。」
 ゆつがす (動四)〔仙〕 揺がす。
 「あんまりゆつがすな。」
 ゆつがす (動四)〔雄〕 ゆるがす(揺がす)。
 「ぶらんこに乗ってゆつがす。」
 ゆつける (連)〔平、雄〕 結び付ける。
 「柱にゆつける。」
 ゆーつける (連)〔平〕 命令する。
 「よく働くやうにゆーつける。」
 ゆづげる (連)〔雄〕 言ひ付ける。

ゆ の 部

「用事をゆづげる。」
 ゆっつめかす (動四)〔雄〕 おほさわぎをする
 (大騒ぎをする)。
 「向の家は御祝儀で昨晚ゆっつめかした。」
 ゆで (名)〔鹿〕 てぬぐひ(手拭)。
 ゆでる (動下二)〔由〕 うでる。
 「卵をゆでる。」
 ゆーど (接)〔平〕 するといふと。
 「犬が吠えた、ゆーど子供が目をさました。」
 ゆーの (名)〔市〕 結納。
 ゆびかねこ (名)〔平〕 ゆびわ。
 ゆぶしま (名)〔鹿〕 やぐ(夜具)。
 ゆへ (動四)〔平〕 云へ。
 「遊びに行ったとゆへ。」
 ゆべな (名)〔鹿、北、仙、平、雄、由〕 昨夜。
 ゆへん (名)〔南、河〕 徳利。

ゆま (名)〔平、雄〕 夜。
 ゆやのひたぎ (名)〔平〕 湯屋の三介。
 ゆらご (名)〔鹿、平〕 ぶらんこ。
 ゆりり (名)〔平、雄〕 いろり。
 ゆるが (名)〔平〕 海豚。
 ゆるぎ (名)〔鹿〕 爐ばた。
 ゆるくない (形)〔平〕 難儀だ。
 「其の工事をなすにはゆるくない。」
 ゆるぐね (形)〔平〕 容易くない。
 「その難え事をなすは、ゆるぐね。」
 ゆるしえ (名)〔平〕 財産家。
 ゆるり (名)〔仙、平、雄、由〕 爐。
 ゆーるーり (名)〔雄〕 ろ(爐)。
 ゆわ (名)〔鹿、仙、平、雄〕 岩。
 ゆわえ (名)〔雄〕 いはひ(祝)。
 ゆわし (名)〔鹿、雄〕 いわし(鰯)。

よの部

ゆわす(名)〔平〕鰯。

ゆんべな(名)〔由〕ゆうべ(昨夜)。

◆よの部

よ(名)〔河〕鮭。

よ(名)〔南〕用。

よー(名)〔平〕鮭。

よか(助)〔由〕よりは。

「お前よか俺は上手だ。」

よが(助)〔平〕よりは。

「菓子よが果物うまい。」

よか(名)〔由〕か(蚊)。

よがいぶし(名)〔仙〕蚊追。

よかがる(動四)〔鹿〕凭かかる。

「柱によかがてゐた。」

よがしべ(連)〔山〕よいだらう(善いだらう)。

「食はぬ方がよがしべ。」

よがす(形)〔平〕よろしい。

「それでよがす。」

よがのはし(名)〔平、雄〕げんのしょうこ(植

物)。

よがのはす(名)〔雄〕げんのしょうこ。

よぎ(名)〔鹿、平、由〕夜具。

よぎっ(名)〔山〕雪。

よきり(名)〔鹿〕さけによった人。

よっきる(動四)〔鹿〕酒に非常に酔ふ。

よくたかれ(名)〔平〕慾張。

よくたがれ(名)〔鹿、山、由〕よくばり。

よくだごと(連)〔南、河〕ろくなこと。

「あの人よくだごとしない。」

よくばり(名)〔雄〕よくばり(慾ばり)。

よっくれ(副)〔鹿〕餘程。

「私はよっくれ行ってから戻って来た。」

よの部

よげ(副)〔河、仙、平、雄〕たくさん(澤山)

「よげ持って来い。」

よげ(副)〔鹿、北、南、市、由〕たくさん。

「貴女の家では私の家より人がよげ居る。」

よげだ(形)〔南、市、仙、雄〕餘計だ。

「それはあまりよげだ。」

よげに(副)〔南〕澤山に。

「よげによこせ。」

よげる(動下一)〔鹿、仙、平、雄〕退く。

「よげれ、よげれ車来たから。」

よこ(名)〔山〕ようじ(用事)。

よごあんす(句)〔由〕ようございます。

「買ふ物はよごあんす。」

よござ(名)〔平〕爐邊の主人の坐すべき座。

よごし(名)〔由〕あえもの。

よごし(動四)〔平〕よごしなす。

「私にそれをよごした。」

よごせ(動四)〔平〕下さす。

「其のべんをよごせ。」

よごたまに(副)〔鹿〕横に。

「道でよごたまに倒れた。」

よこになる(連)〔河〕あぐらかく。

「足がいたいからよこになる。」

よこにねる(連)〔河〕だだをこねる。

「菓子をよこせとよこにねる。」

よこみ(名)〔鹿〕蓬。

よごれる(動下一)〔仙、雄〕ぬれる(濡)。

「着物は雨でよごれた。」

よさくまめ(名)〔雄〕えんどう。

よさぐまめ(名)〔南、仙、平、雄〕豌豆。

よじじ(名)〔雄〕やばん(夜番)。

よしやら(名)〔南〕葦原。

よの部

よせ(名)(仙) きょじゃく(虚弱)。
 よせる(動下)〔北〕 交尾させる。
 「馬よせる。」
 よた(連)(雄) 酔うた。
 「酒によた。」
 よだ(連)(仙、由) 必要だ。
 「君はこれによだか。」
 よーだ(連)(雄) いろいろ(入用)である。
 「まだよーだからすてるな。」
 よんだか(連)(雄) いらいますか。
 「これよんだか。」
 よだぐれ(名)(北) 弱い者。
 よったくれ(名)(北) 酔はらひ。
 よだこ(名)(鹿) 子供等の弱い事。
 よだねずみ(名)(雄) はつかねずみ。
 よたぶる(動下)〔平〕 よらよらする。

「酒に酔ってよたぶる。」

よたもの(名)(雄) 用に立たぬ者、弱い者。
 よだもの(名)(平、雄) つまらぬもの。
 よったらくれ(名)(鹿) 酔ひどれ。
 よだり(名)(仙) 唾。
 よちばれ(名)(山) 寝小便。
 よちかね(形)(平) 弱さうな。
 「よちかねわらしだけ。」
 よちめぎ(名)(北) 衰弱せる人。
 よつばれ(名)(北) 寝小便。
 よて(名)(雄) 最終の田植。
 よにゃよにゃ(副)(北) 倒れかからうとしてゐるさま。
 「あの樹はよにゃよにゃして居る。」
 よねねがた(連)(山) よねんなかった(餘念無かった)。

よの部

「勉強によねねがた。」
 よのげ(名)(南、河、仙、平) 米櫃。
 よぱり(名)(平) 夜ふかし。
 よぱり(名)(鹿、河、雄) 夜更かし。
 よぱりこぎ(名)(南) よふかしするひと。
 よばる(動四)(鹿、南、仙、平) 招待する。呼ぶ。
 「人をよばる。」
 よばれこぎ(名)(山) よふかしもの(夜更し者)。
 よひって(名)(平) 終夜。
 よびって(副)(仙) 夜を日についで。
 「よびって働いた。」
 よへんだ(形)(河) へなへなして弱い。
 「あまりよへんだ人だ。」
 よべな(名)(北、山、南、由) 昨夜。
 よんべな(名)(南、河) 昨夜。
 よへなる(動四)(河) 泥酔する。

「よへなるまで酒を飲む。」

よぼど(副)(仙) 餘程。
 「よぼど痛いと見えて中々泣きやめな。」
 よぼる(動四)(雄) ゆすぶる(揺る)。
 「赤ちゃんが泣けば私はいつもよぼる。」
 よま(名)(山、仙、平) よる(夜)。
 よみ(名)(河) 夢。
 よみや(名)(平) 宵祭。
 よめ(名)(山、南) 夢。
 よめつずぎ(名)(由) ほいたけぼう(祝竹棒)。
 よめのはす(名)(雄) くじゃくすだ。
 よーやらさっと(副)(平、雄) やっと。
 「今日よーやらさっと出来だ。」
 よよと(副)(平、雄) やっと。
 「よよと方言を調べ終った。」
 より(名)(山、南、河、平、雄) 料理。

よの部

より(名)〔鹿〕 元結び。
 よーり(名)〔平、雄〕 れうり(料理)。
 よりこ(名)〔山、南、河、平、雄〕 料理。
 よりこ(名)〔仙〕 元結。
 よーりや(名)〔由〕 料理屋。
 よれ_ホ(名)〔雄〕 よりあひ。
 よろ_リ(名)〔南、河、仙、平、由〕 百合。
 よろ(名)〔雄〕 股。
 よろけ(名)〔鹿〕 弱い者。
 よろける(動四)〔北〕 衰弱する。
 「年としてよろける。」
 よろし(名)〔雄〕 金持。
 よろた(名)〔山、南、河、仙、平〕 もも(股)。
 よろめ(名)〔山〕 外。
 よろん(名)〔河〕 爐。
 よゑ_リ(名)〔河〕 うへ(上)。

よゑる(動)〔河〕 うゑる(植)。

よゑ_ホ(形)〔河、雄〕 よわい。

「體がよゑ_ホくていつも病氣ばかりしてゐる。」

よわ(名)〔河〕 いは(岩)。

よわし(名)〔南、河〕 いわし、罫。

よわの(固)〔河〕 うはの(上野)。

よわばり(名)〔河〕 うははり、裕(農装用)。

よわり(名)〔平〕 夜業。

よんた(形動)〔仙〕 やうだ。

「腹がむ_ッとしてやめて来るよんた。」

よんだ(連)〔南、仙、平〕 必要だ。

「ぜによんだが無くて困った。」

◆らの部

ら(接尾)〔鹿〕 居るわい。

「彼は未だ寝てら。」

らく(名)〔市、雄〕 ゑた(穢多)。

らく_リ(名)〔平〕 新平民。

らく_グ(名)〔平〕 革屋。

らく_ケに(副)〔鹿〕 取扱を亂暴に。

「本をあまりらく_ケにするとはれるぞ。」

らざ_ネね_ホ(連)〔河〕 譯のわからぬ。

「あの子はらざ_ネね_ホ。」

らじゃかね_ホ(連)〔河〕 らちあかない。

「そんなことすればらじゃがない。」

らせ_ル(動)〔雄〕 させる。

「食べらせる。」

らんか(名)〔鹿、平〕 らんかん(欄干)。

らんき(名)〔鹿〕 亂暴。

らんげん(名)〔雄〕 やげん(藥研)。

らんと(名)〔雄〕 墓。

らんびだ(形)〔平〕 らんばうな。

「あの人らんびだ人だ。」

ろの部

よゑる(動)〔河〕 うゑる(植)。

よゑ_ホ(形)〔河、雄〕 よわい。

「體がよゑ_ホくていつも病氣ばかりしてゐる。」

よわ(名)〔河〕 いは(岩)。

よわし(名)〔南、河〕 いわし、罫。

よわの(固)〔河〕 うはの(上野)。

よわばり(名)〔河〕 うははり、裕(農装用)。

よわり(名)〔平〕 夜業。

よんた(形動)〔仙〕 やうだ。

「腹がむ_ッとしてやめて来るよんた。」

よんだ(連)〔南、仙、平〕 必要だ。

「ぜによんだが無くて困った。」

◆らの部

ら(接尾)〔鹿〕 居るわい。

「彼は未だ寝てら。」

らく(名)〔市、雄〕 ゑた(穢多)。

◆りの部

りんき_リ(名)〔南、市〕 林檎。

りんじゃく(名)〔南〕 細いロープ、連尺。

◆れの部

れぐち(名)〔鹿〕 理窟。

れくつ(名)〔鹿〕 理窟。

れ_ホげつ(名)〔仙〕 らいげつ(來月)。

れ_ホさま(名)〔鹿、河〕 らいさま(雷様)。

れ_ホねん(名)〔鹿、仙、平、雄〕 明年。

れんぐわ(名)〔平〕 ほうせんくわ(鳳仙花)。

◆ろの部

ろ_リ(接尾)〔雄〕 よう。

「食べてみるろ。」

ろ_リえき(名)〔市〕 勞症に同じ。

ろ_リし_ョー(名)〔市〕 勞症、肺病。

ろ_リね_グ(名)〔河〕 らうにやく(老弱)。

わの部

ろぐだごど(連)(雄) ろくなこと(碌なこと)。

「ろぐだごどしない。」

ろぐだに(副)(南) ろくろく。

「ゆうべはろぐだにねないでしまった。」

ろくたもの(名)(平) よくないもの。

ろくてなし(名)(仙) 悪い奴。

ろくてね(形)(雄) 碌でない。

「碌でねも奴だ。」

ろそく(名)(仙、雄) らふそく(蠟燭)。

ろそぐ(名)(平) らふそぐ(蠟燭)。

◆わの部

わ(代名)(鹿、北、仙、雄) 私、我れ。

「わ、山に行ったら。」

わか(名)(平、雄) 輪。

わがんじ(名)(南、河、平) 若者、下男。

わがす(動四)(河、平) 沫をとばしてしゃべる。

わっこ(名)(仙) 輪髪。

わごさま(名)(鹿) 坊ちゃん。

わごつ(名)(平) 坊ちゃん。

わさらする(動三變)(平、由) 悪戯する。

「小刀でわさらしてゐる。」

わしど(名)(鹿) 子どもら。

わんじ(副)(鹿、雄) わざに(態に)。

「わんじにした事でない、過ちだ。」

わんじやわんじ(副)(鹿) わざわざ。

「わんじやわんじや有難う。」

わしら(名)(雄、仙) 悪戯。

わす(名)(雄) 山腹の雪の上層なだれ(雪崩)の

如くすり落ちるもの。

わすえる(動下一)(由) わすれる。

「あの問題わすえました。」

わすた(連)(雄) わすれた(忘れた)。

わの部

「あの人、またわがしてゐた。」

わがんぜ(名)(山、仙、平、雄) 下男、若者。

わがね(連)(鹿) いけない、分らない。

「そんなことするとわがねも。」

わがらね(連)(山、平) 駄目だ。

「もーわがらなくなつた。」

わき(名)(雄) 餘所、遠方。

わぎ(名)(南、平) よそ(他所)。

わぎのひと(連)(雄) 他家の人。

わぐ(動四)(平) 醗酵する。

「酒がわぐ。」

わけ(名)(雄) わきが(腋臭)。

わけし(名)(仙) 若者。

わけもの(名)(鹿、北、山、南、平、雄) 若者。

わけわがらね(連)(平) 譯が分らない。

「あの人はわけわがらねも人だ。」

「わすってしまった。」

わすら(名)(仙、平) 悪戯。

わつためぐ(動四)(平) 熱心に働く。

「夜晝わつためぐ。」

わつたり(副)(平) 強く。

「わつたり叩いた。」

わたわた(副)(雄) 一所懸命に。

「わたわた働け。」

わたわた(副)(仙、平、雄) 一所懸命。

「わたわた走れ。」

わたわた(副)(平) 一所懸命に。

「わたわた走れ。」

わちやぎ(名)(鹿、平) 薪。

わちわち(副)(平) ひどく。

「わちわち働く。」

わんつか(副)(鹿、南、雄) 僅。

わの部

わっつぎ〔平、雄〕 薪。
 わっつら〔名〕〔南、河〕 悪戯。
 わにる〔動上一〕〔平〕 きまり悪るがる、はにかむ。
 「わにる兒だな。」

わねお〔代名〕〔南〕 お前(目下の人に用ふ)。

わっぱ〔名〕〔北、南、河、仙、平、雄〕 まげもの。

(曲物)

わっぱか〔名〕〔雄〕 し事の量の割當。

「此のし事をお前のわっぱかにするから出来たら遊んでも善し。」

わっぱが〔名〕〔北、南、河、仙、平〕 割前し事。

わっぱり〔名〕〔平〕 上羽織。

わっぼろ〔名〕〔鹿〕 上衣。

わめおぐく〔動四〕〔平〕 騒ぐ、わめく。

「わめおぐな、やかましし。」

わらくたな〔名〕〔平〕 藁屑。

わらし〔名〕〔全縣〕 子供。

わらしだ〔名〕〔仙、平、雄〕 子供がた。

わらしど〔名〕〔鹿〕 子供等。

わらわら〔副〕〔平〕 一所懸命。

「わらわらやれ。」

わらわらど〔副〕〔仙〕 ささと急いで。

「わらわらど早く行って来い。」

わり〔形〕〔南、仙、平、雄〕 はづかしい。

「わりくてゆかれない。」

わり〔形〕〔鹿、南、市、河、雄、由〕 わるい(悪い)

「あれはわり人だ。」

わりえ一〔名〕〔平〕 割合、分け前。

わりかる〔動四〕〔平〕 わるびれる。

「大へんわりかる人だ。」

わんこあらえ〔名〕〔仙〕 みづすまし。

ん

わんざに〔副〕〔南、平〕 わざに。

「わんざに來て呉れてありがたう。」

わんじやに〔副〕〔鹿、平〕 ことさらに、態に。

「太郎はわんじやに邪魔した。」

わんじえん〔副〕〔由〕 態に。

「わんじえん行って來た。」

わんちか〔副〕〔雄〕 すこし(少し)。

「わんちかしか無かった。」

わんつか〔副〕〔平〕 少し。

「わんつかで良いからくれ。」

ゑん〔名〕〔雄〕 上。

ゑる〔動下一〕〔雄〕 うゑる(植ゑる)。

「その苗もゑれ。」

ん

んん〔感〕〔全縣〕 はう。

甲「これを持って行け。」乙「ん。」

んん〔助〕〔雄〕 に。

「書きん行く。」氣んかける。」

んか〔連〕〔山、平〕 いやだ。

「そんな事はんか。」

んか〔代名〕〔全縣〕 お前(卑語)

んかえたもの〔連〕〔山〕 お前のやうな者。

んかめめ〔代名〕〔北〕 汝輩、汝奴。

んかよたもの〔連〕〔平〕 貴様のやうな。

んかからだ〔代名〕〔山〕 汝等。

んこ〔名〕〔全縣〕 大便(小兒語)。

んさ〔連〕〔平〕 さうだとも。

「んさ、當然だよ。」

んた〔連〕〔南、河〕 いやだ(嫌だ)。

「買ひに行くのはんた。」

んだ〔連〕〔全縣〕 さうだ。

「んだたて、知らなかったもの。」

ん の 部

んだえてが(連)〔平〕 それだから。

「んだえてが、早く行けばよかった。」

んだおの(連)〔平〕 さうなもの。

「んだおの、早く死んだのだ。」

んだけ(連)〔雄〕 さうでした。

「んだけ、私も見て知ってる。」

んだけ(連)〔平、雄〕 さうだったよ。

んだけ(連)〔平〕 さうだった。

「行って見たら、んだけ。」

んだけ(代名)〔北〕 我等。

んだけ(連)〔平、雄〕 さうですか。

「んだけ、怪しいぞ。」

んだけなんす(連)〔平〕 さうでしたね。

んだごたら(連)〔雄〕 そんなら。

「んだごたらからうしてくれるぞ。」

んだし(連)〔雄〕 それだから。

「んだしえてさうしなければよかった。」

んだした(連)〔平〕 さうですよ。

んだし(連)〔平〕 さうだよ。

んだんして(連)〔雄〕 さうですから。

んだたて(連)〔南、平、雄〕 だて。

「んだたてやるもの。」

んだて(連)〔雄〕 さうだて、それだて。

「んだて、知らなかったもの。」

んだて(連)〔雄〕 さうですよ。

「んだて、誰が何と云っても。」

んだてが(連)〔北〕 さうだから。

「んだてが、行くなと言ったのだ。」

んだても(連)〔平〕 それでも。

「んだても、やるもの。」

んだてる(連)〔由〕 さうであらう。

んだど(連)〔平〕 さうだと。

んだべじゃな(連)〔北〕 さうだらうな。

んだんべた(連)〔平〕 さうだらうさ。

んだべな(連)〔雄〕 さうだらうよ。

「んだべな、きっとそんな事があると思った。」

んたやは(連)〔由〕 いやですよ。

「あの人んたやは。」

んだよた(連)〔由〕 さうだやうだ。

「君の云ふこともんだよた。」

んだら(連)〔平、雄〕 そんなら。

「んだら、かうしてくれないか。」

んだんしが(連)〔雄〕 さうですか。

「んだんしが、私はちっとも知らなかった。」

んだんしべ(連)〔雄〕 さうでせうよ。

「んだんしべ、私もさう思ってた。」

んだんす(連)〔平、雄〕 さうです。

甲「お嬢さんは七つですか」、乙「んだんす。」

ん の 部

んだべしゃ(連)〔仙、平〕 さうでせうよ。

來なす。

「んだんべが、僕はどうしても信ずることが出

んだんべが(連)〔雄〕 さうでせうか。

甲「これは梅の實か」、乙「んだんべ。」

んだんべ(連)〔北〕 さうだらう。

「んだんべ先に行く。」

んだの(連)〔平〕 さうだ(然り)。

「んだなんし、ではさうしませう。」

んだなんし(連)〔平〕 さうですね。

んだな(連)〔平〕 さうだね。

んだどんし(連)〔平〕 さうださうです。

「んだんども駄目であった。」

んだんども(連)〔全縣〕 さうだけれども。

「よくきいたら、んだど。」

ん の 部

んだんべてあ(連)〔平〕 さうであらうよ。
んて(副)〔全縣〕 澤山。

「あの人から菓子なんてもらった。」

んで(名)〔南〕 腕。

んであ(連)〔北〕 さあ。

「んであ、早く行くべし。」

んでねあけは一(連)〔平〕 さうでなかったよ。

んでねあてあ(連)〔雄〕 さうではありませんよ。

「んでねあてあ、かうですよ。」

んでねあんし(連)〔平〕 さうではありません。

んでねあんすや(連)〔平〕 さうではありません

よ。

んとと(副)〔全縣〕 たくさんに。うんと。

「んととくれ。」

んとせあ(接)〔平〕 それから。

「んとせあ學校へ行って来た。」

んどつら(名)〔河、由〕 惘然。

んどつらし(形)〔南〕 かなしい。かはいさうな。

「この冬に足袋もはかないで、んどつらし兒

だ。」

んとて(副)〔河〕 一所懸命に。

「んとて働いた。」

んな(副)〔南、河〕 皆。

「んな食った。」

んな(代名)〔仙〕 汝。

「んな、何をしてゐる。」

んなから(副)〔由〕 皆。

「んながら来い。」

んなごと(名)〔平〕 胸。

んなる(動四)〔仙〕 呻る。

「病氣が重くなつたと見えて、んなるやうになつた。」

んまれる(動下一)〔全縣〕 うまれる(生れる)。

「赤ちゃんがなまれた。」

んまんこ(名)〔山、南〕 子馬。

んみ(名)〔仙〕 膿。

んめ(名)〔全縣〕 梅。

んめあ(代名)〔南、河〕 お前。

んめあ(形)〔山、平、雄〕 甘い。

「砂糖の様にんめ菓子だ。」

んめあお(名)〔仙、平、雄〕 菓子。

んめあがた(代名)〔雄〕 あなたがた。

んめける(動四)〔南〕 かへる(孵)。

「雀の卵がんめけた。」

んめあこ(名)〔鹿、河〕 菓子(小兒語)。

んめあもの(名)〔全縣〕 菓子。

んめる(動下一)〔平、雄〕 うづめる(埋める)。

「その穴をんめれ。」

ん の 部

んにあ(感)〔全縣〕 いや(否定)。

んにあだもの(名)〔平〕 汝如きもの。

んによ(名)〔南、雄〕 稻を積み上げたるもの。

んね(感)〔由〕 否。

「んね、私は知らない。」

んば(名)〔仙〕 老婆、祖母。

んば(名)〔由〕 乳母。

んば(名)〔河〕 次女以下の女兒の稱。

んば(名)〔南〕 をば(伯叔母)。

んばちち(名)〔平〕 うつぼぐさ。

んませり(名)〔平〕 大芹。

んまぬり(名)〔平〕 あめんぼ一(動物の名)。

んまのそ(名)〔平〕 馬の尾(釣に用ひる)。

んまのちかな(名)〔仙〕 大黃。

んまもの(名)〔河、雄〕 秣。

んまれそごなれ(名)〔南〕 意氣地なし(卑語)。

カードより刷卷となるまで

本書編纂の目的及びその経過は、それ／＼巻頭に述べられたれば、今更喋々するの要もなからう。さりながら編纂印刷のわざにたづさはつて来たわが感想の一端を述べて、後學の士の手引とするも強ち無益ではあるまいと思つて、拙き筆を走らせる事とした。

いとをこがましき事なれど、小生が方言の研究に興味を覺えたのは日清戦役直後の事にして、其の研究は鳥取縣教育會雜誌に載せてある。

明治三十三年十月、職を秋田中學校の前身たる第一中學校に奉じてより、彼の土と此の地とに於ける方言の比較研究に思ひを馳せた。秋田方言と出雲方言との間には似通へるものが多いので、これは必ずしも偶合ではあるまい、其の間には何等かの因果關係が潜在するのであらう、或は同じく日本海の沿岸なれば、民族の移動等に基因するのではあるまいかなどと説く者があつたが、これは大いに傾聽すべき言であらう。中には出雲の藩主は松平出羽守である、彼此の間に類似の認めらるゝは當然である、などと、臆面もなく無稽の説を述べ立てるものもあつた。此等の説は其の當否の如何を問はず、予の比較研究に對しては一段の興味をそゝることとなつた。

日露戦役の發つた前年の夏、文部省主催の講習會に出席の命を受け、東京帝國大學に於て上田教授の國語學概論、保科助教授の方言、新村助教授の音聲學等の講筵に侍し、かつは舊稿形容詞の語尾論の覽觀を賜はり、我が蒙を啓くを得たことは多大であつた。

明治四十二年の夏の頃、同僚と共に秋田縣方言音韻及口語法を著し、四十四年鉛槧に付するに當り、狹義なる方言の範疇を考案して、其の巻頭に掲げて置いた。八月、藤岡博士の國語學概論の講筵に列なり、其の修訂を賜はるの光榮に浴した。

大正三年四月、秋田縣史の方言篇として音韻・語法・語彙を編纂し、且秋田方言考をものしたが、故あつて方言篇は印刷に付するに至らなかつた。當時の語彙は品詞別とし、其の名詞は古の我が辭典に倣ひて、天體・曆時・方位・氣象・地理・礦物・植物・動物・人倫・身體・服飾・飲食・家屋・器物・雜等十有五の目を立て、各五十音圖順に排列した。

小生にはかゝる經歷あるを以つて、三萬有餘のカードを整理するに當つても、此の案を提出して一旦委員諸氏の賛向を得て、小林(仙北郡)加賀谷(平鹿郡)及び予(由利郡及び鹿角郡)の三人は鋭意其の業を終へたのであつた。然るに半歳を経て他の委員の間に異議起り、我々三人の努力は全く水泡に歸した。予は二君に對して謝すべき言葉がなつた。

カードの整理は更始一新に向つて進まねばならなくなつた。郡別にいろは順との説も出たが、やはり全縣を通じて五十音順に排列する事となつた。カードには平鹿、河邊の一部を除いては、多くはアクセントの表記が漏れて居たので、先づ其の記入を施す事となり、其の分擔は當該郡市出身の委員とした。

雄勝郡	佐藤 信義
仙北郡	小林 謙吉
河邊郡	今 欣吾
	佐賀 藤松
	加賀 谷修三
	高橋 政和
秋田市	中川 秀松
南秋田郡	渡邊 俊一
山本郡	

由利、平鹿、北秋田、鹿角四郡には出身の委員がなかつたので、由利は松戸久治君(由利圖書館)に、平鹿は細谷則理君(横手中學校)に、北秋田は佐藤武彦君(大館中學校)にそれ〴〵依頼する事にした。鹿角郡は其の郡内に適當な人の有無を知らなかつたので、予が擔當として、花輪方面のは秋田中學校教諭木村長吉君に、毛馬内方面は五學年生勝又七郎君に依頼し、その責を果したのである。こゝに兩君の厚意を謝する。

かくて予の手許に於て、其中より一目音韻變化に關係ありと認められるものを抜き出で、音韻篇の資料とした。

昨夏三伏の候、數回に涉り、中川君、加賀谷君及び予の三人、秋田中學校舎監室に於て、いつも朝露繁き庭草を踏みしだいて集まり、室内隈なく夕日を浴びる比ほひまで、左の事項を題目として討究をこらした。

- 一、無聲母音は如何なる場合にあらはれるか。
- 一、鼻母音は如何なる場合にあらはれるか。
- 一、エの開いた音は如何なる場合に現はれるか。
- 一、無聲音が如何なる場合に有聲音となるか。
- 一、セの^エseと發音されるものと、シェ^{she}と發音されるものとを甄別する事。
- 一、ヘの^エheと發音されるものと、フェ^{fe}と發音されるものとを甄別する事。
- 一、鼻母音とはねる音とを甄別する事。
- 一、アクセント所在の吟味。

等で、相互に大いに益する所があつた。殊に予が方言研究には一紀元を劃するものがあつたと言はねばならぬ。こゝに特筆して厚く兩君に感謝する。

音韻篇の稿の成つたものは其のカードを語彙の主任に回送し、語彙の主任はこれを整理しつゝ語法に關するものは次から次へとその主任に轉送した。音韻篇の印刷に着手したのは四月の下旬であつた。予は其の廿二日には五學年生修學旅行の附添として、京阪地方に出張の命を受けて居たので、其の前一週間許は音韻篇の修訂に殆ど寢食を忘れる程であつた。しかも其の出來上つたものは遼東の冢で、一向何の特色もないものである。けれども片輪の兒は一層かはいゝとか、長い陣痛で、大いに苦しんでやつと生み落したものであれば、いとほしい事は他所の見る目も恥しい程である。語法は縣南の細谷君、中央部の佐賀君の如き方が、たづさはられたものなれば、斯學の權威たる事は勿論である。唯、豫ねての示し合せの表記法を採られなかつた爲、印刷の際に可也手数をかけた。その他には動詞のタ行四段活用のダジズデと表記すべきものは、適當の命名法が思ひ浮ばないので、不統一ながら、己むを得ずタ行四段の稱と表記法とをその儘踏襲する事にした。語彙は中川、高橋兩君の原稿整理や、印刷校合や、その勤勞、その努力、筆紙に盡し難いものである。

排列には當然改訂を要すべきものもあつたが、變更しなくても善かつたものまで自分の偏見で變更を試みたので、虞らざる面倒を惹き起したのは自業自得である。が爲に印刷所に多大の煩勞を負擔させたのは大いに氣の毒であつた。

又所々表記、アクセント、兩つながら同様の語があつた、此の場合には一つを削除した結果印刷所に餘りに迷惑をかけない様に、同じ頁の中に收むべき語を、わが前著の中より探り出でて、補填したのは人知れぬ苦心であつた。又片假名のメをナに見誤つて排列されたと云ふ様な類もあり、「しみさ」と云ふ語に「しなの中の菜」と云ふ解あるを「しるの中的菜」と改訂する迄には随分頭を捻り時を費した。又自分の寡聞よりして例へばタチットとあるのをタラットの魯魚と思ひ、ヤシベシとあるをヤツベシの焉馬と考へ、此處に問ひ彼處に尋ねて、漸くにして自分の無識を悟り、ひとり苦笑せざるを得なかつた事もある。も

う一つ言はゞ連語と云ふのが餘りに多い感がある、中には語法篇に讓つて削除しても善いのが可也あるやうに思はれる。さては夥しい組み替へをせねばならぬので、しばらく舊のまゝにした。音韻篇の校合に頗る遺漏があつた、例へば第一章第二節無聲母音一、きの母音が無聲母音となる場合(二)ら行音の前にあるときき一りき一りであるべきをくりくり坊主とした類があり、残念千萬である。が、氣のついた時はすでに本刷を終へた後なので、如何ともし難く、せめて、語法篇、語彙篇のでもと思ひ、自分の第二次的校合すらも少きは五六回より多きは十數回に及び、暑中休暇は殆ど全く此の業に没頭して、尙九月の中旬に及んだ。

本書の題簽は委員謙堂高橋政和君の揮毫を煩し、裝幀は同僚赤川佐藤七之助君が或官衙に祕藏された寫真によつて考案を加へられたものである、こゝに記して厚く兩君に感謝の意を表する。

カード整理委員にして由利郡を擔當すべきであつた佐々木高一君先づ疾病の爲に退き、佐藤信義君横手に轉じ、小林謙吉君は二豎の爲に斃れ渡邊俊一君は山本に去り、加賀谷修三君高橋政和君亦裝釘を見ずして或は大阪に或は東京に雄飛された。而して終始予の駑駘に鞭撻を加へて激勵された西居校長も、遂に職を辭して西都に卜居された。完成の曉に方つて往時を追へば茫茫として夢の如くである。

願れば今よりして四年以前の夏期休業中であつた。一日吉村秋田圖書館長より招かれて圖書館に參つた。會する者館長、熊谷縣視學、男子の田中主事、女師の丸山主事及び予の五人であつた。五人が卓を圍んで談じ合つたのは秋田方言編纂の件であつた。

仄かに聞く所によれば畏れ多くも 今上陛下のいまだ 東宮におはせ給ひし頃 鶴駕を本縣へ進めさせられた際に、近く有司を御召になつて、教育産業等一層の振興を期すべき旨を仰せられた。爾來當局に於ては台命に副ふべく種々腦漿を絞られたといふことである。

大正十五年、郡役所廢止と共に縣廳の組織も變更され、當時の尾池教兵課長は學務部長に榮進し、同

時に視學をも増員して、陣容を新にされた。此の更新の機會に際して、本縣が國語學習上極めて不利の立場にあるを慨し、其の教育を一層徹底せしむべき一助として、先づ方言蒐集編纂事業を企圖し、更に其の矯正案をも得て全縣教育の總動員を行ひ、其の効果を完うすべき豫定で、其の委員を囑託さるゝの運びに至つたのは、秋風の冷かなる頃であつた。

着手より滿三年の間、長い眼を以て悠々迫らず、一任された學務當局に對して、カード整理委員代を表して深く厚く感謝の意を表して筆を擱く。

昭和四年九月太神宮式年遷宮前儀御戸祭の日

委員長 大山宏識す

昭和四年十月廿八日印刷
昭和四年十一月一日發行

【非賣品】

編輯兼發行人

秋田縣學務部學務課

秋田縣學務部學務課

右代表者 高橋熊五郎

秋田市檜山廣小路三番地

印刷者 柳原庭之助

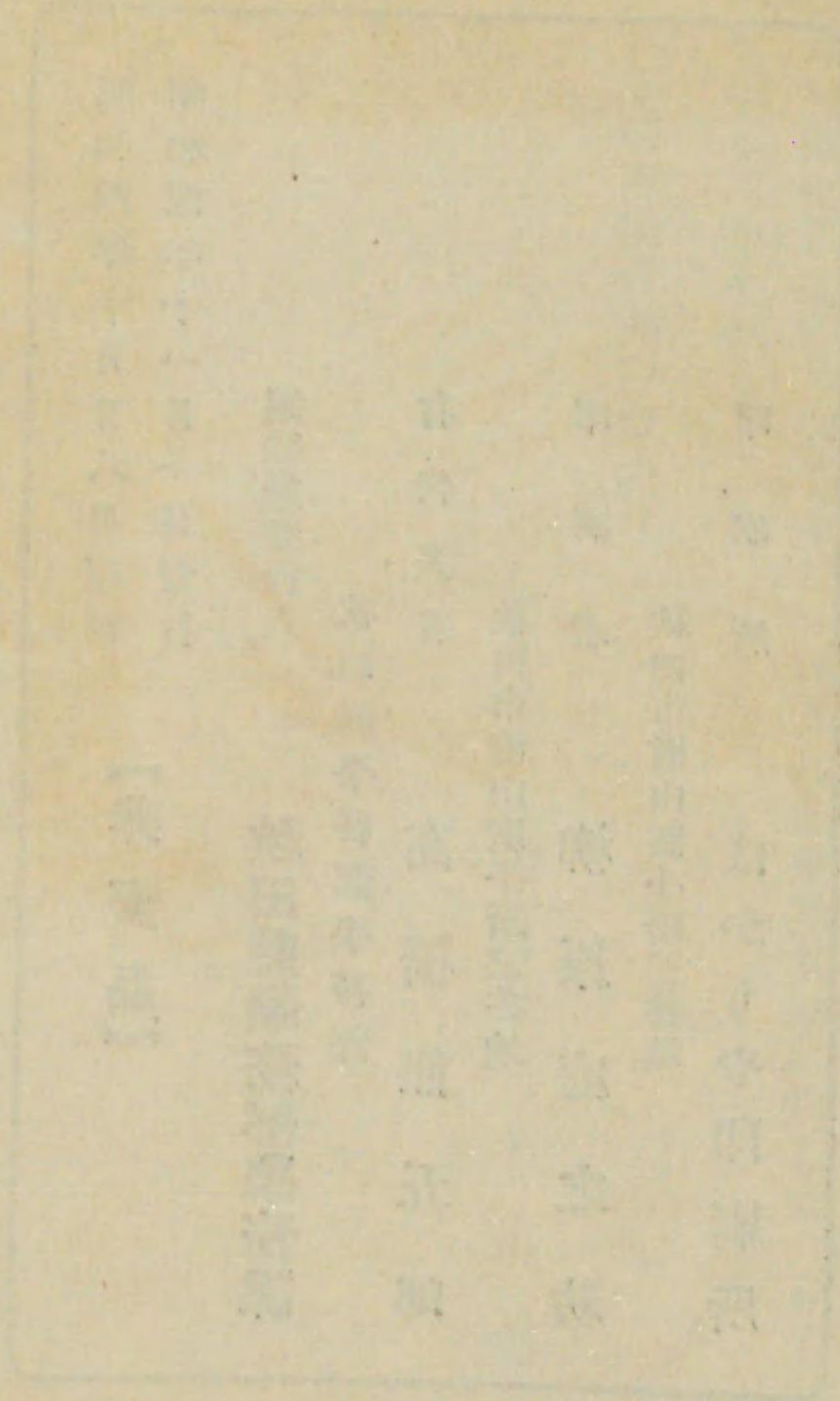
秋田市檜山廣小路三番地

印刷所 はかりや印刷所

NANY
MOT
店



1. 10. 24

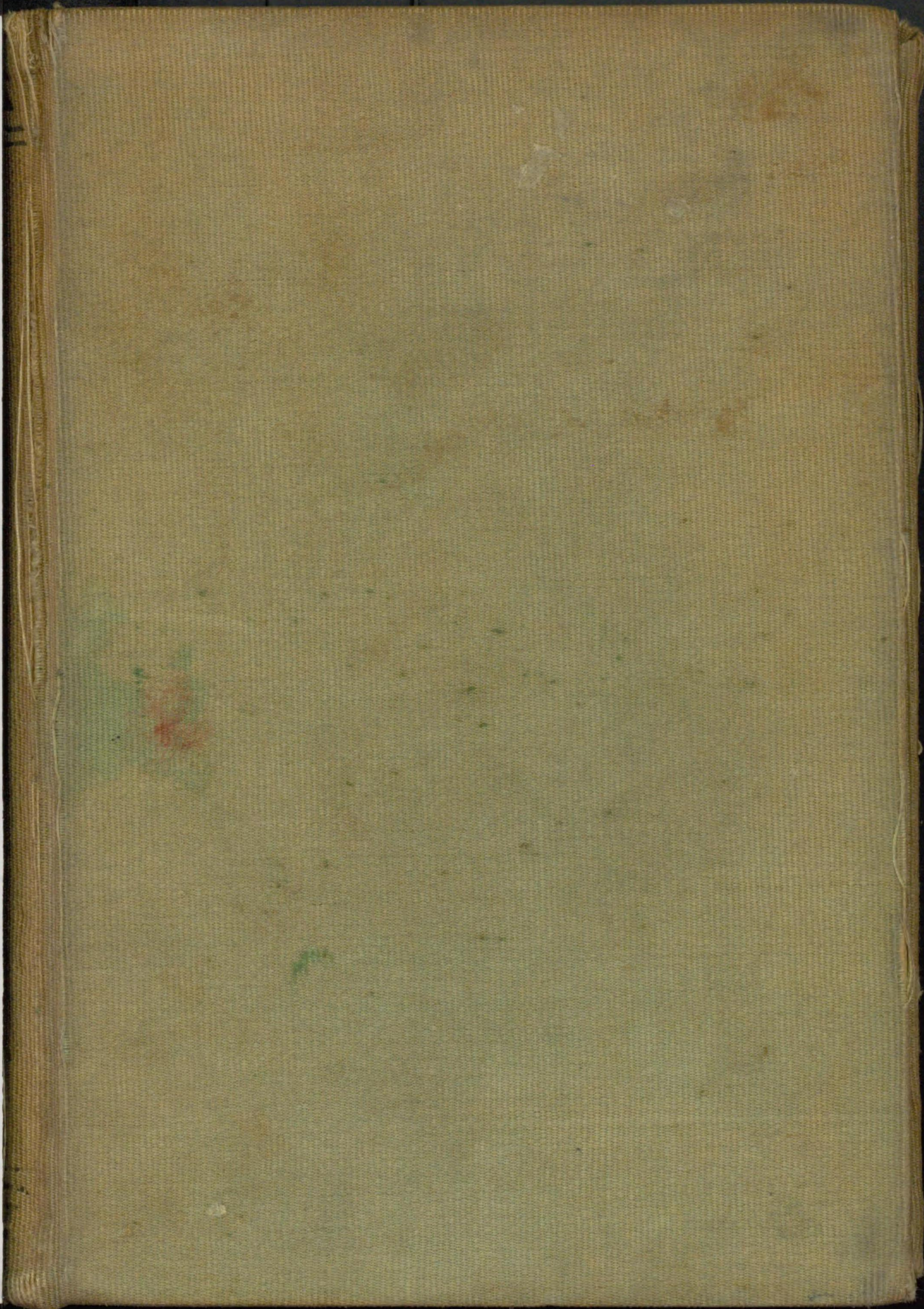
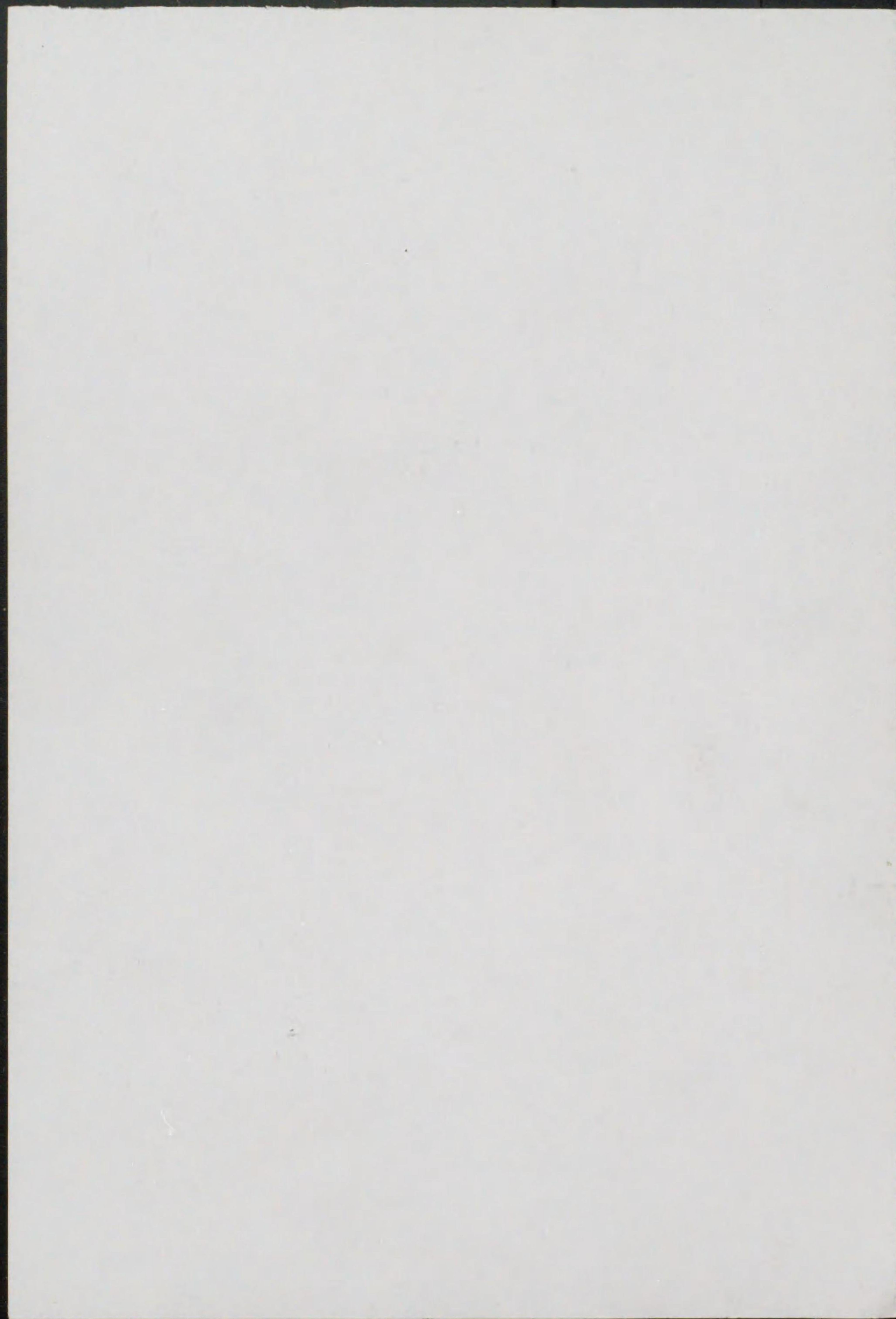


NANYODO BOOK-STORE
MOTOMACHI HONGO
TOKYO

店本堂陽南

700
24



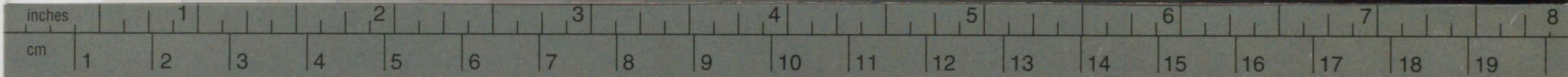


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

